

始



世に知らぬぞる

問題の真相

編部輯編聞新日日都京

世に知らぬぞる

問題の真相

編部輯編聞新日日都滿

特 202
434



世に知られるる

問題の真相



はしがき

問題の真相を知りたいといふのは、あらゆる階級を通じての人々の求むるところである。而もこの希望が容易に満たされない。

然るに「帝都日日新聞」の『電話問答』欄はかうした読者の希望を満たしつゝ、非常な好評を博してゐる。

今、紙上に掲げられたものゝ中より、特に興味ある分だけを輯めて『世に知られざる問題の真相』と名づけ、世に送ることにしたのが本書である。

政界、財界の問題は云ふまでもなく、社會の各方面に亘つて、種々の問題を捉へ、世態人情の機微に觸れるところも頗る多い。世人の一讀を勧める次第である。

昭和十六年一月十三日

帝都日日新聞編輯局

世に知られざる問題の真相 (目次)

- 内閣改造と木戸内府の動き……………(三)
- 【附けたり】 △平沼と柳川は「赤」退治として △カン／＼に怒つた衆議院議員
- 近衛公は何故に伊澤多喜男と會見するか……………(八)
- 【附けたり】 △解黨を漚つた民政黨の肚と財閥 △滑稽な男となつた久原房之助
- 伊澤多喜男はナゼ樞府に入つたか……………(一五)
- 【附けたり】 △蘭印はフザけてゐるぢやないか
- 近衛公はナゼ決死の覺悟をしたか……………(一九)
- 【附けたり】 △流石に中島の態度は甚だよかつた △新黨問題をめぐる智慧の秋田 △久原は政界を引退してソ聯へ行くとか

近衛公に送らうとした血判状……………(二七)

【附けたり】 △阿部前總理がやめる時の一挿話

近衛家の家賣り立てには反對……………(二八)

【附けたり】 △近衛さんの腰は碎けないだらうか △再び掲げられた打倒英

國の大看板

星亨や原敬のヤリ方と近衛の腹藝……………(二九)

【附けたり】 △却々味をやる近衛公の組閣ぶり

鮎川義介がヒツトラーのことづけを近衛公に傳へた内容……………(三〇)

【附けたり】 △有難き御恩賞と財界人の問題 △鮎川と岸と松岡に絡む或る噂 △久原が西園寺公訪問の裏面

近衛首相のために最も忠勤なのは誰か……………(三一)

【附けたり】 △小さくなつた櫻内前蔵相のヤリ口 △島田俊雄オミクヂのこと

有馬伯は爵位を拜辭して活躍せよ……………(三二)

【附けたり】 △近衛公は今後どんな手を打つか △永井柳太郎と秋田清を是非とも

都新聞『新聞報國』の正體暴露……………(三三)

【附けたり】 △笑はせる無償提供の大見得

盛り上る下からの力を待つといふ近衛公の眞意は何處にあるか……………(三四)

【附けたり】 富田書記官長は代議士がお嫌ひ?

近衛家は公爵を拜辭しても……………(三五)

【附けたり】 △澁澤榮一翁一代の大失策は何か

どういふ所に近衛首相の弱點はあるか……………(三六)

【附けたり】 △書記官長だけは何んとかして △今にして尙ほ政黨の無力を嘆ずる

思ひ切つた中島知久平氏の言葉……………(三七)

【附けたり】 軍部も官僚も聴くがよい

小林商相の歸朝談は本當か (七)

【附けたり】 △結局シンガポールを叩くの外ない

芳澤さんは何故蘭印に行くか (七)

【附けたり】 △あの粘り強さでお手並を

頭山先生の會でなけりや見られぬ圖 (七)

【附けたり】 △松岡外相が大氣焰をあけた △議員俱樂部總會で騒いだ連中

△上海テロ撲滅に獨逸式の手を打て

松岡外相も何かやるだらう (八)

【附けたり】 △國民はシビレを切らしてゐる

邪魔物樞密院と言はるゝ勿れ (八)

【附けたり】 △中小商工業者の問題はどうか

御殿女中のやうな貴族院の内幕 (八)

【附けたり】 △研究会に有馬伯への反感がある

大政翼賛會に面白からぬ貴族院 (九)

【附けたり】 △有馬頼寧伯に對する反感 △前田米藏にあきたらぬ者 △一番イケない伊澤多喜男

これは翼賛會の大問題だ！ (九)

【附けたり】 △岡田總務の舌禍事件起る △翼賛會山口縣支部が憤起

岡田忠彦失言の内容はこんなもの (一〇)

【附けたり】 △鳩山系・舊民政系不爆發のいきさつ △屬僚政治の内幕

△恥も外聞も知らぬ安藤正純代議士

有馬、近衛の捨て身の決心を聞いて (一一)

【附けたり】 △總動員法が出た時の伊澤の言ひ分

翼賛會の費用は有馬伯が〇〇銀行から借りてゐるとの噂 (一二)

【附けたり】 △有馬頼寧失言を取消せ △婦人局必要の辯 △議會の世話人

百人とは △人選のトンチンカン

早過ぎる新体制促進同志會の解散……………(一三六)

【附けたり】 △金融界からナゼ準備委員を採らなかつたか

新体制に老人を引出すとはこれ如何に……………(一三九)

【附けたり】 △久原・鳩山葬りのこと △旗行列提灯行列はどうした

買溜の親玉は講談社と富山房か……………(一四三)

【附けたり】 △久原の大口喜六引出しの凄腕 △池田さんは轉向ですかね

新黨で飛び廻る久原の裏に金問題あり……………(一四〇)

【附けたり】 △財界巨頭が近衛さんへの希望 △新黨で鳩山一郎の大苦悶
△新黨と有馬頼寧と河原田稼吉のこと

久原が參議を辭めた魂膽……………(一三七)

【附けたり】 △二・二六事件の一人が久原を評して曰く

久原派解黨の裏面ばなし……………(一五二)

【附けたり】 △町田總裁は政界引退のこと △歸朝する小林一三さんに御忠告

民政黨が解黨した内幕をブチまける……………(一五五)

【附けたり】 △町田總裁と永井・櫻内・櫻井らの動き

砂田等が鳩山救済に策動した滑稽ばなし……………(一五八)

【附けたり】 △久原さんの英雄的不徳の結果

丸め込まれた東京朝日と久原・鳩山の一致團結問題……………(一六二)

【附けたり】 △久原が聲明した内容の一句

朝日新聞の嘘記事の出演所……………(一六五)

【附けたり】 △私情のために嘘を書くとは

『週刊朝日』のウソ八百記事を繞りて……………(一七〇)

【附けたり】 △近衛公と風見と新黨問題の喰ひ違ひ △中島と風見と船田中の行違ひ △民政黨を飛出してからの風見

大新聞の紙面を一新せしめた『帝日』へ注文がある……………(一八〇)

【附けたり】 △有馬伯の早まつた豫想的の言葉

大新聞は何故獨伊の國旗を出さぬのか……………(一五)

【附けたり】 △驚いた帝日屋上の祝賀ぶり

都新聞は政府を翻弄してゐる……………(一九〇)

【附けたり】 △政府も一言なくてはなるまい

讀賣新聞その他への忠告……………(一九四)

【附けたり】 △婦人・經濟雜誌の統制問題

讀賣新聞の頓珍漢ぶり……………(一九六)

【附けたり】 △平沼入閣の辯で汗ダクダクの態 △國士頭山滿先生を見損つ

たか △古株の大將がたでどうなるか

日本は直ちに英國に對し斷乎たる舉に出でよ……………(二〇六)

【附けたり】 △今にして當局は『帝日』の先見を知れ △クレイギーさんど

うなさいましたか

英國にも學ぶべきものあり……………(二四)

【附けたり】 △樞密院をかういふ風に改造せよ △出版文化協會長に鷹司公

爵とは △新聞雜誌の統制とその裏おもて

左の頬を叩かれて更に右の頬を打たしむる外交は御免だ……………(二三)

【附けたり】 △松岡外相と野村駐米大使に

淺間丸船長の腰抜けと高田屋嘉兵衛の意氣……………(三九)

【附けたり】 △幕末志士の氣慨が偲ばれる

淺間丸で歸朝した在米日本人の憤激……………(三三)

【附けたり】 △生命財産を保障されぬ在米同胞でも

スパイ問題で英國の強辯を挫く……………(三八)

【附けたり】 △英國との友好關係は眞ツ平御免だ △逮捕英人を斷じて釋放

するな

秘密を洩すは親英派だ……………(四六)

【附けたり】 △米國はまア冷靜になるがよい

遺族の一人として偽らざる氣持を……………(五〇)

【附けたり】 △田舎の人は實に偉いものです △英獨空中戦の真相と兩國の飛行機 △ソ聯、樺太、その他の問題

三國同盟を靖國神社に報告せよ……………(三五)

【附けたり】 △中島氏は何故參議を受諾したか

出來したり武藤軍務局長……………(三五)

【附けたり】 △同盟祝ひの旗・提灯行列を提案

乃木神社と東郷神社の大小について……………(三六)

【附けたり】 △松岡さんの稚氣は愛すべしかネ

重大な手落をした二千六百年奉祝會……………(三五)

【附けたり】 △市中のお祭りと警察官のこと

『臣宣仁』の御言葉への感激……………(三七)

【附けたり】 △式典參列者からの懇願 △近衛公と有馬伯は丸腰になれ

龍顔を拜し奉る事について……………(三七)

【附けたり】 △新體制は先づ政府から範を示せ

陛下の警察官とは……………(三〇)

【附けたり】 △これだけは安井内相に感服した △國體に照して日本は法治國か徳治國か

無血革命とは何だ……………(三五)

【附けたり】 △新體制の方もシツカリたのむよ

恩賞に財人と官吏の差別は如何……………(二八)

【附けたり】 △存外にトクをしてる官吏の生活

明年の總選舉をどうするか……………(三五)

【附けたり】 △代表者を各方面から出すこと

東京と横濱を合併せよ……………(二六)

【附けたり】 △京濱港は是非とも實現するやうに △翼賛會に入らない議員は誰々か △伊澤多喜男が近衛公を訪問した話

横濱の騒ぎは大き過ぎる……………(三〇一)

【附けたり】 △ナゼ東京港の開港は必要であるか

京濱港が出現しても横濱へは無影響……………(三〇六)

【附けたり】 △横濱のお歴々と代議士へ呈する苦言

荒木大將が參議を斷つたのは何故か……………(三三三)

【附けたり】 △二貫目瘦せた運のいゝ松岡外相 △朝日新聞は獨・伊の國旗を掲げた

宇垣、荒木の兩大將と伊澤多喜男の動き……………(三三九)

【附けたり】 △翼賛會は議會局が斷然光る

七代議士が衆議院の議員俱樂部に加入せざりしは何故か……………(三四四)

【附けたり】 △尾崎氏は田川代議士に一任した △大石代議士のエライ氣焰 △選舉權は臺灣にも朝鮮にも △下落した近衛公の信望を見る

議會開設五十年の式典に安藤正純代議士の演じた不謹慎……………(三四)

【附けたり】 △原惣兵衛代議士等カン／＼に怒る

どうかしてゐる安藤代議士の講演ぶり……………(三五七)

【附けたり】 △日本民族を獨逸より劣等と見るのか △三國同盟がドイツのみに利益とは何事か △安藤の佛教徒が聞いて呆れる

女學生鐵砲訓練の馬鹿……………(三六六)

【附けたり】 △東日も東日だが學校も學校だ △支那兵が五百萬死んでも蔣は參らぬ △近衛首相と松岡外相の肚の中は？

元旦のお互は先づ何を考へるか……………(三五二)

【附けたり】 △宮城を遙拜する日本國民の心情

二重橋前での南無阿彌陀佛について……………(三五八)

【附けたり】 △「望月さんと私」を読んで

望月先生のやうな信者になりたい心……………(三五九)

【附けたり】 △他力信仰の極致こゝにあり

珍らしい望月先生の葬式に参列して……………(三五)

【附けたり】△凡ゆる方面の會葬者が集まつたのは何故か

政府は各層の有力者を招待して何をするか……………(三五)

【附けたり】△望月圭介翁の遺産・遺言は如何

死に就いた頼母木市長と左團次は何に生れ代るか……………(三五)

【附けたり】△死後の問題を解決する只一つの鍵 △地獄極樂は本當にある
のか

市長選挙で若槻が大久保に負けた真相……………(三六)

【附けたり】△憤激を買つた三木武吉一派の態度 △永井と伍堂、三木と大
神田

これこそ日本一の最大問題……………(四三)

【附けたり】△新聞雑誌の統制と新聞押賣のこと △相撲協會にも新體制が
必要

演説を聴けなかつた代りに……………(四九)

【附けたり】△天下の公器を賣物にするもの

本願寺からイクラ貰つたか……………(四三)

【附けたり】△野依社長の講演活動と費用の出所

買収費は二萬圓に非ず五萬圓也……………(四九)

【附けたり】△古い歴史ある「東京毎日」を「帝日」が買収

風見章、山下太郎の媚を蹴る……………(四三)

【附けたり】△大西の收容と「帝日」の意氣 △東京朝日も随分インチキだ

—— 目次・了 ——

世に知られざる

問題の真相

内閣改造と木戸内府の動き

(附けたり)

△平沼と鮎川は「赤」退治として

△カン／＼に怒つた衆議院議員



讀『今日の自由論壇を見て、我輩はつく／＼帝日を最眞にする氣になつた。近衛に對し高所大所から見て同情を寄せたあの態度には、大いに敬意を表する。そして丸で近衛を眼中に置かない、近衛を子供扱ひにして、しかも近衛を盛り立てて行く態度が大いによかつた、帝日の態度がどこまでも國家本位で超然としてゐるところが氣に入つた』

記『どうもありがたう、そりや、全くさうなんです。帝日は小新聞でもおそれながらお上以外と皇族以外は何ものも眼中になく、國家本位に斷然進むのです。何にしても新聞は材料がなくては困りますから、この點に於ては盡力願ひます』

讀『よろしい、それちや内閣改造に就て差支ない範圍に於てやらうかね。平沼が出たのは近衛としては政府が赤ちや／＼などといはれた日にやたまつたものでない、そこで政府は半赤で

もないといふのを明かにしたために平沼が出たのさ』

記『さうですか、成程、平沼さんが出られれば總理大臣としてはそれ程のものではないが、内相としてはやつて呉れるでせう。本當に赤退治をやるのなら、自由主義のぬけきらない新聞や雑誌、資本主義のぬけきれない新聞や雑誌の強制廢刊をやつてもらひたい、その勇氣が平沼さんにありませうか』

讀『さうだね、全然やれない事もあるまい。差當り東洋經濟、ダイヤモンド、エコノミストの三大經濟雜誌位は斷壓しやうし、新聞も何とかするだらう。富田内閣書記官長だね、あれを取り換へないといふ事はない。宮田光雄位を書記官長に復活してはどうかなあ、或は風見でもよからう、小磯國昭をもつて來ると、これは面白いがなあ』

記『まことによい見立てですね、とに角富田さんちや荷が重すぎますよ、實は本人にも氣の毒な位です』

讀『さういへば富田が偉い失敗をしたぞ、今日の豫算内示會で大失敗をやつたでないか。或る大官が議院俱樂部の某理事に對し電話で、君今日出たらお手やはらかにたのむよといつたんださうだ。ところがだよ、その某議員なる者に豫算内示會の招待狀が行つて居らないので、

僕は出る資格がないので出ませんよといつたものだから某大官もビックリし、君達議員に招待が行かない筈はないぢやないかと云つて見たが、實際に招待狀が行つてゐなかつたんだ。だから某議員が僕なんかに了解なんか求めなくてもよいでせう、僕なんか出る資格なんかないんだがと云つたといふからたまらないね』

記『これは驚きましたね、議院俱樂部の理事、しかもやかましやに案内が行かんといふのでは仕様がなではないですか。これは驚いた、一體どこにやつたんでせうか』

讀『そこに富田の大失敗があるのさ、富田が勘違ひして豫算内示會の案内狀を翼賛會の議會局にやつたもんだ、こゝに富田の頭のトンチンカンさがあるわけだ。翼賛會は議會とは何の關係もない、その議會局といふのも翼賛會の一機關に過ぎない、だから招待狀といふのは議員を目標として出さなくてはならぬものだ。もとより、翼賛會の議會局に出せば或る點まで主なる議員も出て來る事にはなるが、例へば島田俊雄にしても、例へば川崎克にしても、翼賛會に關係ないから招待を受けんといふ自然の結果になるね。だから議會局に招待狀を出したんでは、議院俱樂部の立場からいへば面白くない結果になるわけなんだな』

記『なる程、富田先生も戸迷ひしましたな、それといふのも富田などには議會といふものを尊

重する精神がないから、同じ衆議院に豫算内示會の招待状を出すにしても議會そのもの、議員そのものを基準とするよりは、翼賛會を眼中に於てやるからそんなトンチンカンになるのですね』

讀『全くさうだよ、今度の改造には木戸が動いてゐるなあ。この二週間前だったが、近衛が官中で木戸に會つてゐるね、あの時改造の話が定まつたんでないかなあ。そこで木戸が赤の誤解をとくには内務大臣を取りかへる外に仕方がないのぢやないか、と云つたと想像して置き給へ。まあ、これは噂として置きたまへ、そこでそれは平沼を引き出すに限る。それには一應無任所國務大臣にして置くのさ、平沼が出るとなりや、官制の改革も樞密院で文句はないそして二名無任所國務大臣が出られるといふ制度を作つておけば、それから先はそれで仕事が出来るとぢやないか、といつた風に話が進んで來たんだと想像するね。それで警視總監、内務次官、警保局長の三人の取り換へもこりや木戸の案さ』

記『一體内大臣がそんな事に關係してよいのですか、不穩當ぢやないですかね』

讀『そりやさうぢやなからう、既に内大臣が後繼内閣の御下問に奉答するといふ建前になつた以上、裏面的に動いたつて一向差支へないと思ふ。木戸も一度は内務大臣をしたから、内務

畑の事情に通じてゐるので、次官に萱場軍藏、警視總監に山崎巖、警保局長に橋本清吉を持つて來たわけさ』

記『成程さう伺ふと話が判つて來ますなあ、そこで柳川中將が全く前例を破つて、軍人で司法大臣になつたのはどういふわけですか』

讀『軍人の司法大臣は柳川が始めてぢやない、山田顯義が陸軍中將で司法大臣になつた事もあつたよ、もう五十年も前の話だがね。柳川が今度飛出したのは赤に對して容赦しないといふ氣勢を示したわけだ、勿論それは荒木大將との連繫關係もあるが、兎角、赤にらみをきかすには貴下のやうな強直な方でなくては駄目ですといふ建前から、くどきおとしたといふ評判だよ。まあ今日はこの邊でやめておかうか、又次に材料を提供するよ』

記『大變よいお話を承はりました、どうか、二、三日の内によいところを願ひます、では今日はこれで失禮します』——寫眞は木戸内大臣——

近衛公は何故に伊澤多喜男と會見するか

(附けたり)

△解黨を澁つた民政黨の肚と財閥

△滑稽な男となつた久原房之助

讀『新黨も今度は愈々間違ひなく出来るさうですね、出来るのは實に双手を擧げて大賛成ですが、併しいくら近衛さんが人望があつて偉くて、且つ又畏れながら絶大の御信任を辱けなくされてゐても、新黨の内部に從來の政黨の弊害が又してもの上つて來るやうでは、それこそ千日に刈つた萱と言ふ譯です。それにしても伊澤多喜男なんて云ふのが、近衛公の所に入りしてゐるやうですが、どうも面白くないぢやないですか』

記『併しあれは心配ないでせう、兎に角伊澤は貴族院の最も有力者ですし、それに有名な策動家ですから、近衛さんも從來の關係上面會を拒絶するわけには行かないから面會しただけのことで、近衛さんがあんなものに今更引き留られるわけはないでせう。近衛さんもなか／＼あれでサルものですからね、伊澤位手玉に取る力量はもつておますよ』

讀『それはさうでせうが、近衛さんが貴族院議長であつた立場からして、伊澤の訪問を拒絶するわけにはゆかないにしても、新黨問題に乗り出した以上、あゝ云ふ男と面會するのは誤解を招きますよ。伊澤に會ふ位なら、近衛さんだつて鳩山に會つてもいゝわけぢやないですか。鳩山も無論自由主義者で、とても新黨などには寄せつけられない奴ですが、それにしても伊澤多喜男は近衛内閣の時、國家總動員法案に反対した奴ぢやないですか、實にけしからぬ奴です、あゝ云ふ者に近衛さんが面會すると云ふなら、モット面會してもいゝ人間がいくらもある筈ぢやないですか。そのくせ、さう云ふ面會の必要ある人物にも會はないのぢやないですか』

記『それは、貴郎の御心配はごもつともです、伊澤なんて奴は實際けしからぬ奴です、軍部などあゝ云ふ者を徹底的に弾劾したらよささうなものですね。

兎に角、その伊澤が新黨問題で近衛公を訪問すると云ふことは面白くない、伊澤の奴、何を一體近衛公の所へ行つて云つたものですか。然し近衛公も非常な決心をされてゐるから、伊澤が何んと云つたつて、そんな事に動かされる心配は絶対にありませんがね』

讀『それなら安心です。それから民政黨がまだ今日となつても、解黨の意思表示をしないと云

ふのは、全く町田總裁らが今にして近衛公の出馬を信ぜぬと云ふのでもなければ、國內改革の必要を認めぬと云ふわけでもなく、其他の立て直しの必要を認めぬと言ふほどの莫迦でもないのですよ。そこは情ないことに、自分達の舊勢力を維持して行きたい爲に、解黨する氣分になれないのでせうね、そこにフミ切りがつかぬのでせう』

記『全くさうらしいですね。第一今參議になつてゐる小泉又次郎なんと云ふ一派は、折角今日まで民政黨で来たんだから、たとひ何名になつても民政黨の看板を維持して行きたい、自分達が看板さへ維持して行けば、瘦せても枯れても一の獨立政黨でやつて行ける、若しも新黨になつてその中に這入れれば、全く自分達の今迄の地位を棒にふるなくてはならぬと云ふやうな點からして、解黨する氣になれないと云ふ話ぢやないですか』

讀『どうもさうらしいですね、さう云ふ私情に囚はれるのも一面無理もないことです。けれどもモウ今日となつては、そんな莫迦げたことを云つてゐる時節でなく、うか／＼すると自分達の存在もどうなるかわからぬと云ふ羽目にまで追ひ込まれるんですが、それがわからんやうでは可哀相なものですな。それから何んと云つても財界には現状維持派が多いですが、民政黨はさう云ふ方面から從來少なからぬ運動費や、維持費を取り込んでゐますから、それら

の動きも見てゐるのでせう。それに氣兼ねして、革新陣營に合流すると云ふ意味の新黨なんかでは、氣乗りしないのでせうね』

記『どうもさうらしいですな、マアどつちになつても、どうせ彼等の運命は、モウ風前の灯みたいなものです』

讀『それでもフランスや英國がその首都を占領される迄も先が見えぬやうに、ヤツパリ現状維持派も、どこまでもがくのでせうね。民政黨の町田、小泉一派と鳩山、三土一派と愈々新黨が出来る時は、彼等だけ現状維持の黨を作ると云ふ評判もあります、こゝに至つては氣狂ひ沙汰と申すの外ないですな、彼等も行く所まで行かしたらいゝでせう』

記『伊澤と言へば、大谷光瑞も伊澤と前後して、近衛公の出馬を引留めに行つたらしいですが、しよのない奴ですね。光瑞と云ふ男も存外つまらぬ男で、興亞計畫なんて云ふ書物を出してゐるが、結局何を云つても實行の出来ぬ男ですね、あれも本願寺の寄生蟲で一生を送るのでせう』

讀『話は違ひますが、財閥と云つても三井なんか存外現状維持でなく、國運に順應する爲ならつまりお國の爲ならどんなことでもしなければならぬ、三井の財産がどうならうと、そんな

なこと位眼中におかない、只三井が三百年間築き上げた其の貿易、金融、鑛山等の如き事業が成り立つてさへ行けば、他のことは眼中に措かないと云ふ風に、大變新しい考へをもつてゐると云ふぢやありませんか。要するに國家と運命を共にすれば、それでいゝと云ふ風になつてゐるさうですね』

記『成程、三井等は三井物産と云ふものが七十年此方世界的に活躍してゐるから、世界の情勢がわかるのでせうね。そこになると財閥中でも住友などは一番現状維持的で、外交で云ふなら不介入主義ださうですね、三菱は其の間だと云ふ話ぢやないですか』

讀『さうらしいですね、住友の小倉正恒と云ふ大番頭は、必ずしもソんなんぢやないやうに聞いてゐるんですがね。話は違ふが、久原と云ふ者の評判は莫迦に悪いですな。二・二六事件の時に久原を助けてやつたある者達は大變立腹して、どうも困つた奴ぢや、新黨出現と共に奴を隠退させなくちや仕様がないと云つてゐますが、なか／＼他人の云ふことはきかぬ男だから隠退せぬでせう。これも民政黨と同じやうに、そこになるとやつぱりお先まつくらで、結局身の破滅するまで相變らず芝居を打ちつゞけて行くんだらうと、心配してゐるんださうですよ』

記『さうですか、成る程、久原を助けた連中は、さう思ふでせうな。兎に角危険千萬な男ですね、例の大逆事件の難波大助ですね、あれは久原と同縣の者だが、あれにも金を一萬圓ばかりやつたと云ふのですからね。

無論大逆事件と關連して、そんな金をやつたのでないことは云ふまでもない話だが、それにしても兎に角危険千萬ぢやないですか。如何に物好きに變り者が好きだからと云つて、大逆の罪人となるやうな者に、金を平氣で出すなんて云ふ男には、絶対に政治の話は出来ませんな』

讀『さう云ふことがあつたんですか、それは初耳ですね。二・二六事件の時も五千圓か金を出したんですね、實に危険な久原ですね。一體あゝ云ふ男を參議に任命したなんか實に遺憾ですね、だから今度また參議をやめる時も、參議として總理大臣に進言した内容を發表するなんてことをやるのでせう、全くしやうのない男です』

記『實際さうですね、此の際政界から隠退して、少し反省の生活をしたらよさうなものですが、信仰心のない敬虔の念の少しもない男には、そんなことは出来ぬでせうな、全くあの男も焼きがまわりましたな。



どうです、自分は何れの内閣にも今後入閣する希望がないなどと、云つてゐるぢやないですか、なんと云ふ尻の穴の小さいことでせうかね。本當に入閣しないのなら、何もそんなことを云ふ必要がないぢやないですかそんなことを自ら口外せなければ、自分のやつてゐる事が野心あつて強力新黨の出現を唱へてゐるのかと思はれやせんかと云ふのでせうが、そんなことを云ふのが小人ですね。今日の久原なら、何れの内閣にも入閣せんと本人が云つた所でそんな云ひ草を誰も世間ぢや信用しないでせう。

又久原がそんな斷りをしなくたつて、今後どんな内閣が出来ても、内閣の方で久原の入閣なんか絶対に問題にせぬでせうよ、實に久原も滑稽な男となりましたね。大分話が長くなりましたから此の邊で打ち切りませう、又お邪魔します」

(一五、六、一七)

——寫眞は伊澤多喜男氏——

伊澤多喜男はナゼ樞府に入つたか

(附けたり)

△蘭印はフザケてゐるぢやないか

讀者『何と嫌ぢやありませんか、とう／＼あの伊澤多喜男も樞密院入りをしたぢやありませんか、あゝいふ陰謀家の意地の悪い奴が、あゝいふ地位につくといふ事は如何にも畏れ多い限りぢやありませんか』

記者『全くその通りです。然し一面からいへばあんなのが、貴族院に居つて意地の悪い事をしないだけでも、議會を明るくする意味でいゝかも知れませんね。一體我々の見る所では、伊澤としては樞密院などの政治的活動の封じられてゐる、隠居役の場所には入らんだらうと思つてゐたのだが、よく入つたものだ』

讀『それはです、奴ももう考へたのでせう、年ももう七十も過ぎたし、この上貴族院に居つて例の變態政慾を満足させるのも、これから難しくなるとでも思つたんでせうなあ。殊に今度の議會に居れば、彼としては大政翼賛會に好意を表して居らぬだけに、やり難いと思つたん

でせうなあ。そこでこの邊で、樞府入りをした譯ですかね』

記『今までも伊澤には樞府入りの交渉があつたが、その度毎に斷つて居つたのだが、樞密院議長原嘉道が同じ信州人で懇意な間でもあるから、原議長としては伊澤を一枚加へて、自分の勢力を強くする氣になつたんでせうね。原といふ男はあれで存外縁故を辿る男ですなあ。三土忠造を樞密院に入れたのも、彼が糸を引いたんですからね。何にしても伊澤なんといふ奴は、何處までも権力に依らなければ満足が出来ない男ですね。ほんとに政治をやる氣なら衆議院にでも打つて出さうなものです。それがそれはやらす、権力の下に隠れて自分の變態政慾を満足させ様といふのですね。實に畏れ多い奴ですよ』

讀『然し大臣には遂になれなかつたですね。本人がならうと思へば必ずなれる時期があつたですが、そこが伊澤の風變りな偉いところだといつて世間ではほめるものもあり、伊澤自身も官僚出の中から一人位大臣にならずに居るのがあるのもよからうぢやないかといつたり、或は大臣になるとどうしても俸給だけぢや足りない、無理な借金でもしなきやならないから、大臣にならぬのだとある雑誌で彼自身が告白を發表した事がある。そこでまた世の中には、流石に伊澤は偉いといつたりする者もあるが、僕等から見るとあんなに敵の多い奴だから、

又向ふ疵の多い男だから、大臣になれば議會で散々な目に合はされる位は知つてゐる、それで大臣にならぬだけの事ぢやないかと見て居りますがね』

記『私もさう思ひます。然しあゝいふのが樞密院に入つて、また意地の悪い態度で政府を手古づらせたりすると、實際國政運行の上から邪魔になりますね。然しそれでも貴族院に居て悪戯をされるよりはましだと政府でも思つて、近衛首相も樞密院議長と協力して彼を樞府に入れる様にしたんでせう。

然し結局伊澤といふ男も大したものではなかつた、樞府入りをした事に依つて大抵判る。やつぱり官僚の老骨以外の何者でもないですね。同成會に奴と小坂順造の紹介で、同縣人の片倉兼太郎が入會しましたね。伊澤が樞府に入つて、一人減つたですからね』

讀『時に蘭印では、全く日本を軽く見過ぎてゐるのではありませんか。最近の情報に依ると甚だ残念至極のものがありますよ、石油をもつと日本に呉れなけりやいかんぢやないかと、或る日本の有力者が云つたところ、あなたはさう云はれるが、あれでいいのぢやありませんか。又この上石油を寄越せといふのは、それや貴方一人のお考へではありませんか、といつて相手にならんといふ話ぢやありませんか』

記『成る程、日本の新聞雑誌にはあの問題が思ふ様に論じられませんからね。蘭印の方でさう言ふのも、一つの理由になりますね。日本でももつと外國の様に、言論を自由にさせたらよささうなものです。我々の見る所では、芳澤公使など行くのは無意味だと思ひますよ。もつと外の方法を以てしなければ、どうにもなるものぢやない。

それに日獨伊三國同盟以後の日本外交が餘り溫和過ぎるので、蘭印も日本弱しと見てゐる、どうも困つたものだ。日本に實力がないのならそれは仕方がないが、實力があり乍ら未だに恐英米の勢力が日本上層部の一角にあるのでせうか。國民は實際非常に強いんですが、その強い意志が發表出来ませんからね、まあ行く處まで行くんですなあ。では今日はこれで失禮ませう、何だか氣乗りがしませんよ、言ふべき事がいへませんからね』

(二五、二二六)

近衛公はナゼ決死の覺悟をしたか

(附けたり)

△流石に中島の態度は甚だよかつた

△新黨問題をめぐる智慧の秋田

△久原は政界を引退してソ聯へ行くとか

讀『新黨は本當に出来るんですか、何だか帝日の記事を見ると絶對的に間違ひのない様に書いてあるが、然し近衛さんも樞密院議長を辭めたからには、直ぐ新黨問題に乗り出しそうなのだが何をしてゐるのでもせうか、一日でも半日でも早くやつて貰ひ度いですね』

記『これ程の大問題をやるのに、さう貴方の様に團子餅でも拵へる様に簡単にやれるもんぢやありませんよ』

讀『そりや、さうです。けれども樞密院議長を辭める迄には充分の考慮を拂つてゐるんでせうから、辭めたら直ぐ乗り出したらいゝぢやないですか。近衛さんが新黨を作ると云ふからには、何れ現状維持打開の爲めに出るんでせう。又、それでなければ役に立たんですからね、

それなら一日も早く、正式に名乗りを擧げて貰へば、それだけ時局の上にいゝ影響が早く來ることになるんぢやないですか。近衛の新黨が出來ると云ふことに決つただけでも國民の氣持は違つて來ますよ。従つて、事變の上にいゝ影響を及ぼしませう』

記『そりや、さうです、それなら吾々の知つてゐる處を云ひませう。近衛さんは或る政黨の巨頭との電話ばなしで、辭めて直ぐ乗り出すと云ふのも何か飢えて食物にかぶりつく様で體裁がよくないから、まあ一週間ばかりは誰れにも會はずに居たいと言つた事實が有るんですよ。だからもう數日中には、必ず先づ近衛さんが愈々自分が新黨をやり度いと思ふ、御協力を願ひ度いと、各政黨の黨首に呼びかけて會見することになるでせう。』

民政黨の町田に對しても、始めて正式に會ふ事になるんでせう。そこで、町田も始めて氣を取り直し、閣下が御奮發になられる以上民政黨に於ても無論馳せ參じます、又我が黨に於ても今度積極方針に乗り出してゐる際でもありますから、とか何とか云ふのでせう』

讀『さうですか、それで安心しました。私は又、近衛さんが何様お公卿さんの事だからぐにやぐにやになるのではないかと心配したんですがね。近衛さんは政權目當と云ふ様な新黨ではないやだと、云つて居るらしいが洵に結構ですね。然し私は、近衛さんが既成政黨を眼中に

置いて、新黨は既成政黨の解黨が先決問題だなどと云ふのは氣に喰はんですね、あんなものは眼中に置かん方がいゝんです。

俺が新黨の必要を感じるからやる、國民の政治的再組織の必要を感じるから乗り出すと云つたらいゝぢやないですか。僕たちから云はせると、既成政黨の解消を云々するのはおかしいですよ、政權が目的でなくやる政黨なら、尙ほ更既成政黨のことなんか眼中に置かんがいゝぢやないですか。何だか既成政黨が存在してゐると、何かの邪魔になるかの様に思ふのはおかしいと思ひます』

記『御尤もです、唯、近衛さんの方では新黨に入黨して來るなら、全體の政黨が解消した上で來いと云ふのでせうが、然し、それも云はんでも判つた話ですね。入黨するといふその事が解消出來なけりややれん譯ですからね。何しても政黨を眼中に置かず、近衛さんが國民全般の各層の代表者を集めて國民的に呼び掛け、それから後に既成政黨が解消して行くと云ふのが一番いゝでせう。そこになると、中島政友會總裁の云ふことが一番正しいですね。』

國民的にやると云ふ新黨に對して、政黨が先き走つたりしちや面白くなく、又早く解消すると、新黨が出來たら直ぐ飛び込んで行ける様に用意をした、と云ふ風にとられたりして却

つてよくないと云ふのが、中島總裁の意見だと云ふんですが、全く思慮のある行動ですね』
讀『さうですね、成程、政黨の解消なんか本當に眼中に置かずにやるがいゝんです。それをか
れこれ云ふのは、新黨自らが小さなもんだと云ふことにもなりますからね。時に、近衛側で
は政黨以外の方面には、もう大體話は纏まつてゐるんでせうか』

記『もう大體話についてはゐるらしいですな、だから數日中に近衛公が正式に乗り出して來れば
直ぐ纏まるんでせう。そして政策とか主旨綱領とか組織などに就ては、夫々皆分擔してやつ
てゐるんでせう、大體もう出來上つてゐるんぢやないですかね』

讀『今度新黨が出来るに就て、一番得意なのは松岡洋右さんでせうね。何様あの方が政黨解消
を一番先に稱へたのだから偉い人ですよ。矢張りあの方も、近衛さんとは青年時代から大變
懇意な仲だそうですね。僕の知つてゐる奴の親爺さんが、大變に松岡さんと懇意なんですが
ね。あの人は外交官をして居つて西洋人とも交際のある人なんだが、それでゐて西洋を悪く
云ふ人だそうですね、面白いぢやないですか』

記『却々松岡は人物ですな、本當にあの人は得意でせうな、見る俺の云ふ様になつたぢやない
かと心密に云つてゐるでせう。あれで、矢張り國士ですよ、近衛内閣の時に入閣を進められ

たのだが斷然入らなかつたです。その理由がいゝですよ、水と油の内閣に入つたつて事が出
來やあしない、自分が入れば打壊しだからと云つて入らなかつたんです。

全體あの時近衛公が出たのは、元老重臣から相剋摩擦を避ける爲に出て貰ひたいと懇請さ
れたので、出たのだ、それが圖らずも支那事變にぶつかり、革新派と現状維持派が一緒の内
閣に居るんだから、近衛公だつてよくやれる筈がないと云つたんだそうですね。然るにその
松岡が、今度若し近衛公が内閣を組織する様なことがあれば、今度は頼まれんでも自分から
進んで飛び込むなんて云つてゐると云ふことを聞きますがね、果してどんなもんですかね。
今度近衛公が出れば、水と油を混ぜる様な馬鹿なことはしないから、俺は次官でも書記官長
でもやつてやるとか云つてゐると云ふ話ですね』

讀『さうですか、私もこんな話を聞きましたかね。近衛さん貴方はもう一度は出なくちやいけ
ません、始めの内閣はよくなかつたのだから、その代り今度出て此の世界轉換の芝居に締め
くくりをつけなけりやならん責任がありませう、その代り近衛さん貴方は出れば殺されます
よ、それは覺悟なさい、その覺悟がなかつたら出ないが宜敷い。日本の現状維持派は存外根
が張つてゐるから、餘程決心しなくちやいけないと、松岡さんが近衛公に話したと云ふこと

を聞きますがね』

記『さうですか、近衛さんも今度樞密院議長を辭したんだから、愈よ死を決して出る覺悟をしたんでせう。その位の決心はするがいいですよ、日本一の名家に生れてかう云ふ非常時に命を投げ出す決心をしなかつたら、それこそ罰があたるですよ。明治維新の時、岩倉公は命を的にかけて活躍して、スンデのことに殺される危険に遭遇したでせう。だから近衛さんが御決心なされたのは、洵に結構なことですよ』

讀『松岡さんの次に得意なのは秋田清さんでせうな、あの人も四年位前から政友會を脱黨して無所屬になつてゐます。つまり政黨に愛想をつかして出たんで、新黨の出現を覘つて居つた譯なんですな。却々策士だと云ふが、どんなもんですか』

記『無論、策は持つて居るんですけれ共、俗に云ふ輕薄な又陰謀を繞らすと云ふ様な策士ぢやありません。唯智慧が多いので、兎角かれこれ云はれる様になるんぢやないですか。』

讀『さうですか、智慧のあるのは一向差支へないですね。私の聞いた處では近衛さんにも相當信用があると云ふぢやないですか、新黨問題でも相當建言してゐると云ふ話ですね。』

記『そりやさうでせう、近衛内閣の時の内閣參議なんて云ふのは、實に秋田さんの案だつたと

云ふんですからね、近衛公も秋田の才幹は認めてゐるでせう。然しあの人が久原房之助を偉いと云つて、今でも讃めてゐるとか云はれるのが果して事實なら、どんなもんですかね。久原の様なインチキめいた、ケレン師の様なものに共鳴する様ぢや、僕たちは秋田さんもそんな人かと思ふ様になりますかね。

聞けば何でも久原は、新黨の出現と共に政界を引退してソ聯に出掛け、スターリンと談判するとか云つて居ると云ふ話ですよ。愈々滑稽な男ですね、政界を引退するのが事實なら、些か身の程を知りかけたかとも云へますが、もう久原が引退しやうとしまいと、近衛さんでも出れば問題ぢやないですか。餘りくだらぬことをしよると伸ばされて仕舞ひますよ、あれが一體スターリンに會ひに行つて何をするのでせうか、そこがつまり滑稽ですよ。

昔、桂太郎とか後藤新平とか云ふものがソ聯に出掛けた時は、後藤でも桂でも一流の政治家として國の内外に重きをなして居つたので、露國にでも行けば先方も話に乗るでせうが、今頃久原の様なものが出掛けて何が出來ると云ふのでせうか。冗談ぢやない、あんなものに

出掛けられぢや、國家は大きな迷惑ですよ』

讀『さうですね、久原が本當に出掛けて何をするのだらう、總理大臣の代理で行く譯でもある

まいし、田中内閣の時の様に、久原に田中が動かされた様な事は今後絶対に出来ませんからね。新黨問題では、久原が働らきかけて出来る様になつた様に思つてゐる者も、却々多いそうですね、そして中には、久原は今度男を上げたなんて云つてゐる者もあるそうですね』

記『そこがつまり久原の狙ひ處ですよ、何も知らぬ世間をさう思はせる爲めに、久原が先走りをしてあの手此の手で、新黨問題を傘に着て動いた譯なんですよ』

讀『新黨問題では松岡、秋田に次で野依社長も随分得意でせうな、新聞人では一番早くから新黨論を旺んにやりましたね』

記『さうです、然し何とも云ひませんよ、社の玄關に掛けてあつた新黨樹立準備會の看板も、愈々昨日限り取りはずしましたよ。まあこの調子で行けば、新黨も七月中には結黨式が挙げられませうな、やる氣になれば早くやれますよ。では、今日はこれで失禮ませう』

(一五、六、二九)

近衛公に送らうとした血判狀

(附けたり)

△阿部前總理がやめる時の一挿話

讀『僕はこれでも戦地に行つて来たものですが、大の帝日愛讀者ですよ、戦地でも帝日が来ると隊で引つ張り風でした。私も事變三周年に際して柄でないか知らないが一つ電話問答にかかりたいんです、よろしいですか』

記『至極結構です、大いに氣焰を上げて下さい』

讀『それは嬉しいですなア、僕たちも帝日を見て、戦地にゐる時から日本の政治の動向をよく知りました。どうしてもこれは新黨を造つて思ひ切つた改革をやらなければ駄目ですね、戦地に居るものでも、歸つて来た僕たちでも、自分のための不足はありません。然し僕たちは支那事變が目的を達し、東洋の天地から白人の勢力を驅逐しなくちや、亡き戦友にかはつて斷然不足を云はなければならぬですよ。』

それで近衛さんはいよ／＼起つのですか、樞密院議長をやめたから、いよ／＼やつてくれ

るかと思つてゐると、一向にはつきりせんぢないですか。そこはお公卿さんのお公卿さんたるところか知らんが、と云つて近衛さん以外に人物がないとすれば、斷然早くやつて貰へぬものですかね。そこで僕達のやうに戦地から歸つて來たものが、血判をして近衛公の蹶起を促さうなどと協議したんですが、然しさういふことをして却つて近衛さんに、嫌な思ひをさせてもよくないと云つて取りやめにしたんですがね、どんなもんでせうか』

記『それは結構ですな、やつて見りやよかつたですね。然し心配はもう要らんでせう、今度は近衛さんも斷然やりますよ。我々から言へば、もう準備なんかどうでもいゝ、早く乗り出した方がいゝと思ふんですがね。凝つては思案にあたはず、餘り責任を感じ過ぎたり、事を重く見すぎると却て動きがとれなくなりますから、想を練るとか、構想を整へるとか何とか、そんなことはもう大抵のところにして、後は實行に取り掛つて進めてゆくんですね。そしてそのうちに改良すべきところがあれば改良し、どし／＼進めてゆくに限りますよ』

讀『全く同感です、僕の親類に阿部内閣の時に政務官をしてゐたものがあるんですが、その話によると、近衛さんの缺點は理想に走り過ぎる所に在るから、現在の國民の知識、道德、生活の程度では、近衛さんは却つて不向かも知れないと云つてゐましたよ。』

だから近衛さんはもう想を練るなどと云ふことは止めにして、自分で新黨をつくつて國家のために一身を捧げたいからと言つて、自分の信ずる、實行力のある數人のものに、もうこの邊で一つやつて呉れといふ風にしなければ、出来るもんぢやないと云つてゐましたよ。

又、その政務次官の話によると、阿部首相といふものも失敗はしたが、あれで矢張り相當なものだそうですね。やめる時、政務次官に自分の不徳でかういふことになつてお氣の毒である、そのお詫の印として記念品を贈りたいと云つて、何でも價格の千圓位するものを、政務次官全部に贈つたそうですね』

記『なるほど、實は私もそのことを聞いて居たが、わざ／＼書くのもどうかと思つて差控へてゐたのです。とにかく阿部といふ人も人間味のある、大變いゝ人だそうですね。あれを誤らしめたのは誰でせう、と云ひ度いが、然し誤らされるやうでも困ります。然しやめる時に、政務次官に千圓もするものを與へるなんていふことは、普通の人間にや出來ませんな』

讀『金と云へば、近衛公は新黨組織の資金をどうするんでせうか』
記『さうですね、近衛公がいよ／＼乗り出せば、淨財を喜んで寄附するものが、いくらでも出て來るでせう』

近衛家の家寶賣り立てには反對

(附けたり)

△近衛さんの腰は碎けないだらうか

△再び掲げられた打倒英國の大看板

讀『またやられたそうですね、一體何處が悪かつたのですか、記事中に何か安寧秩序を紊すことでもあつたのですか』

記『理由は云はれませんが、さう云ふことで無いとだけは申しても大丈夫でせう。今度ばかりは絶対に大丈夫と云ふ心算で書いたのですが、又やられたので、新聞記者として餘り氣が利かなさ過ぎる様に思はれて恥かしいですね、然し今後は絶対に、その様なへまはやらない心算です』

讀『然し、國家を思ふの餘りにやる議論の結果ですから、何も恥かしいことは無いでせう。そんな事を云つて消極的になられては困りますよ。時に、帝日の屋上に一時取り外しになつてゐた「打倒英國」の看板が、亦新装されて鮮かに高々と掲げられてありますね、あれは一體

どうしたんですか』

記『あれですか、今年の天津問題で「打倒英國」運動の起つた際出してあつたのを、今年の十一月頃取り外せとその筋から注意されたので、一時取りはづしたのです。』

その時は、野依社長の著書『英國打倒歐洲參戰の主張』の市中の立看板も、撤去を命ぜられたのでしたよ。それはです、日英會談を好都合に運ぶ爲めクレイギー大使などの意向を參酌されて、そんな事になつたんだらうと思ひます。だが終始一貫した我社の主張の爲め、已むにやまれぬ心情より今度また『打倒英國』の文字を高く掲げた譯です』

讀『さうですか、日本の態度は餘りお人好しの度が過ぎるから、英國が今將に亡びんとする前に於ても、尙ほビルマルト問題に對し日本に拒絶の回答を寄せるんですね、然し英國はその亡國前夜に於ても尙ほ頑張つてゐるんだから、その態度を何處かの國の外務大臣なんかに、少し位眞似させたいもんですね』

記『人間の習慣或は先入觀なんて云ふものは恐ろしいものです、英國を偉いものだと思ひ込んで居るから、拜英が骨の髄まで滲込んでゐるんでせう、第三期の梅毒みたいなものですね、だから英國の前に頭が上らない、莫迦にされるのも無理はありません』

讀『全くさうです、だから米國も、徹底的に日本を莫迦にするんです、上海の我が憲兵侮辱事件なんか、どうですか。』

時に近衛さんは、十日に輕井澤から歸つて來る様になつて居たのが、又二三日延びたさうですな。亦近衛さんの腰が鈍つたんぢやないですかね、どうも國民一般の懸念は近衛さんはあゝ云ふ人だから、途中で腰砕けになりはしないかと心配してゐる様ですね』

記『大丈夫です、決して今度は御心配はありません、必ず斷行しますよ。今輕井澤で出來上つた黨則などに對して、自分で筆を入れたりして却々勉強されてゐるさうですよ。今度は近衛公も本當に命がけでやると云ふ話です、今度は軍部でも何處でもみな、近衛公の出馬を歓迎してゐると云ふ話ですから大丈夫ですよ』

讀『フランスも今度ドイツの前に屈服して新體制を整へる様になつたと云ふ位だから、況んや日本など、一日も早くやらなくちやならんですね。近衛公は新黨の資金を作る爲に、千年この方の家寶を賣り飛ばすと云ふ話ださうですが、然し僕たちはそれに反對しますね。近衛家が持つて居つてこそ、其の家寶に價値があるので、それを何とも知れん成金みたいなものに渡したんぢや、面白くないですなあ』

記『貴方の御心配には至極賛成です、本當に近衛家の家寶としてこそ、値打があるんですからね、賣らん方がいゝですな。そんな家寶の賣り立てなどやらなくたつて、新黨の資金位喜んで淨財を寄附するものがあるでせう、千萬位な金なら直ぐ集まるだらうと思ひます』

讀『全くその通りです、書畫骨董と云へば近年却々賣り立てが旺んに行はれますが、あの骨董屋が相當利益があるものと見えて、花柳街などで時節柄もかまはず豪遊する骨董屋も相當あるさうぢやないですか、實に苦々しき限りですね。あゝ云ふのにはどうふ税金の取り方をし
てゐるか知らないが、思ひ切つた税を掛けてやり度いですね』

記『至極賛成です。全く骨董屋が花柳街で相當荒すさうですよ。話は違ひますが、民政黨も愈
よ解黨の聲明をせざるを得なくなつたらしいですね、兎に角、新黨は絶對間違ひなし出來ま
すよ。さて、黨名をどうするかと云ふことが一つの問題ですが、近衛公の意向は何々黨とせ
ずに、何々會としたいとか云はれて居ると云ふ話ですね。何か、いゝ名前でもあつたらお知
らせ下さい、ではこれで失禮ませう』

星亨や原敬のやり方と近衛公の腹藝

(附けたり)

△却々味をやる近衛公の組閣振り

讀『どうです、近衛さんはやつぱり各方面に人氣のあるだけのことではあつて、偉いですな。その組閣振りは實に悠々たるものぢやないですか』

記『そりや何と云つたつて偉いです、日本もいゝ鹽梅です、臣下として日本一の名家であり、日本一の舊家であるところにあゝいふ人物が出て來るといふのは心強いですね。僕等としては組閣前に國防、外交の下相談をしたことなど餘計なこと、陸海軍が入閣を承諾した以上近衛さんの思ふ様に押へて行つたらいいんだと思ふが、そこがやつぱりいくら偉くても、原敬とか星亨とかいふ様な譯にはゆかぬのでせうね』

讀『そりやその通りです、それにしても實に痛快ですな。組閣本部を自分の邸内に置き、然かも自分以外誰も相談相手をおかずに、新屋秘書と二人限りで、然かも近衛さんが自分で電話をかけ、交渉すべきものと交渉してゐるといふから、そのやり方は一寸原敬、星亨に似てゐると言はば云へぬでもないぢやありませんか』

記『そりやさうでせう、この難局に當つて一つやつてゆかうといふ以上は、並大抵な度胸ぢややれませんよ。唯僕等から言へば、政黨關係のものに残しておく椅子が、餘りにも少な過ぎると思ひますがね。

然しそれも、世間に傳へられるところが果して近衛公の眞意やらどうやら、ハツキリとは分りませんよ。近衛公はあれで存外肚藝をやりますからね、悪い言葉を使へば相當人を食つてゐますからな。然し何をしようと私慾といふものがないから、そこは強いですよ。果してどんな閣僚の顔觸れになるか、案外世評と違つたやうなものにならぬとも限らぬですな』

讀『さうですね、何と云つたつても政黨側を尊重しなければ、誰が何と云はうと、國民的内閣とはなり得ませんよ。功罪といふ點から云ふならば、政黨ばかりが政黨不信の罪を負はなければならぬといふ譯はないのです、この點は重臣にも責任があります、官僚は無論のこと、貴族院も然り、殊に貴族院中でも、伊澤多喜男一派の陰險な非政黨的なやり方は斷じていかにんです』

記『全くですね、近衛さんもさういふ意味においては、責任を感じてゐるでせう。だから蹶起して、大いに御奉公しようといふ氣になられたんでせう。何にしてもお互ひ、徹底的に近衛

公を援けなくちやいかんですよ』

讀『そりや云はずと知れたことです、無論それでなくてどうしますか。あなたも一層、馬力をかけてやつて下さい』

記『大いにやりませう、では今日はこれで失敬しませうか。例へ如何なる顔觸れが出て、どれもこれも全部援けてゆかうちやありませんか、無論さうあるべきことでせう。左様なら』

(一五、七、二一)

鮎川義介がヒットラーの

ことづけを近衛公に傳へた内容

(附けたり)

△有難き恩賞と財界人の問題

△鮎川と岸と松岡に絡む或る噂

△久原が西園寺公訪問の裏面

讀『今日の電話問答は非常によかつたですね、本當に我々財界人と官吏や軍人等を別扱ひにするのは全く大御心に反すると言はねばならんです。軍人であらうが、財界人であらうが、一般官吏であらうが、陛下の赤子ですからね。しかし此處に考へなければならぬのは、物質的報酬の點から云へば、財界人は官吏や軍人よりは大きいに恵まれてゐるから、位階勲等の如きは軍人官吏に劣つていゝと云ふ事になるんでせうか。その邊の御意見は如何ですか』

記『さうですね、しかし國家社會の爲めに盡したと云ふ點を賞するといふ上から申せば、財界人が物質に恵まれるとか云ふ様な事を、考へるべきものぢやないと思ひますね。位階勲等は

只國家に功勞があるかないかといふ點のみを考へたらいゝぢやないですか。發明家が國家社會のために非常な貢獻をした、しかし同時に又金も出來たと云ふ場合に、彼は發明で國家社會、大きく云へば人類生活に裨益をしたが、しかし發明品で金が出來たから國家として勳等を與へる必要はないとは言へないでせう。

若し金が一方に出來たから位を與へぬといふ事になれば、日本で申すならば畏き邊りの思召しに依るとせらるゝところの、恩賞を金錢物質と對等的に考へさせる様な、恐れ多さがありますからね。だから私は財界人であらうが、國家に貢獻する處あれば官吏軍人と同様、恩賞を奏請し奉るべきものだと思ひますね』

讀『大變結構なお話を承はつて、胸がスツとしました。何んでも日本では大御心を平等に國民に浴せしめる様、當局者が取計らはなければいけないですね』

記『全くさうです、だから小林商工大臣、村田遞信大臣などは今度、どう云ふ風な位階勳等の恩賞に預かるのでせうか、私は奏請者のやり方を興味を以て見てゐます』

讀『時に僕の聞き込んだ話ですが、鮎川義介さんは今度大臣になりたかつたんださうですね、どうでせう』

記『斷じて左様な事はないと信じます、鮎川としては大臣になりたがる様な人物ではないですよ。見識の高い男で一種の豪傑です、何者も恐れぬといふ氣魄を持つてゐますよ。大臣に望まれてもそれこそお受けしないでせう、私は別に國家に盡さねばならぬ任務があるからと云つて、必ず辭退する男と見て居りますね』

讀『さうですかね、そんな偉い人間ですか。それにしても近衛さんが大命を拜するとすぐ、呼ばれもしないのに飛行機で歐洲から歸つて來ると云ふのが、可らしいぢやないですかね』

記『それはです、日滿一體の産業政策を此の時此の際、實現しなくちやならんと云ふ點から、近衛公に進言のために歸つて來たのでせう。それにもう一つは、ヒットラー總統の近衛公への言傳をも傳へたのでせうね。しかしそれは、今度であつたか或は既にその事は濟んだのかも知れませんが、兎に角鮎川さんが近衛さんに、ヒットラー總統の言傳を傳へただけは事實です。

それはですね、阿部内閣の倒れた當時、今度は是非近衛さんに出て貰はなくはと言はれた時、近衛さんは自分は財政經濟の知識に自信がないから、と言はれましたね。それをヒットラー總統が無論承知してゐたんで、鮎川さんが總統に會つた時、近衛さんは財政經濟に自

信がないからと云はれた相だが、實は自分も經濟の事に自信がなかつたから専門の財政經濟家を使つたが、それは失敗であつてむしろ素人の方がよかつた。他の素人に命じたらその方が成功したのだから、近衛公も財政經濟の事は心配なさらんで宜しいとお傳へ願ひたい、と言つた相です。それが鮎川さんから、近衛公の耳に這入つてゐる譯ですね。こんな様な事からして、鮎川さんは呼ばれないのに近衛公に大命が降下してから、直ぐ滿洲から進言に來られた譯でせう』

讀『そうですか、これは大變面白い話を伺ひました。處で松岡と鮎川とは同郷關係ではあり、商工次官の岸信介は松岡の甥である、その岸が商工省に居る時、畫策して鮎川の日本産業を滿洲に持つて行つたと云ふ様な事からして、鮎川と松岡が大變に岸の昇格運動をやつたと云ふ話ちやありませんか。』

それなのに貴方の方の野依社長はそれに反對して、岸自身にも汝は大臣たるの資格なしと云ふ電報を打つたと云ふぢやありませんか。そののみならず、鮎川にも松岡にも近衛にも、岸の商工大臣絶對反對と云ふ電報を打つたとか云ふ噂がありますが、どうですか』

記『さあ、それは初耳ですね。電報の事は、全く僕は知りませんよ。それから鮎川さんが、岸

のために運動したなんと云ふそんな事は絶對にないと思ひますね。鮎川と云ふ人はそう云ふ事をする人柄でないでせう、松岡さんだつてそれはやらんでせうね、そんな事をすれば自分が損位の事は知つてゐるでせう』

讀『鮎川と云へば久原の義兄なんでせう、その久原に救はれて偉くなつたと云ふ話ですが、本當ですか。久原と云へば随分妙な男ですね、西園寺公の處に政友會解黨の報告に出懸けて行くとか云ふから、西園寺公が會ふだらうか、あゝ云ふ偽物總裁の手によつて、政友會が解黨されたと云ふ事になつて、それに西園寺公が逢へば可笑しなもんだと思つてゐたが、果して西園寺公は會はなかつたんですね。熊谷執事に會つて、その趣旨の取次方を頼んだに過ぎなかつたんですね』

記『全く久原は可笑しな男ですよ、恥を知らんですね。あゝ云ふ不様な總裁争ひをした上、政友會を解黨したと云つて西園寺公に報告に行くと云ふんだから、あきれざるを得ませんね。良心があれば恥かしくて行けない筈ですがね。』

鮎川は久原に助けられたんではありませんよ、久原が田中内閣に遞信大臣として入つた時久原鑛業の後を鮎川が引受けた譯なんです。そして久原鑛業が日本鑛業と改稱されて建直つ

た譯で、だから久原こそ鮎川に救はれたと云つてもいいでせう。あの時鮎川が、若し久原鑛業をやらなかつたら、久原鑛業はどうなつてゐるか解りません。全くあの頃の久原鑛業の内容と云ふものは、手が付けられない程に紊亂してゐたんでせう。また鮎川が初めて獨立で戸畑鑛物を起した時だつて、何も久原から特に助けられては居ないでせう、株をいくらか持った位でせう。株に鮎川の親戚貝島も、藤田も持つて居ますよ。それから鮎川が愈々金に困つた時、彼を救つたのは藤田小太郎の未亡人で、八十萬圓かの金を出したんでせう。そんな譯だから、鮎川は久原に助けられたと云ふ事はないですなあ』

讀『成る程、さうですかね、どうもいろ／＼有難うございましたが、もう一つお聞きしたいです、小林一三さんは近衛公とどんな関係があるんですか、村田省藏さんの事も序でに知らしめてくれませんか』



記『さうですね、小林さんは近衛さんには二三遍位は今迄に會つて居ますね。近衛さんの方でも小林の頭のいろ／＼所、実行力のあるところを充分認めてゐるらしいです。村田さんは、近衛内閣に一度逓信大臣として望まれた事がありました、近衛さんとの関係はよ

く知りませんが近衛さんの側近者安井英二、あの人が大阪府知事の時に村田さんを知つてゐるんで、それで安井さんが村田の人物を近衛公にふき込んであつたからでせう』

讀『どうもいろ／＼有難うございました』 — 寫眞は鮎川義介氏 — (一五、七、二四)

近衛首相のために最も忠勤なのは誰か

(附けたり)

△小さくなつた櫻内前藏相のヤリ口

△島田俊雄オミクヂのこと

讀『帝日の自由論壇は毎度ながら感服して讀んでゐるが、近衛公の天命を拜しての放送を批評してゐる點は實に心嬉しく思ひました。中でも、近衛首相が政黨をコキ下したのに一矢報いてゐる點は、溜飲ために下ること正に三斗です、あれはたしかに近衛公の失言ですね。それに正面から反省を促したのは、近衛首相に取つても誠に頂門の一針で、あゝいふ苦言を呈する人が一人もなかつたら、近衛首相のおためにならんですね』

記『どうも誠に有難う御座ゐます、帝日では徹底的に近衛公のために犬馬の勞を取ることについてめてゐるんですが、さりと言ふことを言はずにゐるのは眞の支援者ではないと思ひます』
讀『さうですとも、全くその通りです、その點に於て帝日は斷然光つてゐますね。時に近衛公は政黨以外の新人といふか、右翼といふか、さういつた團體の進言なり、要求なりにあまり

重きをおき過ぎてゐるのではないでせうか。その方の力をあまりに過大視過ぎてゐるから、政黨につらく當りすぎるのではないでせうか、そこは近衛首相も御一考あつて然るべきですね。何しても近衛公はえらいものです、近衛公が立ち上つたために五十年來の政黨が皆解消するんですから、近衛公の聲望といふものは驚くべきものです。愚圖々々してゐた民政黨も、遂に兎に角近衛公の態度が明確になれば、解消するのだとまで聲明しましたからね』
記『全くですな、然し民政黨が最後に至つて、澁々ながらも解黨すると言ひ出したのは、近衛公の聲望よりも永井柳太郎君一派の脱黨のアイクチの方が、きゝめがあつたのもまた事實ですな。民政黨をあれほど分裂させて、それで大麻筆頭總務も櫻井幹事長も遂に辭職せず留任といふのだから、實に責任觀念もクソもあつたものじゃありません。しかし責任觀念といへば平沼首相、阿部首相、米内首相など、みな御同様ですからね』

讀『ホントにもつと地位にある人々が、責任觀念を重んじて下さらなくてはどうにもなりません。永井柳太郎が櫻内幸雄を訪問して、お互に議員の取りやりの様なぶざまのことはやりたくないと思合せをしたに拘らず、その後も民政黨側で愛知縣の服部英明を取り戻したり、三重縣の松田正一を取り戻したり、みつともないことをやつてゐますね。松田は櫻内の下に參

與官をしてゐたんだから、あゝいふ者に脱黨されると面目ないとして取戻したのでせうが、餘りにやりかたがケチですな。櫻内としては、僕に對して氣兼ねなんか要らないから君は君として思ふ様に行動をしたまへといふ風に、大きく出なくちやならん筈ぢやないですが』

記『さうですね、櫻内といへば、秘書官の中村代議士も脱黨してゐたのをそれも取消させたなど、あんまり人間が小さいですね。どうせしまひには新黨で一しよになるのだらうが、それが一人や二人の代議士を取りやりするとはあまりに情けない連中ですな、そこになると永井は政黨人としては品のいゝ方ですな。聖戰貫徹同盟では俵孫一と小泉又次郎を除名しましたな、兩人とも一人は八十に近く、一人は七十に近い老人で、元大臣であつた人間だが、年の取り甲斐もない何といふことでせうか』

讀『全くですね、帝日の電話問答の中に、島田俊雄が政友會の解黨式に何か變なことを言つたと出てゐましたが、あれをもつと詳しくやらうぢやありませんか、どうです』

記『あなたの方で、材料さへ下されば無論やりますよ』

讀『それなら言ひませう、島田は本郷の湯島天神に毎月廿五日、おみくじを抽きにゆくのですよ、變つてますね。然しです、おみくじを抽いて、それによつて政治の動きを判斷するとは

實に古い頭ですね。それで七月も廿五日に、中島派解黨についてのおみくじを抽きに行つたといふのです、その時に出たのを卅一日の解黨式で、食卓の際に立つて讀み上げたのです。その一つは砂をふるへばそれから金が出るといふので、も一つは山を掘つて金が出るといふのに相當し、最後の一本は心がかたく一つになつてゐなければいけないといふのです。これはつまり我黨の前途は洋々たるものであるが、お互が心一つにしてゐなければいけない、つまり中島派が一致團結して居れば、今度の新黨が出来ても勢力はこつちのものだ、といふ様なことを言つたのです』

記『さうでしたか、島田さんの様にそこまで露骨に言つてしまつてはだめですね。そこが所謂悪い意味に於ての政黨人根性が去らないといふので、實に情けないですね。さういふ心持ちを持つて、それで新黨に望む様では仕様がないですね。そこにゆくと東郷幹事長の言つた様に、サツパリと城を明け渡すと言つたあの堂々たる襟度でなければいけないですね。いやどうも有難う御座いました、時間の都合もありますからこれで失禮をいたします』

有馬伯は爵位を拜辭して活躍せよ

(附けたり)

△永井柳太郎と秋田清を是非とも

△近衛公は今後どんな手を打つか

讀『新體制準備委員會も愈々最終の會議を終りましたね、兎に角あの委員は各方面の相當な人物である、それを一堂に集め、近衛さんが議長役をやつたのだから、近衛さんもういゝ氣持でせうなあ』

記『全くですね、然し實際の實力があれば、どうにも仕様がないですね、近衛さんはあれで中々物が分るさうで、直ぐに言つて裏が分るんださうですね。何あれはあゝ言つてゐるが、實はかうなんだよ、と言つた風に眼から鼻に抜けるのだ相です。寸分の隙もなく聊かも抜けた所がない、もう少し馬鹿になれたらよささうなものだと云つてゐる人もある位です』

讀『そうですか、然しそれは甚だ結構な話しちやありませんか。その位でなければあの各方面から集つた準備委員を、こなしに行く事は出来んでせう。又それ位でなければ、この非常時

局の總理大臣にはなれんでせうね』

記『それはそうです、そのかはり餘りに聰明過ぎるのであゝでもないかうでもない、といふ事になつて、決斷が遅れることになりますね。まあ何にしても偉い公爵様ですな』

讀『ところで、ドイツは大いに日本との同盟を希望してゐるが、日本にはまだ確かに英國には對獨伊戰爭に自信がある、あれ程ロンドンがやられても最後の勝利我に在りといつて、まだ皇室もロンドンに居られるといふのでは、ドイツの上陸作戰に對しては英國に自信があるんだらう、てな事をいつてゐる一派があるんだ相ですね。それで中々松岡さんも苦勞してゐるんぢやないかと察しられるがどうでせう。今閣僚の中では、松岡さんが一番健康を害してゐるといふじやありませんか、さう言へば寫眞を見ても、何だか頬がこけた様ぢやないですか』

記『そうですね、あの負けん氣の男が、病氣で閣議に一回でも出ない事があるといふのは餘程の事でせうなあ。然し、昨日の滿洲國承認記念日の講演會には出て居られましたね、まあ兎に角松岡さんも御心勞の事でせう、あの人は極く正直者ですから、心配もするでせう。

然し結局は近衛首相にしても、松岡外相にしても、此の内閣の重大使命が外交轉換にあるといふ事だけは斷じて承知してゐますからね、必ず我々の希望を充して呉れると思ひます。

まあもう少し、信頼して待つて居やうぢやありませんか』

讀『それぢやさうしませうが、扱て新體制準備委員會も濟んだので、閣僚補充の問題を是非解決しなくちやならんですね。我々仲間では何といつても現内閣は官僚的で、本格的の政治家らしい政治家は、首相の外には風見法相だけである、だからこの上は斷乎として、政治家らしい政治家を補充しなくちやいけない、といふ事になつてゐるんですが、その顔觸れは秋田清、前田米藏、永井柳太郎、金光庸夫、山崎達之輔、これ以外にはないと思ひますな』

記『同感ですね、何といつても、政治家らしい政治家は舊政黨の中にゐますよ。今日では政黨が完全に解消してゐるので、一切超政黨の考へからしても、矢張りこの内閣にはどうしても秋田清の政治家的才能が一枚欲しいですね、それから永井柳太郎の大衆性がどうしても一枚必要でせう。後一枚は金光か山崎か前田か、或は中野正剛かその邊の處をとつたらいいと思ひますね』

讀『同感です、その見立てはいいですなあ、何といつても實際政治は官僚ばかりぢやいかんで、この點は近衛の事ですから充分考へてゐる事です。』

先づ一應新體制を整へ會名も大政黨會と決定し、これで全國に政黨色が一掃された譯で

すから、これから又色々名案名策が出て來るんぢやないですか。何にしても此の際は、外交轉換が何よりの重大問題です。時に有馬賴寧伯は、産業組合中央會の會頭も貴族院議員も辭するといふことですが、誠に態度公明でいいですな』

記『そうです大政黨會の中央本部長に就任と決定して、自由の立場から運動に没頭する爲めには、さうするがいいんです。近衛公といひ、有馬伯といひ、華胄界の相當の者ですよ。』

そこで僕等からいへば、有馬さんも伯爵を辭して一個の有馬賴寧として、眞つ裸になつて出て貰ひたいですな、それがやれるとほんとに見上げた者と言へますがな。一個の平民有馬賴寧となつて、その實力を示して貰へると大變嬉しいんですが、その決意は如何ですかね』

讀『いや、それやいゝ事をいつてくれましたね、そこまで行かなければ本當の新體制じやありません。近衛公にしても有馬伯にしても、やられる氣なら、斷乎として有馬さんから平民になつて貰ひたいものですなあ。近衛さんの方は一寸待つてもいいでせう、何様五攝家の筆頭で日本一の名家ですからね。然しそれにしても有馬伯が、本部長になつて直ぐに貴族院議員も産組中央會頭も辭めるといふ、これだけでも大いに賞むべきですな、流石は有馬さんですね、では今日はこれで失禮しませう』

都新聞『新聞報國』の正體暴露

(附けたり)

△笑はせる無償提供の大見得



讀『今日の傷痍軍人慰安大會はなか／＼盛んで、殊に野依社長の講演は大變に力強いものでしたね、僕等も勇氣が付きましたよ。軍人に對し、あれ丈け眞實を打ち込んで話をするものはないでせう一般の來會者も演藝の面白味よりも、愉快な話を聞かされたと思つたでせう。特に、今朝の帝日を見て初めて氣がついたんですが、都新聞はえらいことをやりましたなア』

記『全くです、政府の政策上に重大な支障を來すやうなことを大々的に發表してしまつたといふのですから、迎も只では濟まされませんね。かういふ問題をその儘にしておけば一大惡例をのこして、新聞統制上恐るべき禍根を残しますからね』

讀『この間電話問答で都の惡口をこつびどくやつて居つたが、痛快に思つたものゝ都をそれほど悪くも思へなかつたのですが、今日の帝日の新聞戦線を拜見してから、なるほど帝日に攻撃される筈だわいと思ひました。天下の公器であるだの新聞報國だの、必要とあらば國家に

無償で獻納するだのと言つた手前からしても、都自身自ら廢刊すべきぢやないですか』

記『實際その通りです、國家に無償で提供すると云つたのだから、この際廢刊したら無償で提供したことになります。國家の必要とあらばと言つてゐましたが、今正に國家は都新聞の廢刊を必要とする場面に直面したぢやありませんか。一體都の社長の福田英助なんといふ男は相場師か會社屋でも専門にやればいゝ男です』

讀『僕たちは福田社長の人物をよく知らぬからハッキリ言ひ得ないが、それにしてもとにかく横濱取引所の株を都新聞の名前で三萬七千も持つてゐて、都新聞社長が取引所の理事を兼ねてゐるといふことで、大抵人物の程が知られますなア』

記『政府が新聞が多過ぎて減らしたいと云つてゐる折柄であるから、政府のその意志に従つて都新聞はこの機會に廢刊するがいゝです』

讀『全くですな、どうも新聞界では帝日だけが大いに存在の意義がありますね、帝日が何物も憚らずに、正を踏んで恐れずといふ態度でやつてくれるから、いろんな重大問題の内密が暴露されて綱紀肅正の上から甚だ嬉しいです。大いにやつて下さい。』(一五、九、二二)

—寫眞は福田都新聞社長—

盛り上る下からの力を待つといふ

近衛公の眞意は何處にあるのか

(附けたり)

△富田書記官長は代議士がお嫌ひ?

讀『今日の自由論壇は馬鹿によいすなあ、全く盛り上る下からの力を待つといふ事は成程あの通りですね。あゝ云はれて見ると成程と思ふが、然し流石に近衛さんだ、下から盛り上る力を待つなんていはるればこれが民衆政治である、近衛さんはお公卿さんにも似合はず全く理解力がある、と思つて喜んでゐましたがね』

記『それは喜んでよいでせう、兎に角その精神だけでも民衆の力に待つ、民衆の自覺を望むといふのだから結構ですよ。たゞ、時局乗り切りの上からいつて、それぢや間に合ひませんか』

讀『全くさうです、その點を野依さんが自由論壇で指摘された事にはひどく感服したんですがね。吾々の喜びといふものは全く糠喜びであつたかと、今更乍ら實はボカンとしてゐる態からなあ』

らくですよ』

記『何もそんなに失望するには及びませんよ、その方はその方で着々やつて行けばよいのですからね。それに又、近衛さんの盛り上る下からの力に待つといふ意味は、下の方から上の方を自覺させるやう、發奮させるやうに、喧しくいつて貰ひたい、その力を待つのです。それでなければ上の方が却々自覺しないからと云ふつもりで、あんな事をいはれたのかもしれないですからね。まあ、お互ひ大いにやらうぢやありませんか』

讀『成る程、さうかも知れませんが、成る程、その見方も面白いですね。近衛さんの眞意は、盛り上る下からの力を大いに希望し、又、大政翼賛會などでもその方面の指導を大いにやるつもりなのだが、何さま官僚が多いので、希望通りにも行かなかつたまでの事かも知れませんがね。』

私の聞いたところでは、どうも富田内閣書記官長などが餘りに官僚的で面白くない、現に大政翼賛會に貴衆兩院議員を會員とするといふ時に、貴族院議員の方は何だが、衆議院議員を全部入れるなら考へものだとか、いつたといふ話ぢやありませんか。何でも、内務大臣や内閣書記官長などは、馬鹿に舊政黨の力を排斥したがる風があるさうぢやないですかね、實

際どうなるんでせうか』

記『さうですね、先生方が政黨嫌ひなのは事實らしいですね。然し、富田書記官長が衆議院議員を大政翼賛會の會員とする事に反対したといふ事實が假にあつたとしても、それは肚からの眞意ではないでせうなあ。何さま、右傾のある一部の人々の中には、馬鹿に舊政黨嫌ひがありますからなあ。

ところが、その人達に富田書記官長はつゝかれて、已むを得ずそんなやうな事をいつたのではありませんか。まあ兎に角、一應衆議院議員を會員とする事に反対したといふ形になつたら、それでいゝんでせう』

讀『全體、大政翼賛會なるものには會員といふものがなく、翼賛會の役員のみを會員としてゐて、一般國民は會員にはなれないんですね。然し、貴衆兩院議員だけは憲法で議會が認められてある以上、議員は憲法上認められた政治家なのであるから、それは役が付かうと付くまいと、皆會員といふ事にしたのですね。つまり、翼賛會は議會を無視するものでないといふ態度を明かにするため、翼賛會の議會局にもその人があつて、そんな風な事になつたものと見ることが出来るでせうね』

議員達を會員として認めないなどしようものなら、盛り上る下からの力との連絡といふ様なものは無くなりはしませんか。何れにしても、下からの力を盛り上げるやうな指導をやらなくてははいけませんなあ』

記『全くさうです、それにしても、上の方が盛り上らなくては駄目です。その一番上といふのが元老重臣ですから、あれ等が身の程を知つて本當に滅私奉公を心とし、忠義心を起さなくてはいかんです。どうです、この問題はこの邊でよくはないでせうか、ではこの邊で失禮しませう』

近衛家は公爵を拜辭しても

(附けたり)

△澁澤榮一翁一代の大失策は何か

讀『新體制に對する國民の疑惑が大分あるやうですなあ、併しこれは一應尤もではないですか
新體制といへば古い間違つた事を改めるといふ事と、日本の國體にふさはしい政治、道徳、
産業、經濟政策に改めて行くといふ事でせう。それがどうもさういふ風にならんとあつては
疑ひが起るのも尤もと思ひますなあ。

だから、それには「帝日」が主張するやうに、華族制度を廢止してかゝるといふ事が一番
必要で、それをやれば國民は歡喜して如何なる困難を嘗めても、正しき新體制にどしどし向
つて行くでせう、さうではないですか』

記『全くその通りです、だからさういふ意味に於て、吾々は先づ以て軍人の華族から、辭爵の
第一歩を切つて貰ひたいと思ふのですよ。それで先づ本庄、荒木兩男爵から御實行が願ひた
いと思ふのですがね』

讀『全くさうですよ、それにしても新體制を唱へらるゝ近衛さんも、公爵を拜辭して貰ひたい
ですなあ。近衛家は日本一の名門として、明治二年に爵位の制定されない以前から、五攝家
の一として重きをなしてゐました。公爵近衛となつてからよりも、寧ろより以上の聲望があ
つたといつてよい位ですから、近衛さんなどは、公爵の肩書があらうとなからうと、聲望に
は少しも關係がないのです。だから國民思想からいつても、政治の點からいつても、その存
在の面白くないと思はせる華族を潔よく拜辭した方が、國家のために、萬事都合がよいので
はないですかなあ』

記『いや、さういはれると本當にさうですね。明治維新前及び維新當時、近衛家が重きをなし
て居つた事を考へて見ると、公爵なんかあつてもなくてもよいわけですね。一體伊藤博文
公が、あんな制度をこしらへたのがよくないですね』

讀『さうですよ、本當に日本を建國の精神に還つた姿にしたいですよ。神武天皇の時代には全
くの家族制度で、そこには特別階級の華族などはないのですからなあ。それにつけて思ひ起
すのは、澁澤榮一翁のことです。あなたの社では翁の御恩を忘れないために、屋上に澁澤神
社を奉建した事は大變よい事です、澁澤子の一生の中で大失態がありますね。

それはです、澁澤翁が子爵を自分一代でそれを子孫に遺さぬやうに、なぜしなかつたのか

と言ふことです。あれ程平民主義を尊ばれた翁が、一代華族にシなかつたといふ事は翁一代の夫失策で、翁の歴史の上に於ての大缺點となりましたね。そこになると九州の炭礦屋、安川敬一郎は偉いではないですか。男爵を一代で拜辭しましたね、澁澤翁の衣鉢を受けてゐるといはれる澁澤敬三君は、よろしく此際子爵を拜辭し奉るがよいですね。いやどうもお邪魔しました、又電話をかけますよ』

(一五、一一、一六)

どういふ所に近衛首相の弱點はあるか

(附けたり)

△書記官長だけは何んとかして

△今にして尙ほ政黨の無力を嘆ずる

讀『あなたの方では近衛公や平沼男に相當つらく當つてゐる様ですが、誰か、あの人達の外に人物がありますかね、それを一つ伺ひたいものです』

記『近衛さんについては我社では支持してゐるのです、排斥してゐるのではありません。支持すればこそいろんな批評を述べ、或は鞭撻の言葉を送つたりする譯なんで、近衛さん以外に人物がないから、是非ともやつて貰はうと思つてゐるんです。ですから私の方の自由論壇で近衛首相に批評を加へた様な場合でも、結局最後に於ては必ず近衛内閣を支持しなければならぬといふことはつけ加へてあるでせう』

讀『成程、さう言はれてみると、よく帝日の態度が判ります。僕達も近衛首相に對して不満があるけれども、さればといつて外に誰も思はれるに思はれるんです。然し近衛内閣の内閣書記

官長だけは、どうひいき目にみてもどうも物足らんですね。これは適任者はいくらでもあるから、取りかへたらどうかと思ひますね。否是非とも取りかへた方がいゝと思ひます』

記『それはさうです、後任者は幾人でもあるでせう。一體近衛さんは、どうしてもつと念を入れて書記官長を選しなかつたか、不思議でなりません。大臣に對しても相當不滿がある様ですね。ある代議士など今度の議會で斷然開き直つて質問するといつてゐます。こんな空氣があるので、都新聞などは内相が翼賛會の總務局長に轉任する様なことを書いてゐました。しかし、あの安井さんといふ人は近衛公のためならどんなことでもする、自分の一身上の問題など全然考へないといふ美點を持つてゐるんださうですね』。

讀『僕達は近衛さんが何故強力新黨を作らなかつたかといふ事について、非常なる不滿を持つてゐる。政黨が解消したといふのも、近衛さんが強力新黨を作ると思つたからなんです。また近衛さんも政黨の解消が先決問題と屢々言はれたのだから、政黨として當然近衛さんが新黨を作るものと思ひ込んでゐたのです。

だから強い言葉でいへば、政黨側は近衛さんの〇〇にかゝつたといへばいへるわけなんです、それを代議士連中はウンともスンともいはすにゐますね。この點からいつて實に意氣

地がないものです。いふべきことをいひ得ないんだから、頼母しくないといふことになる。

何も我々は近衛首相に食つてかゝれといふのぢやないが、一應何とかいつたらよさうなものだが、何もいはないぢやないですか、さういふ代議士連中だから、いろんなことをいはれてもやはり近衛さんでなくぢやならん、といふことになるんで、情けなき限りです。

我々はもう國家本位にすべてを考へたいです、今日の代議士連中の態度をみると、近衛さんでなくぢやならんといひたくありませんね』

記『御尤もです、然し近衛さんが〇〇〇などをやつたといふことはいひたくない、こゝにもやはり政黨の弱みがあつたといひたいですね。なぜかといへば、最初近衛さんが樞密院議長をやめたときは、新黨乗出しであつたことは斷じてまちがひないからです。

それが〇〇〇つてしまつたといふことは、後藤隆之助の昭和研究會の力が動かしたのであるが、また政黨側がこれに對抗して近衛公をしてどこまでも初心を貫かせるべく努力しなかつたといふのは、結局はヤツバリ政黨側が意氣地ないといふことになりませう。

近衛さんのやうな上にすはる人は、御本人の態度如何よりは周圍のものゝ責任といふことになりません。つまりおみこしは、かつぎ手の如何によつては右にでも左にでもなるのだから

そこはかつぐ人間の如何による。それで政黨側が力が足りなかつたから、大政翼賛會になつてしまつたといふの外はないんです。だから近衛さんをかれこれ責めるより、かつぐ連中の方を責めなくてはならんといふことになる譯です。近衛さんの様な人には私心といふものがないんですから、周囲さへしつかりすればどうにでもなると思ふんですが、どうでせう』

讀『然し近衛さんは頭もいゝし、識見もあるし、聰明でもあるのだから、普通のおみこしとは選を異にさせよう。そして私の確信するところでは、近衛さんは新體制は人まかせではない、これは是非とも自分でやらなければいけないといつたといふことですが、そのときは新黨を組織するつもりでさういつたのでせうかね。だから近衛さんは自分でやるといふ方の人ぢやないんですか。たゞあゝいふ上品な家に生れたおかたで、苦勞といふことを知らず、實戦といふものを経てをらない、そこで勇氣が足りない、勇氣と斷行力でゆくところを智慧でゆかう、策でゆかうとするところに、近衛さんの弱點があるんぢやないですかね。

だから、國民が近衛内閣をどこまで支持するかについてはこの弱點を知つて、國民の力でそこを補つてゆく様にしてあげなくちやならんと思ひますね。かういふ意味に於て近衛公に責任を問ふといふ自由論壇をやられたのもいゝけれども、近衛さんに國民總がゝりて力を與

へる様にしなくちやならんですよ』

記『御尤もです、然し野依社長はさういふ意味に於て力を與へてゐる譯ぢやないですか。あゝいふ風に近衛さんに責任を問ふたり、近衛さんに批評を加へたりすると、周囲の者などが、これではいかんといつて、近衛さんのために眞劍になるだらうと思つてあゝいふ論文を發表したのぢやないですか。私は野依社長の氣持を、さういふ様に解釋してゐますがね』

讀『成程、さういはれてみるとそこまで野依社長が思慮分別して、結局は近衛公のためを思ふてやつてのことですかね。それから平沼さんの問題ですが、あの人のことにしても今の大臣の中でみると、やつぱりいゝんぢやないですか』

記『それはさうです、少くとも官僚としての經驗は充分持つてゐるし、一種の潜勢力は持つてゐるし、あの人の總理大臣の時をみても、豫算總會の質問應答でも一番しつかりしてはゐましたね。だから平沼を一枚加へたといふことは、内閣の強味を増したといふことにまちがひない。然し野依社長のいふことは、それよりは何故もつと國民と抱合の姿勢を示さないかといふことでせう。まあこの邊で失禮させよう、もう少し、お話を承りたいが時間の關係で失禮します』



思ひ切つた中島知久平氏の言葉

(附けたり)

△軍部も官僚も聴くがよい

讀『僕に昨晩の中島政友會前總裁の慰安會席上に於て、野依社長が椅子の上に立上つて安藤正純代議士を弾劾した意氣を大いに嬉しく思ふ院外團の一人です。兎に角安藤代議士が御紋章の木杯と一緒に、自分の著書を議會に於て渡させたと云ふことは實に愚の骨頂です。それである『發展日本の原理と新體制』を郵税先拂で、衆議院事務局に返す可しと提議した野依社長の提案が頗る好評でしたね。』

中島さんの慰安會は實に意氣が溢れてゐましたね。望月、中島兩先生のあの話を全部帝日に出して貰ひ度いですね、實に結構なお話しでした』

記『野依社長はそんな事を言つたのですかね、まるで青年の意氣ですね、椅子の上に立ち上つたのですか、僕達から云ふと何かもつと自重して貰ひたい様な氣がしますね』

讀『そんな事は有りませんよ、自重もくそもあつたものではない、大いにやつてもらはなくては困りますよ』

記『望月先生のお話は明日の新聞に掲載されますが、中島さんのお話は出ませんよ』

讀『全然出ないのでですか、それは困りますな、あの偉い話を出さずにどうしませうか、速記に取られたかつたですね、實にえらい雄大な大決心の話でしたよ、是非出して貰ひたいですな』

記『全然出ないといふのではないですが、明日の紙上には出ないといふだけです或は出ない。かもしれませんかね、一體どんなことを中島さんは仰つたんですか、御記憶があるならおはなし下さいませんか』

讀『それは仲々うれしいことをいつてましたよ、まづ大政翼賛會に對しては、何ぶん最初の希望の様になつて居らない、自分達の意志に副ふてゐないと明確にいひ切りましたね。そして然し翼賛會もまだ生れたばかりで成長しつゝあるのだから、我々はこれに出来る限り援助を與へねばならんといひました。そして更にそれでもよくゆかないときは、他の新しき政治組織のために努力しなければならん、といひましたよ。』

さういふ意志は、強力新黨を作らねばならないといふことなんですよ。あの人の地位にしてこの位のことを公言することは、餘程の氣魄と決心がなくてはいへないことです』

記『さうですか、そんなことをいひましたか、仲々えらいですな。元々中島さんの意見といふ

ものは近衛さんを總裁にいたで、強力にして根本的に改造された新黨を作りたいといふのがその希望だったので。成程、あの内氣にみえる中島さんがそれだけのことをいはれたことはえらいですな、あの人は考へがあつても、これを仲々外部に言ひ現はさない人ですからね』

讀『まだえらいことをいひましたよ。高度國防計畫をもつと眞剣に國家の責任と犠牲に於て、それを實行する様に政府が乗出さなくてはいけない、今の日本に高度國防の問題位重大なものはない、然るに政府のなすところをみると、それが一向計畫されて居らない様にみえる。政府のやりかたをみると、たゞそれを民間事業家にまかせてあるのみである。そんなことは高度國防國家は實現出来るものではない、よろしく國家の資本を以てやらねばならない、國家保證の事業手形をドン／＼出して民間に資金を興へてやらせなければいけない、ドイツはそれをやつたから、わづかの間にあれほどの驚くべき高度國防が實現したのであるといひました』

記『成程、えらいことをいひましたね。そのいはれることは大したことではないが、中島さんの地位で以てそれだけのことをいふとは仲々えらいことですよ。非常な決心ですね、第一全

くの私心がないのでなければそんなことはいへません。自分が中島飛行機の創立者であり乍ら、それだけのことをいふことは全くの國家本位に立たねばいへることはないですな』

讀『實にその通りです、だから僕達は感激しましたよ。それから損があれば國家が全部これを引受ける、利益があればみんな事業家が取れ、要は高度國防の實現にあるといふやりかたでなければならぬ。』

米國が既にその方法でやりはじめてから非常に國防事業が進んで來たのである、日本でも高所大所に立つてさういふやりかたにしなければならぬと、大膽率直にいひましたね』

記『成程これはなか／＼えらい、私心が微塵もあつてはそんなことはいへませんな、一方に損があれば國家が全部これを引受ける、といつても結局國防計畫が實現出来ればそれでいゝんですからね。又利益があつた場合、全部それを事業家にやつても、それをあとから税金の名で取上げたり、或はその利益を事業資本にドン／＼使はせたりすればいゝんですからね。損も得も結局一國內に於ける出來事ですから、その調節とアンバイさへ旨くやつてゆければ、それでいゝんですからね』

讀『全くですよ、それを官僚のわからずやが事業がおこらぬ様に利益を興へる、資金調節はむ

づかしいことをいふ、國家の名に於ての損害保證などいふことを全然考へぬやりかたで、どうして高度國防が實現出來ますかね。まだ中島さんはいろんなことをいひましたが、私の覺えてゐる要點はこんなものです、どうです、えらいぢやありませんか』

記『成程、うちの野依社長が、中島のために絶對的の支援をなすといふのも道理あることですが、それにしても中島といふ人は所謂大衆性、政治性に缺けてゐるのぢやないですかね』
讀『その嫌ひはありますね、然しそこにまた絶大の信用性、確實性がうかゞはれますね、兎に角中島は大物ですね、まあこの邊で今日はやめておきませう、左様なら』(一五・一二・一)

——寫眞は中島知久平氏——



小林商相の歸朝談は本當か

(附けたり)

△結局シンガポールを叩くの外ない

讀『小林商相が歸つて來たのはあれはどういふわけですか、その真相を知りたいものです。何だか小林さんの話を伺ふと、順調に話は進んでゐるといふ事ですが、あれは本當でせうかね』

記『勿論、本當でせうよ、一國の大臣が嘘をいふ事はないですからね。尤も議會などでいつた事を実行しなければ嘘になりませうが、今度の小林さんのこの歸朝談はそんなものでなく、交渉した蘭印の相手があるんですから、嘘を云へば先方からすぐに突込まれるわけになるので、嘘は云はれない譯でせう。だから本當を云つてゐると思ひますがね』

讀『成る程さういふ風に考へれば、小林さんの云はれる事は、本當と云はなくてはならんです。然し、日本としてはそれでよいんですか、石油の交渉がまとまつて居らないと小林さんが云はれてゐるが、それが日本としては一番問題ですね。』

年八百萬トンも産出する石油の販賣先は、英米勢力圏の印度、海峡植民地、オーストラリ

ヤなどであるが、それを輸送する船舶、その他の條件が悪化のために思ふやうにさげなく
なれば、日本に賣らなければならぬやうになるかも知れんといふ事も、一應は考へられる
に違ひありませんまい。日本としては、さういふ風に考へて居ればよいんでせうか』

記『さうですね、さうばかりも行かんでせう、小林さんも云はれて居るやうに、向ふでは英國
が勝つやうに思つてゐるので、蘭印からいへば敵である獨逸と日本が同盟したんだから、い
ま／＼しく思つて日本の要求を仲々容れんでせうなあ。

然し、英國がヨーロッパで倒れるやうな事になれば、蘭印からあべこべに日本に使節が來
るやうになるかもしれんと、小林さんが云つてゐるが、さういふ點から見ると英國を負かす
といふ事實が必要になつて來ます。それはたゞ單に蘭印問題ばかりでなく、支那事變の上か
ら云つても英國をやつ／＼ける事が必要ですね。米國が支那に對しどこまでも援蔣を續けるな
どといつてゐるのも、英國がまだ敗北しないからの事で、英國が愈々敗けてしまへばそれで
問題はなくなります。そこで日本としては、英國の東洋に於ける根據地シンガポールを叩き
つける事が一番よいんですね。この點は帝日の自由論壇がしば／＼云つてゐるところであり
ますが、何故それを實行しないのか我々にはわけがわからぬですよ』

讀『全くですなあ、所でどうですか、獨逸はバルカンの方では大體外交を巧くやつてゐる。あ
の調子で爆撃を續けて行けば、この冬にかけてロンドンは何論、英國全體が困るでせう。だ
から、英國も手をあげるやうな事になるのではなからうか、もしそんな事にでもなれば、蘭
印も日本の要求を容れる事になるんぢやないでせうか』

記『若しもそんな事にでもなれば、日本としては全く獨逸のお蔭で蘭印問題も解決するといふ
事になり、些かはづかしいですなあ。はづかしくたつて、他人の禪で相撲をとつたつて、結
局利益を得さへすればそれでよいではないかといふのでは、日本精神も大和魂も泣き出しや
しませんかね。ですから、僕達は是非とも日本の力で蘭印問題を解決すべく、シンガポール
を叩きつける事が必要ではないでせうか。日本がその決心で實行に取掛ければ、米國など何
も手は出さぬし、フィリッピン、マニラ等も平穩無事ですよ。小林さんのお話を聞いても、
我々の見當では、どうしても英國が參らなければ却々蘭印は日本の要求を容れないだらうと
思はれますね。シンガポールを叩けば、蔣介石も日本の決意と日本の威力を認識して、餘程
考へが變つて來るでせうな。まあこの問題はこの位にしておきませう、では失禮致します』



芳澤さんは何故蘭印に行くか

(附けたり)

△あの粘り強さでお手並を

讀『蘭印といふものはあれは普通の意味の植民地とちがつて、オランダの領土になつとるんだそうですね。だからフランスが、印度支那に總督政治をやつてゐるのとは意味がちがふやうですね。従つてドイツが力さへあれば、そこへ出て来て占領すべきものだと思いますね』

記『蘭印があなたの云はれる様な意味のものかどうか、さういふことは知らなかつたですが、何れにしてもオランダのものである、だからオランダの本國を占領したドイツの、謂はゞ戦利品であるといふ風に思つてゐましたがね。何れにしても今更あなたが、それを問題にして云はれるのはどういふ意味なのですか』

讀『それはです、さういふ次第であるから、今更日本としては、今も芳澤謙吉氏などを派遣しなくても、外に何とか國策遂行の上から、打つ手がありさうなものだといふことを、御相談

したいと思ふわけです』

記『なるほど至極御尤もです、私共もさう思ひます、まア何れ政府でも何か考へてゐるんでせう。それにしても今誰も行つてゐないのはいけないから、芳澤元外相をやるやうにしたといふ様なもんぢやないですかね』

讀『私はそれが好きませんよ、それはそれとして芳澤さんが派遣される様になつたのはあの人がねばり強い、言換へればスローであるから、蘭印向だといふのださうですね』

記『なるほどさうでせうね、何様東支鐵道をソ聯から買取る時に、カラハンといふ代表者と芳澤代表とが百回近くも交渉したんでせう。さういふ意味において芳澤さんならいゝといふことになつたんでせうね、蘭印のやり方といふものは迎も手がつけれないといふことぢやありませんか。』

世界ではジュウが一番狡い、金にかけてきたない、といふやうな事になつてゐるが、オランダ人といふものはジュウ以上だといふことですね。そのオランダの中でも又蘭印に行つてゐるのは、オランダの中のジュウといふ連中なのださうですね。迎もずるくて手がつけれぬといふことぢやありませんか。例へば昨日言つたことがもう今日はアテにならぬといふ

んださうですね。昨日話した人間が来るかと思つてこつちで待つてゐると、今度は代つた人間が出て来て話を新しくするさうですね。昨日の人はどうしたかといふと、あれはもう今日やめましたといふ様なことを平氣で云ひもし、やりもするといふことですよ。

だからさういふものを相手にするには、芳澤さんの様な人でなけりや皆怒つてしまふ、怒つては又話しにならぬ、そこは芳澤流のねばりで行かなけりやいけないと云つた様なことからして、あの人が行く様になつたといふ話ちやありませんか』

讀』なるほど、さういふ蘭印の人間ですか。尤も小林さんが歸つて來られた時の話にも、英國と何の話をもとめる時にも、九年間も話をする／＼引つぱつたといふやうな前例がある蘭印政府のやり方だから、逆もそんなに早くは行かない、氣長くしなければならぬと云つて居られましたね。

さういふものを相手に選ばれた芳澤さんも、なか／＼相當なものといふことになりませぬそれだから、さういふ點を見込んで犬養毅さんが娘さんをやつた様な譯ですかね、さういふ點が、かどうか知らないが、新橋で有名な美人の年増が芳澤さんにほれてゐるんだが、芳澤さん一向相手にしないといふ逸話を聞いてゐますよ。

何かしら私は松岡外相の態度には甚だ感服しません、政黨解消を唱へたり、ジュネーヴに行つたりした人だから、もつとどうかした人だと思つたんですが、困りますね。今度の日支基本條約の成立にしても、私は言ひ度い事があるが言ひませぬ、松岡さんももつと眞實な人になつて貰へぬものですかね。

外務大臣になる前までは、俺が外相になつたら直ちにシンガポールを打つんだと云つてゐたといふことだが、事實はどうだらうか。もつと言ひたいことがあるがまア云ひませぬ、これで失禮します』

——寫眞は芳澤謙吉氏—— (一五、一六、一七)

頭山先生の會てなけりや見られぬ圖

(附けたり)



- △松岡外相が大氣焔をあげた
- △議員俱樂部總會で騒いだ連中
- △上海テロ撲滅に獨逸式の手を打て

讀『今日の頭山先生誕生祝賀會には、あなたの方の野依社長も行つて居られましたね。私は頭山先生の子分ちやからロク／＼食卓にもつかんぢやつたが、あなたのところの社長の前に岩田愛之助先生、その隣りに出て来たばかりの井上日昭さんが御座つた。野依社長の前には赤池元警視總監、野依さんの隣に池田前警視總監が、メインテーブルの一角を占めてゐた配合は仲々よかつた。あんなことは頭山先生の會でなくてはみられんと思つた』

記『さうですか、私はゆかなかつたのですが、然しあしたの帝都日日の第二面をみてください。頭山翁祝賀會の大記事が出ますから御覽下さい、なか／＼松岡外相、熱をあげたぢやありませんか』

讀『實はそれについていひたいことがあるんだ。なか／＼松岡さんやりをつた、實にえらいことをいつた。然しだ、どうせあの先生は口先許りの先生ぢやないかと心配する、外務大臣になる前には俺が外務大臣になる様な時があれば、シンガポールを直ちに衝かせるといつたが一向それをやらんぢやないか。

誠に人間も正直ものでなかなかよくしゃべるが、行ふことはだめぢやが、今日の頭山先生への式辭は満點ぢや、是非あの意氣を實行して貰ひたいんだ。言ふことの旨いことは松岡さんも近衛さんも同じことぢや、實行の伴はんのぢやだめぢや、帝日できつうしかつておいて貰ひたい』

記『承知しました、あなたの仰有ることは御尤もです、全くさうです。口ばかり達者でも困りものですが、然し口だけでも言ふことがよければ、そのいゝことを他人がやれば、それだけでもいゝわけですね』

讀『そりやさうぢや、この頃人心不安とか何とかいふ話もあるが、今度の近衛内閣の改造ぢや一番不安なのは大臣といふことになつたぢやないかな。この夏に出来たばかりの内閣で大臣の首が早や、大根の首を切るが如く切られちやこの次誰の首かと思ふ。今度は俺か誰かと不

安が募るぢや、さうなると仕事も本氣にやれまい、困つたもんぢや』

記『あなたの説は一應御尤もですが、いやしくも御親任を賜つた大臣の辭職を、首を切るなんて言葉で云ひたくないですな。』

安井、風見の二大臣は首を切られたのではなくて、自ら辭職したのでせう。近衛さんだつていやしくも御親任を賜はつた大臣を取りかへるのに、大根の首を切る様なそんな不心得なことを考へては居りませんよ。慎重にやつたのでせうと、思はなくぢやならんぢやないですか』

讀『さうかしらん、議員俱樂部が出来るに當つて、その總會席上で役員決定に不満のある鳩山系及び舊民政黨系が、規約の問題などで發案者側に突込んで、それに應援も與へるものなど出て來て、一波瀾をまき起したのはみつともないのぢやないか。その名前はあんなの方でもわかつとるぢやらうが、書いて貰ひたい。』

鳩山系では安藤正純、植原悦二郎、宮脇長吉、名川侃市、世耕弘一、森田福市、深澤豊太郎、河野一郎。舊民政黨側では福田關次郎、木曾三四郎、土屋清三郎、川崎克等がその仲間ぢやつたが怪しからん奴らぢや』

記『全くさうですね、殊に安藤正純なんでものは、大日本佛教青年會の理事長をしてゐるんですが恥しくないでせうか、彼は先般議會開會五十年の際、畏くも 天皇陛下の行幸あらせられた日に於て、當日參會者一同に御紋章の木杯に安藤自身の書物をつけて衆議院に配布させたシレものですからね。またしてもシヨウこりもなく醜態をやつたんですかね、全くどうかしてますね』

讀『今日の電話問答に英國に學ぶべきものありといふのが出てゐたが、たしかにあの通りぢやわしはドイツにも學ぶべきものありと思ふ、あのキビ／＼したやりかたを真似て貰ひたい。一體日本が上海を今に占領々々といふが、ドゲンもコゲンもあつたもんか、ちよく／＼テロが起つて日本の憲兵曹長やなんかテロに殺されちやたまらん。我慢出來ん、あれがドイツだつたらどうする度重なる數十回のテロはもう容赦相成らぬとして、上海を占領したにちがひなからう。占領せんまでも日本憲兵が一人やらるれば、その復讐として支那人を百人位、一度に首切りを民衆の前でやつてみせる位のことをやるぢやろ。ドイツはその式ですべてを徹底的にやるので、ポーランドでもオランダでもベルギーでもフランスでも治つて行くのぢやろ。何故日本はかういふ點をドイツ式にやらないのか、憤慨に堪へない』

記『至極御充も、どうせ戦争中ですもの、思切つた事をやらなきや戦争はかたづきませんな、治安もうまくゆきません。だから一人こちらが殺された場合、先方を百人殺すといふのは一面惨酷の様にも見えても、それがため事變が早く解決すればその方が道徳的になるかも知れない。全く日本も支那に於てもつと思切つたことをやらなければだめですね』

—寫眞は頭山滿翁— (一五、一二、二二)



松岡外相も何かやるだらう

(附けたり)

△國民はシビレを切らしてゐる

讀『あなたの方では大分松岡外相につらく當つてゐますね、元よりあなたの方の眞意は分つてゐます、つまり國家思ひから出てゐる言葉であるといふ事は分つてゐますがね』

記『勿論國家思ひです、然しですね、まア聞いて下さい。日獨伊同盟が成立したから、日本も大いに外交上に飛躍的な手を打つかと思ひの外、舊態依然として一向新面目を發揮しない。こんな事ぢや、敵も恐れなければ味方も頼みとしないのぢやないかとそれを恐るゝのです』

讀『本當にさうですね、何故當局者は斷然たる處置に出ないでせうか。日獨伊同盟の後においては、日本が斷然佛印に進出するだらうと思つたのに、それをしないので獨逸も伊太利も、日本はそんなに頼み甲斐ない國だらうかと言つて、呆れてゐるといふぢやありませんか』

記『成るほどネ、さう思ふのも無理がありませんね。日獨伊三國同盟成立の直後、日本が尠く

とも香港を占領するだらうと思つてゐたのに、それをやらないので、ソ聯までも日本を馬鹿にしてかゝるといふぢやありませんか。だから松岡外相の肚の中にどんな計畫があるか知らないが、それが分らぬ我々は悲觀しますよ』

讀『全くさうですね、松岡外相もあれほどの人物だから、何か考へちやゐるんでせうけれども日獨伊同盟にしても國民の力で出来上つたのに、同盟は僕がやつたんだといふやうな態度では困りますね』

記『松岡さんのさういふ稚氣もいい、彼にどんな肚があるか知らないが、斷然たる強硬外交をやらなければ支那事變は解決しませんよ。松岡さん、何とかして下さいといふ外何も言ひ様はありません』

讀『松岡さんが愛國心に満ち／＼てゐる人だといふことはよく分る、けれども何か足りないところがあるんぢやないでせうか、失禮ながらさう思ふんです。然し松岡外相を信頼するとして暫らく待つてゐませう、今日はこれ以上申しません、左様なら』——寫眞は松岡外相——

(一五、一二、一三)

“邪魔物樞密院”と言はるゝ勿れ

(附けたり)

△中小商工業者の問題はどうか

讀『官吏制度改革案は一體どうなつたのか、この問題などは、近衛内閣が一番先きに是非實行せねばならんと言ひ出しておき乍ら、何を一體してゐるのかといひたいです。無論改革といふことは、何事でも手ツ取り早くゆかぬことは、ある點まで僕達も承知してゐる。某閣僚の様に、明治維新だつて仲々そんなに手ツ取り早くゆかなかつたからね、といつてゐるのは無論ある點まで首肯し得られます。』

けれども、官吏制度の改革位がやれん様でどうするか、馬鹿をいへ、と僕が憤慨したら、豈圖らんや、それは、とつくの昔樞密院に廻してあるが、審査が一向進まないといふことを聞きました。實に樞密院の爺さん連中、怪しからんですな』

記『全くあなたの言はれる通りです、樞密院で引つかゝつてゐるんですよ。一體樞密院の爺さん達が國家開闢以來の大事變中にあつて、政府の提出したものを審査などする、そんな呑氣なことをやつてゐられちやたまりませぬね。何様樞密院の議長は原嘉道さんですからな、あ

の人は現状維持派のクチ／＼であるとかいふ噂ではありませんか、無論保證などしませんがね。昔から樞密院といふものは、内閣の鬼門といはれてゐます。そりや樞密院だつて百の中には一つ位は、政府に對し頂門の一針となる場合もありますが、然しどちらかといへば……いやあんまり徹底的にいひますと何ですから、まあこの邊でね』

讀『さうですね、兎に角樞密院といふものは、年の若い頭のいゝ氣力のあるものと全部取替へたいですね、あの老人連の中には、何々閣といふやうなものがあつて面白くないといふぢやありませんか。日本の政治が外交でも何でも後手々々となるのは、樞密院などの御研究やら御調査やらがあんまり入念すぎるからであるといふではありませんか』

記『さうですよ、それは私の知つてゐる某々若手官吏がさういつてゐますよ。新聞などにあの記事は書けない、この記事は書けないといつた様なことになるのは、兎角樞密院などが愚圖愚圖してゐるからだとは、これまた官僚と新聞記者との同一意見ぢやないんですかな』

讀『ほんたうにさうですね、樞密院が近衛公に多少の反感を持つてゐるとかいふ噂もあります、馬鹿にしてゐるではないですか。或る意味に於て、近衛公は自分達の仲間ではないですが、現に三ヶ月程前までは、近衛公が樞密院議長ではなかつたですかね。而してまた國家の

重大時局を考へたら、近衛公に對して不平を抱くなんて、大それた話ですよ。尤もその樞密院の態度は、眞偽保證の限りではないですよ、噂ですよ。然しそれにしても、近衛内閣はもつとしつかりして貰ひたいものですね』

記『ほんたうです、中小商工業の對策はどうしたのか、掛け聲ばかりぢやないですか。何だつてやる氣になればすぐやれるんですし、小林商工大臣も船の中で充分考へて歸つて來られたんでせうから、さつさと實行するものは實行したらどんなもんですかな。小林さんの外には村田遞信大臣などの財界出身者も居られるのではないですか、いくら利害得失を何へん考へても同じことですよ、たゞ早く斷行することあるのみですよ』

讀『實際さうです、小林さんがまだ歸京しない前に經濟關係の閣僚が相談會を開いたとき、關係者でない秋田拓務大臣がその中に飛込んで勅令でやつたらいゝぢやないか、それが出來なければ臨時議會を開いたらいゝぢやないかといつたといふ話ですな、ほんとうにその通りです。今日はまづこの邊で打切つてよろしいでせうか、では失禮をします』

御殿女中のやうな貴族院の内幕

(附けたり)

△研究会に有馬伯への反感がある

讀『電話問答は今日ばかりでなくいつも面白いのですが、殊に今日のは痛快でしたね。樞密院をやつゝけたのは實にいいです、ほんとに樞密院こそ爺さん連中でなく、四五十歳位のもので大いに識見のあるのを入れたいものですな』

記『全くさうですよ、樞密院も樞密院だが、しかし貴族院もいけませんね。どうですか、大政翼賛會の議會局において、貴族院議員だけがまだ人員が揃はんぢやないですか。それは實に貴族院の内部、殊に研究会において、有馬頼寧伯に反感を持つてゐるものが多いからだといふ話ぢやありませんか。

一體、貴族院といふ處は昔から御殿女中式で、さういふ態度は屢々あるんです。そこへもつて来て、伊澤多喜男のやうな何ともかんと云ひ様のない悪玉が居て、いろんな入れ知智慧をするからどうもいかんですよ』

讀『さうですよ、伊澤は例の現状維持派と通じて、相當暗躍してゐるといふぢやありませんか。新體制となれば政府としても、どうしたつて貴族院改革に手をふれざるを得ない、それをふれさせまいとする下心からして、貴族院がスネてゐるんですよ、いやはや不都合とも何とも云ひ様がないですな。

有馬が貴族院議員をやめるにしても、一應何か話してもいゝぢやないか、自分が大政翼賛會で活躍するからと云つて、弊履の如くに貴族院議員をそんなに見下げたやうな態度を取らぬでもいゝんぢやないか、と云つた様なところから、反感があるんだといふぢやありませんか、全く不都合極まる態度です』

記『全くです、中には近衛が怪しからぬ、すべて有馬となれ合つて仕事をし、我々を眼中におかぬといふ様な、不平を云つてゐるものもあると云ひますからね。しかし貴族院の連中だつて帝國の臣民でせうから、恐れながら大御心を拜し奉つて、翼賛會に協力するやうにしたらいいんぢやないですかね。

それでなくても、とかく民間側から公爵と伯爵で何が出来るか、有馬や近衛で新體制が出来ると思つてゐるか、時局が乗り切れると思つてゐるか、顔を洗つて來い、といふ様な蔭口

を利くものがちよい／＼ある様ですね。この秋に當つて、貴族院が謂はゞ内輪からケチをつけるやうな態度に出るといふことは、憎んでも餘りある奴どもですね』

讀『さうです、貴族院のもの達が本當に大御心を拜し奉るならば、眞先になつて貴族院改革を實行するやうにし、近衛内閣が萬事新體制のやり易いやうに協力しなくちやならぬ筈なのに一體何といふ態度なのでせうか、恥も外聞も知らぬといふのは貴族院のことではせうな。まア彼等をして行くところまで行かじめよと云ふのほかはないでせう、彼等としてはそれも自業自得でせうが、國家としては迷惑至極な話ですな。それにしてもどういふものか、右翼の方で貴族院改革だのいふやうな聲が餘り聞かれないのはどうしたことではせうか』

(一五、一一、一八)



大政翼賛會に面白からぬ貴族院

(附けたり)

- △有馬頼寧伯に對する反感
- △前田米藏にあきたらぬ者
- △一番イケナイ伊澤多喜男

讀『貴族院といふものを、あなたの方では／＼コキ卸したのは、まことに痛快に思つてゐます。若しも東京の新聞が筆を揃へて帝日流にやつてくれたら、貴族院改革なんかもうトツクの昔に實現出來てゐるわけではせうが、實に情けないものですね。』

どうですか、翼賛會の議會局に衆議院は全部合流して會員になつてゐるが、貴族院は却々翼賛會への賛意を明かにしなかつたぢやないですか、實に怪しからんですね』

記『全くさうです、あなたのいはれる通りです。一體内閣といふものは近衛が首相ぢやないですか、そして翼賛會はまた近衛が總裁であるが、事務局の中心は伯爵有馬頼寧がやつてゐるわけです。』

だから貴族院といふものが、本當に時局を辨へてかゝるならば、眞ッ先に翼賛會に賛意を表して、全部が會員とならねばならん筈なんです。それが今日までのところで漸く火曜會、研究會、公正會だけが翼賛會の議會局に合流する意志を、二三日前に決定したといふ次第ではないですか。

實に不屈き至極ですね、翼賛會のやり方がイケナイ、近衛内閣に反対だ、だから主義主張の上からどうしても一致する事が出来ないといふ様な、一つの見識を以ていふのならばそりや又それで宜しい。寧ろ頼母しいとでもいへませうが、さういふわけでもなく、いはゆる御殿女中式の考へから、嫌がらせ的態度からして今以て同成會、同和會、交友俱樂部の三派の勅選團及び多額議員の中に、依然として翼賛會參加の態度を保留するものが頗る多く、殊に例の伊澤多喜男を總帥とする舊民政系の同和會では、副部長と内定した中川健藏と、建部遯吾の兩人以外は未だ合流の意志を發表しないといふんださうです。實に驚き入つたもんぢやないですか、よくも／＼こんな態度が取れるもんだと思ひますね』

讀『全くですね、實に怪しからん。近衛公、有馬伯が新體制に乗出し、内閣を組織し、翼賛會を發足せしめたといふそれに對し、貴族院の多數が漸く二三日前に動き出し、研究會では七

日の常務委員會の結果、翼賛會に出来るだけ多數が參加するやう、各派に働きかける事とした。といふやうな動きを見たといふこの態度は、外國關係に於て一體どんな影響を及ぼすか南京政府などがこの態度を見たらどう思ふだらうか。

蔣介石の方では日本のザマ見ろ、貴族院なんでものがこんな態度ぢやないか、だから日本といふものは内部が一致してゐないんだよ、といった風な宣傳に利用するやうにならんと云へませんからね。これも例の伊澤が中心となつて策動してゐるといふのだから、實に驚き入つた次第ですね』

記『實にその通りです、伊澤なんといふ者に對し、國體擁護團體とか、革新派を標榜する青年諸君などはナゼ黙してゐるだらうかと云ひたいですね。黙してゐるんぢやなくて、伊澤に對し反省を促したりなどしてゐるか知らないが、我々はそれを寡聞にして聞きません。

一體伊澤等が現内閣に好感を持たず、翼賛會に對して楯をつくやうな事をするのは、何に原因するんでせうか、考へて見たいですね』

讀『それは有馬頼寧伯に對する反感があるからといふぢやないですか、それも伊澤だけでなく貴族院全體がさういふ空氣だといふぢやないですか。

本來からいへば、近衛公と有馬伯がやつてゐるんだから、出来るだけ助けてやらうぢやないかといふ事になるべき筈なのが、反對に反感を持つといふに至つては、イヤハヤ驚き入る次第です。一體ナゼ彼等が反感を持つのでせうか、それを考へて見たいですね』

記『さうですね、そこが即ち御殿女中式なんです。又官僚式なんぢやないですか、彼等の往來する天地が狭いんです、つまり競争する範圍が狭いから自然、卑劣な眞似をしたりするやうになるんですね。坊主が内輪喧嘩をしたり、勢力争ひをしたりするのは、これ又彼等の動く世界が狭いから、つまり天地が狭いからそんな事になるのと同様に、華族だとか官僚とかいふのがこんな風にするんでせうね。それに伊澤なんといふ奴は、屢々帝日で云つてゐるやうに變態政慾なんで、まともな普通な正しい政治の行き方は面白くないんでせう』

讀『成る程、然し伊澤なんていふものゝ怪しからんことは別としても、一體近衛さんにも落度がありますよ。初めから新體制をやらうといふのに、何も友人關係にある有馬伯をそんなに寵用するのが間違つてゐるんぢやないですか。』

その人物のよし悪しは別として、自分が公爵で、その相談相手も同じ華族の有馬伯を中心にするといふ事は、全國民を相手にしなくぢやならん新體制翼賛會の發足が、公爵、伯爵を

中心として行はれるとの印象を與へ、甚だ面白くないですな』

讀『そりや全くさうです、然しそれにしても不思議なのは、さう云ふ意味からの反感とするなら舊政黨側や其他右翼團體、革新團體といふ方面から起つて來なくぢやならんのに、その方面の聲が殆んど聞えずして、貴族院の態度が面白くないといふ事になつたといふのは、一體平仄が合はんといふ事になりますナ。然し、またそこには理由がありますね。舊政黨側や革新派、右傾派といつたやうなものから見れば、實は華族なんといふものを問題にしない、といふ考へもあるんでせう。』

兎角問題は外になくて内にあるといふのが時の古今、洋の東西を問はず、通例のやうですね。何でも内輪から問題が起つて來る、そこが人間の弱點でせう。さういつたわけで華族社會、貴族院といふものが、近衛公や有馬伯に反感を抱くといふことになるんでせうなア』

記『成る程、あなたの御觀察は御尤もです。然しですね、時と場合を人間は考へなくぢやならんぢやないですか。苟くも國家開關以來の大事變中、第一線の兵隊は命がけで毎日戦つてゐる、事變以來勅語も屢々換發し賜はつてゐるといふやうな時に當つて、内輪喧嘩見たいな内輪の嫉妬心といふやうなものを起すといふのは、餘り身の程知らずで、大御心に對して畏

れ多い極みではないですか。

何様、外國と戦争してゐる、世界の大問題が起つてゐる時、即ち外に敵を控へてゐる時は内輪といふものは纏まらなくちやならん筈だと云へると思ふんです。さういふ點から考へて伊澤多喜男一派の如きは、全く八ツ裂にでもしてやりたいやうな氣持になりますよ』

讀『全くです、伊澤なんといふものは、政黨華やかなりし頃から、黨政の弊を随分攻撃したものですね。その攻撃も宜しいとして、政黨の事をカレコレ云つた自分である事を考へたならば、彼が勅選議員の一團と語り合つて、翼賛會參加を濫るといふやうな態度に出るといふ事は、何ともかんと云ひ様のない不都合です』

記『伊澤が近衛公にいゝ感じを持たず、翼賛會にも楯つくやうな態度を取る事は、議會局にとかく舊政友系が重要視され、殊に議會局長が舊政友會の前田米藏であるから、これを一つイチめてやれといふやうなところからも來てゐるといふ事です。然し公平に考へて、議會局長として前田米藏位の適任者は外にありますまい。舊民政黨にどれ程の人物がありますか、強ひていふなら永井柳太郎でせうか。けれどもそこは適所適材といふわけで、マア前田の方が場馴れがしてゐる、法律家出身でもあるといつたやうな事から、前田を局長にするのが當

然でせう。その他、政友系に人物が多いやうです。

殊に政黨解消の時でも、政友系が先づ動いたといふ事を考へて見ると、人物もあり、立場も立場といふ事になれば、政友系から多く取るのが當然ぢやないですか。有馬に對する反感近衛に對する反感といふよりは、議會關係から前田に對する反感もあるといふ事です。然しそれは反感を持つ奴が間違つてゐるんです。まだお話もあります。あまり長くなりませんでしたので、この邊で失禮しませう』

—寫眞は有馬頼寧伯— (一五、一二、一〇)



これは翼賛會の大問題だ！

(附けたり)

△岡田總務の舌禍事件起る

△山口縣翼賛會支部が憤起

記者「僕も電話問答を一つやりたいのですがどうでせうか、問題は

大政翼賛會の山口市に於ける發會式の席上、衆議院議員岡田忠彦氏が翼賛會の本部から派遣されて講演した問題ですが、いゝですか」

記者「一向差しつかへありません、さういふ問題があつたんですかね、どうぞお願ひします」

讀「僕は山口縣の生れで、帝日の熱心な愛讀者です。僕は讀んだ後の帝日を國の兄のところに送つてゐるんですが、二三日前、兄から下關で發行してゐる十二月十日付の關門日日新聞を送つて來ました。

それに墨でしるしがしてありますから、何かと思つてみますと、かういふ見出しの記事があります。「縣常務委員より堅き信念を披瀝 發會講演岡田總務舌禍問題」といふので、八日

山口市の公會堂で大政翼賛會山口縣支部發會式終了後、中央本部常任總務岡田忠彦氏の物議を醸せる講演については講演終了後、直ちに常務委員より岡田氏に對し種々質せるも満足すべき結論を得ず、委員間に於て慎重熟議の結果、山口支部顧問、市町村長、常會代表宛左記の如き通牒を發し、岡田氏の所論の誤りを指摘し、本縣支部としては近衛總裁によつて明示されたる大政翼賛の本旨に基き、一路邁進すべきにつき協力せられたいと堅い決意と信念を示した……」

記「まつて下さい、あなたは新聞をよんで居らるゝやうですが、まだ相當長いんですか。あんまり長いんなら電話問答でなく、新聞戦線の方で扱ひますから、その新聞を送つてくれませんか」

讀「あなたの方には關門日日は來てをりませんか、成程、來て居らない。それぢやお送りしてもいゝが、然し電話問答は一番面白くてわかりいゝぢやないですか、御面倒でもさうしてくれませんか。」

記「それもさうですね、それぢや今の文を私の方で筆記をよみますが、いゝですか。まちがひありませんね、それぢや次はどうなつてゐるんですか。」

讀『これは今のよりか倍位長いですよ』

記『それでは速記しますから、速記者と一寸かはります』

速記者『それぢやお読み願ひます』

讀『八日山口市公會堂で舉行された大政翼賛會山口縣支部發會式終了後、中央本部常任總務岡田忠彦氏の物議をかもせる講演については講演終了後、直ちに常務委員より岡田氏に對し種々質せるも満足すべき結論を得ず、委員間に於て慎重熟議の結果山口支部顧問、參與、市町村長、常會代表宛て左記の如き通牒を發し、岡田氏所論の誤りを指摘し本縣支部としては近衛總裁によつて明示されたる大政翼賛會の本旨に基き、一路邁進すべきにつき協力せられたいと固い決意と信念を示した。』

八日山口市公會堂に於て舉行せる大政翼賛會山口縣支部結成式は、勤王の歴史に生きる百四十萬縣民が無上の感激を以て迎へ、これを契機として全縣的臣道實踐運動を展開する事に有之候。然るに式終了後、翼賛會本部常任總務岡田忠彦氏のなしたる「大政翼賛運動について」と題する講演要旨は本運動の精神に背馳し自由主義的傾向極めて濃厚にして、特に國體の本義に關する言辭は全く當支部と所見を異にし看過すべからざる放言と確信仕候。右は當

日御列席の貴職並に貴管下常會代表者の直接聴取され痛憤措く能はざる所とは存じ候へ共、當支部が縣下に大政翼賛運動を發展せしめんとの意圖は、近衛總裁の闡明せる根本理念に基き吾人の體内に脈々として相傳ふ勤王精神を喚起し、現下の維新運動に挺身貢獻し奉らんとする事に有之候。この事たるや結成式における常務委員代表の式辭によつても強調せる所に候。念の爲一應貴意を得、ますます今後本運動に對する御協力を希ひたく如斯御座候。大政翼賛會山口縣支部理事顧問參與市町村長常會代表者殿』

速記者『そこ迄ですか』

讀『いやまだあります』

速記者『それではどうぞ願ひます』

讀『では讀みますよ。』

武井山口縣知事は九日岡田氏事件に對し、左の如き談話を發表し縣の態度及び今後策について明示した。

岡田總務の演説は色々疑惑を招き不安を感じた人は尠くない。勿論吾々も聽いてゐたが正しい翼賛運動の眞意を傳へてゐないことは誠に遺憾である。支部構成の經過について兎や

角言はれるが、これは八日にやれと本部の指示があつた譯で、又岡田氏は本部より派遣されたもので吾々が頼んで来てもらつたのではないことを一應辯解して置く。岡田氏の演説は翼賛運動の展開に障碍を來すため、縣及び縣支部としては政府及本部に事情と意見を報告考慮を促すことになつてゐる。また十日に縣支部理事會を開く故この問題を取上げ、近く顧問、理事、參與などの全體會議を開いて善後處置を講じ、健全なる翼賛運動の發展に力を盡すことを縣民に約束する。

そこまですが一度よみかへして見ます……。まちがひありませんね、どうもありがたう。

記『速記の分はすぐ翻譯しますが、今あなたが速記者に話されたことを読んで下さい。』

讀『それでは讀みますよ……』

記『わかりました、岡田は常任總務ぢやありませんよ。最初常任總務になるはずであつたのが久原の横槍で大口喜六とふりかへられたのです、總務は總務でも常任ではないんですよ。とにかく猪武者で進むことばかり知つて、どうなるか行先のわからない様な男ですからね、たう／＼飛んでもない舌禍問題を起したんでせう』

讀『でも關門日日には本部常任總務となつてゐますよ、とにかくかういふ記事が關門日日に出

る以上、重大な問題があつたにちがひないですね。一體かういふ問題を起す様な男を派遣するといふことがそも／＼まちがつてゐるぢやありませんか。大政翼賛運動をやらうといふのに、翼賛運動の展開に障碍を來す様な言辭を弄する如き思想の持主を、本部の總務に任じたといふことが重大なことぢやありませんか、どうです』

記『全くさうですよ、つまり總務など選ぶ場合に思想を厳選し人格力量また 天皇尊崇の精神に眞に徹底して居るといふ人間を選ぶべきであるのに、舊政黨の釣合ひといふ様なことを考へて近衛一流の勢力均衡主義、あつちにもこつちにも氣兼ねして都合のいゝ様な便利主義でやるから、こんなことになつたのだと我々は思ひますね、残念です。何物にも捉はれずに眞に翼賛運動の本旨にかなふ様な人物を選ぶ氣になれば、いくらも人材はありますよ』

讀『ほんたうにさうですね、何を岡田がしゃやくつたか知らないが、國體の本義に関する言辭は全く黨支部と意見を異にするといはるゝ様なことを云つたといふんだから、餘程脱線したと見えるんですが、翼賛會の本部としてはこの問題を不問に附することは出来ないでせう。

あの人も衆議院で副議長にまでなり、政友會の總務でもあり、久原派の幹事長にもなつたのだから、相當考へもあるはずですからね』

記『しかし岡田は政友會でも鳩山派に屬してをつた方で、つまり自由主義派なんですからね。そしてたゞ我武者羅でやる男ですよ、それから酒を呑みすぎますよ、そして葉巻を相當喫む様ですが、だから頭を悪くしたんじゃないですかね』

讀『然し、久原さんは自由主義ぢやないんでせう。その久原さんが取上げた幹事長だから元はさうでも、完全に轉向してゐるんじゃないですか』

記『久原さんはたしかに國家主義者です、然し岡田は我武者羅の點に於て、久原と意氣相投じてゐるので、思想の點は通じてゐるのぢやないでせう。一體鳩山派議員の轉向といふのは當てになりませんよ、現に安藤正純の如きは今日の電話問答で御覽の様なわけですからね』

讀『それもさうですね、然し齋藤問題の起つた當時の岡田幹事長は、久原派の内部をまとめることに骨を折つた人でせう。まあそれはそれとして、今後翼賛會の本部を代表して地方に出す人選は餘程注意して貰はんと困るですね。それから今度の岡田問題について、翼賛會の責任を明らかにしてくれないと大變ですね。どうも長いこと御邪魔しましたが、一寸待つて下さい、もう一枚關門日日があるんですがそれは十一日の分です。その社説に「岡田總務の舌禍に就て」といふのがありますが、一寸それを二三ヶ所よみますから聞いてくれませんか。

「當日の岡田總務の講演は聞くの機會を得なかつたけれども、我々をして直言せしむれば、この機に臨みあくまで自由主義を固守し、新體制の促進を障碍するものは一般國民にあらずして、多くは舊政黨人か一部財界人である。また岡田總務の言説がたまく物議をかもしたといふも、それは一個の岡田某の問題でなく舊政黨人悉くが尙かくの如き自由主義、個人主義の云々」といつてゐるんですがね』

記『さうですか、それは少し關門日日の社説は事實の真相をまちがへてゐますね。翼賛會の發達を邪魔するのは舊政黨人とか、財界人とは一概にいへませんよ、それなら官僚は一體どんなことをしてゐるか。また舊政黨以外の分子が、何をしてゐるのかといひたいですよ。政黨人といつたつて一概にいへません、政友會でも中島派の大多數は自由主義ぢやないんですからね、久原派の大多數こそ自由主義なんです、無論民政黨にもその分子が多かつたんです。關門日日は岡田某の批評はしても、政黨人のことごとくが自由主義を捨て切れなといふのは、關門日日もまた筆禍問題を起すわけですよ。舊政黨人が決してことごとく自由主義を捨て切れずに居るわけぢや斷然ありません、政友會が元々中島派と鳩山派にわかれたのは革新派と現状維持派とのわかれなんです、國家主義と自由主義とのあらそひなんです、この根

本問題を検討せず、一概に筆を走らす鬨門日日も反省しなくちやいけませんね』

讀『よくわかりました、私は今でも政黨主義者です、あなたからそれだけのことを聞いて甚だ愉快ですよ、岡田問題では翼賛會も責任はあるが、久原房之助さんも責任はありますね。あの人は僕達と同縣人ですが、翼賛會の本部でも、山口縣支部の發會式だから、舊久原派の總務たる彼をやつたらいいと思つたんでせうが、飛んでもない當外れをしたもんですね。どうも大變長いことをお邪魔しました、ではこれで失禮ませう、どうも有難う』

——寫眞は岡田忠彦氏——（一五、一二、一六）

岡田忠彦失言の内容はこんなもの

（附けたり）

△舊鳩山・舊民政系不平爆發のいきさつ

△屬僚政治の内幕

△恥も外聞も知らぬ安藤正純代議士

讀者『この間の電話問答に、山口縣の翼賛會支部發會式で、岡田忠彦が失言したと云ふことが出てゐたが、あの内容を僕は少々聞いたからお話しませうか』

記者『どうぞ是非願ひます、然し國體觀念がどうか斯うとか云ふ問題には觸れないやうにして頂きたい』

讀『それは心得てゐます、私の聞いたと云ふのは、縣支部の意向としてはもつと統制を強めて貰ひたい、もつと消費を規正しなければこの時局は乗切れるものではない』と云ふ風に云つて貰ひたかつたのでした、それを岡田の方ではどうも統制が行き過ぎてゐる、少し引戻さなければいけないと云ふ風に、これは又自由主義根性を少々出したわけで、これが困ると云ふことになつたんださうです』

記「なる程、岡田は鳩山一郎派の鬪將で殊に政友會總裁問題の時、仲々我武者羅を發揮した男です。だからね、立派な自由主義者ですよ。だから一時の方便として久原に投じ、自由主義を清算したやうに見えても、ほんたうに轉向し切れないのだからどうかした拍子に、やつぱり統制が行過ぎるなどと云ふやうなことを口走るやうになるんですよ」

讀「然し、統制は行過ぎた、だから生産擴充が思ふやうにならないと云ふ非難が相當あるぢやないですか。だから岡田の云ふことも一應聞くべきものではないか、と云ふことにもなりはし、いでせうか」

記「それは生産方面のことに就て云ふなら、政府のやり方が餘りに統制に過ぎていけないと云ふのは勿論です。この間も或る實業家が、今政府のやつてゐることは増産擴充でなくて、減産擴充をやつてゐるやうなものではないかと、大氣焔をあげて居りました。

役人達が經驗も何もない頭で、自分勝手に、斯くあるべしと云ふ主義でやつて行かうと云ふのだから駄目なんです。だから、その點に就て岡田が統制が行過ぎてゐると云つたのなら結構ですね。ところが岡田の云ふのは、さうでなくつて消費節約の點に於て行き過ぎてゐる、もつと餘裕を與へねばいかんと云つたんぢやないですか、だから問題が起つてゐるんです。

増産實現のために云つたのなら、何も問題起すわけはありませんよ」

讀「それなら、なぜもつと増産計畫をどしどし實行しないのでせうか、思ひ切りやつたらよささうなものですがね」

記「そこがです、大臣は兎も角、下ツ端の官僚は唯自由主義を抑へると云ふ點のみに力瘤を入れて、やれ利益はこれ以上相成らぬ、やれ給料はどうだ、賞與がどうだと云ふ風に、消極的なことばかり云ふて企業精神を萎縮させるからいけないんです。

實は、そんなことは餘計なこと、どうすれば増産が出来るかと云ふことを民間の當業者と相談して、唯一途に増産のみに集注して行けばいいのに、他の方面まで餘計なことをやり出すから、やれ赤だ、やれ左傾だなどと云ふやうな非難を受けるやうになつて、増産は聊かも進まんと云ふ事だから仕方がありません。その弊消費規正の方面は、詰めるべきものもつと思ひ切つて詰められるものを、その儘にしておくと云ふのだから駄目です、第一やる事がチグハグですよ」

讀「それなら、なぜ大臣連中がそれをやらないのでせうか。官僚の役人根性は根性としても、民間出身の大臣もゐるぢやないですか。又他の大臣も色々民間の意見を耳にしてゐると思ふ

が、その邊は一體どうなんですか』

記『それだから大臣が存外つまらんと云ひたくなるんです、大臣が自分の意見が通らんと云ふんですから實に驚き入つた話ではないですか。官僚の意見を大臣の力によつて變へさせると云ふことが、出来ないと言ふことも相當あると云ふ話です、

だから、政府の仕事を活潑にやつて、總ての實情に副ふやうにさせようと思ふなら、何んと云つても文官任用令、即ち官吏制度を思ひ切つて變へなければ駄目です、今これが樞密院で審議中なんです。ところが、樞密院は官吏の古手ばかりですから、官吏の權利を縮める官吏制度の改革案は容易に捗りませんよ』

讀『なる程、私もその點に就ては、私の友人の一官吏から、打明け話を聞いたことがあります。大抵な案は、皆屬僚が作るのです、そしてそれが他の課に廻されると、うまく頼むよ、俺の方の面目の傷つかぬようしてくれ給へと云ふ運動をするさうです。そして官吏は官吏で團結して民間側に對抗する、又、官吏同士の間では、お互に權限争ひが仲々あるさうですね。

こんなわけですから、國家の大政治が事實上屬僚の手によつて行はれると云ふことになるので、實に恐るべきことですね。然るに又、大臣の方でもほんたうに強くないから、彼等も

増長して貿易省設置問題のやうな外務省の醜態をさらけ出すと云ふことになるんです』

記『全くさうですよ、官僚政治の弊は今更ぢやないですね、政黨の華やかなりし頃からでも聞いてゐましたよ。それが今、政黨が解消したのですから、時を得顔に勝手な振舞ひをやつてゐるわけです。官吏の眼の上の瘤は政黨と新聞ですよ、ところが政黨は解消したし新聞の言論は封じられてゐる、だから官吏萬能的になりますね』

讀『實にこれはいかん、僕等は政黨政治を望みます。ところで議會はどうなりますか、二十日の議員俱樂部で大分騒いだやうですが、あの鳩山等、それに舊民政黨の一部、つまり翼賛會に入れなかつた連中が尻を押してやり出したのだが、あれらは十八日は西銀座のアラスカに會合し、又十九日には虎の門の晚翠軒に集つて、總會の當日にぶちこわし方策を協議したと云ふぢやありませんか。

つまり議員俱樂部成立の總會を、不成立に終らしめる計畫であつたらしいですよ。ところが小泉の又さんが巧妙なる議長振りを發揮して、その裏をかいて了つたんですね』

記『さうらしいですね、翼賛會の總務に、鳩山にしても、松野にしても、櫻内にしても、川崎克にしても入つてをらんでせう。又、植原悦次郎なんてものは兎に角副議長迄勤めたのに、

それが總務にもなつてをらぬし、議會局にしろ、院内役員にしろ皆入れてをりませんよ。

議員俱樂部の方だつて顧問、理事に入つてゐない。安藤正純にしても一度幹事長を勤めた人間だが、それで入つてゐないと云ふやうな不平からして、あんな風になつたんだと思ひます。彼等が不平を云ふのも一應尤もなわけです、翼賛會は總てのものを網羅する主義ではないかと云ふ建前から云へば、鳩山、松野、櫻内などが入らんと云ふ筈がないと云ふのでせう。然し、そこは彼等が従来自由主義であつたし、安藤や植原などは公然と英米と結ぶがいゝなどといつたりしてゐるから、翼賛會としては無論入れられないし、又議員俱樂部としても考へたんでせう。鳩山、松野、この兩人は殊に近衛公によくはないといふやうな次第ですね』

讀『だから政府が、自由主義系統のものは入れないといふ方針で徹底的に行けばよかつたのにそれが蛇の生殺しみたやうになつてゐる、翼賛會には皆何んでも構はず會員として抱き込むといふやうにしたから、あれに役を與へて、俺に役を與へぬかといふ不平が出てくるのですね。しかし又、翼賛會としては、あれを入れ、これを入れぬと云ふことはよくないから、皆一應入れる、そして彼等の態度を徐ろに見てから態度をきめようと云ふことにしたのだとすれば、それはそれでいゝわけですね。

だから役を與へられなかつた鳩山派だとか民政黨の一部だとかが、ほんたうに國策に副ふべく自己の非を改めて時の至るを待つと云ふのが、ほんたうの行き方ですがね。そこが元々自分の榮達以外眼中にない彼等ですから、どうも仕様がないですな。それにしても安藤正純などと云ふものは、大日本佛教青年會理事長の肩書を有し、お寺の生れであり、淺草本願寺の重要な役を有つてゐる身分を考へたらよいのですがね。それは凡夫だから嫉妬心を起しひがみ根性も起つたりするであらうが、そこは思ひ直して、つまり反省をして南無阿彌陀佛でも唱へるやうにあつてほしいですな。

安藤などがあゝ云ふ態度に出ると、これだから佛教はつまらぬものだ、佛教信者になりたくないと云ふやうなことになつてくるぢやありませんか、もう少し本人が慎しんだらよささうなものですな』

記『全くあなたのおつしやる通りです、安藤なんでもものは佛教會の講演會などあると、よく顔を出してゐるぢやありませんか。それでゐて自分が用ひられないから騒ぐと云ふのぢや困るなぜ自分が用ひられないのかと云ふことを反省する氣になれんのでせうかな。兎に角、この分で行くと、鳩山等と民政黨の一部の者は確に普通ではおさまらんですな、前田議會局長が

マア〜と云つて例の溫和主義から鳩山等をも入れたのだが、この調子でゆくと普通ではおさまらん。尤も政府がモツとシツカリして權威があれば、彼等も騒ぐ事など出来ないんだ。何しろ翼賛會も評判がよくないし、それに政府にもどうせ改造はあるだらうと云つてタカをく〜つてをり、現に改造があつたと云ふわけであり、一部分からは、政府は赤ぢやないかなどとんでもないデマが飛んだりするので、鳩山一派もそれ見ろ、ろくなことが出来るかと云つた調子で、待つてましたとばかりにのさばり始めたのだ。だからこの際は、翼賛會も政府も大いに反省しなくてはいけないと思ふのですね』

讀『全くさうですよ、それにしても近衛さんが、もつとしつかりしなくてはいかんですね。度胸がないのではない、おどかされたつておどろくわけではないが、何様根が根ですから、ぐらつく癖があるらしい。まあ、それにしても近衛さんを盛り立てゝ行かなければいけない、これに就てもう少し云ひたいこともあります、けふはこのくらゐにしておきませう』

(一五、一二、二五)

有馬・近衛の捨て身の決心を聞いて

(附けたり)

△總動員法が出た時の伊澤の言ひ分

讀者『僕は一青年ですがね、一ちよう電話問答にかゝらう、宜しいですか。けふときのふの自由論壇で有馬頼寧をやつたのは大變よかことです。けふの日比谷公園の日本主義青年會で、だいぶ有馬はヤツつけられた』

記者『あの決議文を、あのまゝ書くことは出来ません。仲々御元氣ですよ、あなた方のやうな青年が出て来なくては困ります、大いにやつて貰ひたいですよ』

讀『やりますたい。有馬さんも、早く見切りをつけるのがよかことだらう、さうせんことにや、水天宮様も機嫌の悪かただらう』

記『さうですね、しかしあの人も、兎に角華族社會の新人でまだ先代の生きてる時からでも、代議士に出たことのあるくらゐの男ですからね。相當なものには違ひない筈ですが、何んと云つても苦勞の足らぬ實戰の足らぬ華族の二代目ですから、でも御本人は非常な決心で命

を投げ出してかゝつてゐると云ふぢやありませんか』

讀『命なんか投げ出してでもそげのことは何んでもなかとだ。第一線の兵隊さんな、毎日命を投げ出してやつとるとだ。今は、國民全部が命を投げ出してかかつとる時ぢや、有馬にそれ程の決心が本氣にあるとなら、野依先生の云ふごとく伯爵を辭めたがよかたい。そげして、どれ程のことが出けるかやつて貰ひたかとだ。命のことは云ふと近衛さんも自分な覺悟してゐると云つとるとさうぢやが、これも、それ程覺悟のあるとならもつと現在生活の上に、そんなつもりになつて遣り直すことのありさうなもんぢや』

記『全くさうです、それ程の決心があるなら、まだやつて貰ひたいことはいくらでもある筈です。まあ、そんな命が云々と云ふやうなことは所謂合言葉とでも云ふやつでせう。ほんとに命的にすることなら、もつと遣り方がいくらでもありますよ。』

しかし、色々の批評をしても矢張り今の場合、日本の國情としては、近衛さんみたやうな人でなければやつて行けないのぢやないですかね。まあ近衛公を大事にして何處までも鞭撻して行かうぢやありませんか。それにしても、もつと時局認識を深めて貰はなくしては困りますな、あつちもこつちも都合いゝやうにやつて行かうなんて云ふ考へだけはやめて貰ひたい

です。それから我々が、あなた方のやうな青年諸君に申したいことは、伊澤多喜男のやうな變態政慾者に少し反省を促したらどうですと云ふことです』

讀『これは一本参りました、こつちも、あれは好かんとぢや。ぢやが、大政翼賛會に伊澤が發頭人で貴族院の同成會、同和會、交友俱樂部が好意を持たんと云つとるのぢやさうぢやが、兎に角、一つの見識を以て行くのも面白かとぢや。有馬のをる翼賛會にや少しの反對のあるのも、刺戟になることぢやらう』

記『あなたの見方も面白いが、しかし必ずしも主義主張から來てゐるのかどうか怪しいですね。伊澤と云ふ男は何か反對側に立つてみなければ、氣の濟まぬ性分なんですよ。』

第一次近衛内閣の時、國家總動員法案を政府が提出するに當つて、伊澤が矢張り反對したぢやありませんか。彼のその時の云ひ草が面白いです、日本國民に對しては、國家總動員法などと云ふものを作らなくても、日本國民は國難に進んで赴くのである、だから總動員法案などを作るのは寧ろ國民を侮辱するものであるなどと云ひましたね。

ところがどうです、無論日本國民の愛國心は素晴らしいものであつても、その愛國心を如何に活用するか如何なる方式に於て發揮するかと云ふことが、實際問題として難しいのです。

だから總動員法案なども必要となつて来る。之れが出来ても、仲々うまく行かない状態である。官僚の遣り方が悪いから、あんなものがなくつて、自由にやらした方がうまく行くと云ふやうな説もあるが、兎に角總動員法がなかつたら、結局大變なことになるですよ』

讀『わかつた、それはその通りぢや、一ちよう伊澤に行きませう。それにしても有馬が不穩當なことを云つちよるが、あれは警視廳あたりではどう見とるかな。日本の社會が混亂してをるとは云ひ過ぎたことではないか、そげん混亂はしちよらんたい』

記『御尤もです、我々もさう思ひます。色々デマの飛ぶことは事實ですが、しかしそれを以て混亂とは云へないですよ。日本の社會は一貫して忠君愛國で締めくゝられてゐる、決して混亂などする日本社會ではないと思ひますね。』

唯、政府が、國民に知らすべきことを知らさぬと云ふ點があるので、色々想像、臆説が傳はるのがよろしくないだけです。決して日本の社會は混亂などしてをらないと、我々は斷じて確信してゐます、では、これで失禮します』

(一五、一二、一九)

翼賛會の費用は有馬伯が

〇〇銀行から借りてゐるとの噂

(附けたり)

- △有馬頼寧失言を取消せ
- △婦人局必要の辯
- △議會の世話人百人とは
- △人選のトンチンカン

讀者『有馬頼寧が翼賛會の中央協力會議に於ける挨拶の中の「今日の社會的混亂」云々といふ言葉は、私は斷じて有馬自身に取消しを要求します。若しもさういふ言葉を新聞記者や雑誌記者、其他民間人が演說會などで使はうものなら、必ず禁止か中止を食ふに違ひないですよ。社會的混亂とは一體何事であらうか、甚だ不謹慎な言葉でないか、この點については、今日の電話問答でもその不都合をいつてはあるが、もつと強硬にやりたい。有馬が眞に今の日

本の社會が混亂してゐると思ふなら、その原因の一つは有馬の如き者が、大政翼賛會の重要地位を占めてゐるからだと言つてやりたいです』

記者『なる程、あなたの憤慨なされるのは御尤もです。私もあなたと同意見です。』

翼賛運動に男女の區別なし、だから婦人局などの必要はないと、有馬は言つて居りますね。また近衛公も同意見だと有馬は言つて居りますが、婦人局を一體翼賛會に設けたいといふ趣旨は、婦人團體と翼賛會との連絡をとりたいといふ處にあるのだから、婦人局を設けた方がいいんです。かういふ點に於ても有馬の頭は變ですよ』

讀『全くさうです、男も女も同じ日本臣民である、人間である、だから婦人局は必要ないなどいふのは屁理窟です。實際の實情を無視した議論となります。有馬の様な説からいふなら、青年部など設ける必要はない事になる。翼賛會は一億一心を實現させる機關だから、そこには老人、青年の區別はないと言へば、それ迄の事ではありませんか』

記『全くさうです、實際問題としては、青年、老人、或は婦人といふ様な者の機關を設けて置く方が、仕事が滑らかに運びますね。どうも翼賛會のやり方には色々疑問がありますね、中央協力會議の人選についても、新聞社側が全然閑却されてゐますね。』

山崎靖純氏が出てゐるが、あれはもと新聞記者であつて、今は經濟評論家ですからね。又下中彌三郎老が出てゐるが、あれも書籍の出版が本業ですからね。又文壇から山本有三、彫刻繪畫詩等の方から高村光太郎氏等までが出てゐるのに、國民思想に重大な根本的關係のある宗教界から、一人も出して居らないといふのは誠に奇ッ怪至極ですなあ』

讀『實にその通りです、宗教界からの代表については、翼賛會の總務が發表された時、あなたの方の野依社長が、高楠順次郎、今泉定助の兩氏を追加總務に入れるべしとして、近衛首相に進言したといふ事でしたね。』

それなのに、今度の各界からの代表を選ぶ中央協力會議にも一人も出さなかつたといふことは、實に近衛さんにしろ、有馬さんにしろ、どうも本氣に物を考へないのぢやないのかと思はれて情けないですね。それはさうとして、翼賛會の經費ですが、あれは大變問題になるらしいぢやないですか。翼賛會といふのは、法律的に根據がないから、政府の豫備金などつかふわけにいかない。口の先では政府と表裏一體と言はれて居ても、法律的に根據がないから政府の金は使へませんね』

記『さうですよ、最初は寄附金を集めて舊政黨がやる様にやらうとしたのだが、それは沙汰止

みになり、次に又、國民精神總動員の餘り金を使ふ事も出来ないといふので、結局有馬頼寧さんの名義で〇〇銀行から借入れてゐるといはれてゐますよ。どうもさうらしいですが、妙なものが出来上つたものですなあ。

近衛總裁其他の人々が、翼賛會は政府と表裏一體のものであると、いはれてゐる。そしてとも角も、あらゆる方面の人物が網羅されてゐる所謂翼賛運動の團結なんだが、その給料やいろんな費用といふものを一財閥銀行から借入れてゐるといふのですから面白いですなあ。

若しこれが三井や三菱から借りるとなつたら大騒ぎになるんでせうが、相手が大阪の住友といふので世間の問題にならないですね。住友は西園寺公との姻戚關係があり、近衛公もそこから金を借りてゐるといふ事實があり、或ひは近衛公の政治資金が住友の方から出てゐるといふ噂があるので、財閥でも住友だけは別扱ひになつてゐると見えますね。無論、有馬伯も金錢關係があるとかいふ噂ですよ』

讀『そんな費用の事など、どうするかといふ様な問題も初から考へずにやり出すんだから、そこが世間知らずの苦勞知らずの書生上りの、近衛さんや有馬さんなどの仕事振りですかね。だから一部の方から、公爵や伯爵の取り組みで翼賛運動や革新が行はれて堪るものかなど

と言はれたりするのです。いろんな情勢からして、公爵や伯爵が乗り出す形とならなければいけないとしても、もう少し世間の事の解つた、人生の經驗のある苦勞人に物を聞くといいんですよ。翼賛會は何んの事か譯が判らんなどと、伊澤多喜男等に言はしむる所以も、詰りここに在るのですよ。

全く口惜しい事です、趣旨はいいのですが、初めから世間を知つてゐる政黨人を除け者にしてかゝるから、こんな結果になつたのぢやないかと思はれます。然し折角出来たものだから何とかしてお互に守り立て、行きたいものですね。

ところで一つ話題を變へて、議會ももう一週間もすれば開かれるんですが、一體どうなりますかね。うまくいつて呉れ、ばいと思ひますが、然し翼賛會にヘマが餘り多いと、そこに議員諸君がソレ見た事か、何が出来るかといつた様な態度になつて來ると心配ですな。

たゞ代議士に向つて、こんな場合だから言ひたい事も言ふな、おとなしくして居れと一概には言へませんからね』

記『全くさうですよ、兎に角政黨が解消して仕舞つたんだから、その身代りといつた風に生れて來た翼賛會といふものが、うまく行かなければ誠に困る。さういつた様な事からして有馬

さんなどが、社會的混亂といつた風に感じて來たのかも知れませんね。

果して有馬がさう感じて居るなら、混亂の大原因と見れば見られんでもないといふ様な翼賛會からして、もつとどうかして貰はなくちや困りますね。ところで議會は無黨派だから議員俱樂部が出来る、そこで世話人といふものをこしらへて行かなくちやならん。ところが、それが又、政黨の各派の割り振りや自薦他薦がワンサ／＼と押し掛け、結局四方八方の顔を立てる事になつて四百六十名の代議士中に、百名からの世話人が出来る様になつたといふ噂ちやありませんか。

そして、その中に舊總務級とか、舊幹事級とか、顧問級、長老級といろ／＼のがある譯ですが、どうも何だか議會關係もモヤモヤするらしいぢやないですか』

讀『ほんとにさういふ風に思はれますね、困つたものです。僕達も近衛さんばかりを攻めたり近衛さんばかりに責任を負はせる様な事はしたくない。が然し近衛さんがあれ程の人ですから、自分の口から言つた事だけは責任を持つて貰はないと、どうにも仕様がなくなります。翼賛會の初めに當つて權力をもつてやらんと言はれたのですが、思ふやうな批評が出来ないといふ状態に置かれてゐるのをどうしますか。或る意味に於て、今は全く立憲治下、憲法

政治下に斷じてあるまじき面白くない、或る感じを興へてゐるぢやないですか。政府が強いのはどんなに強くてもかまはないが、強いなら強いらしく、又何も彼も悉く強くやつてくれるのは誠に力強くていゝが、さうでないのだから困るぢやありませんか』

記『全くさうです、あなた方でさへ、もつと帝日などがあの場合あゝ言つて呉れぬかといふ様な感じがあるでせうが、残念乍らそれが思ふ様に行きません。

勇氣は我々には満ち満ちてゐる、愛國心も満ち満ちてゐるが、どうにもならないんです。まあ近衛さんの良心的反省を特に望んで止みません、今日の場合これ以上言へません、ではこの邊で失禮しませう』

早過ぎる新體制促進同志會の解散

(附けたり)

△金融界からナゼ準備委員を採らなかつたか

讀者『あなたの方では二十二日に開かれた新體制促進同志會第二回の總會が、大混亂に陥つた事件をどうして取扱はなかつたのですか』

記者『さうですね、あんまり面白くありませんし、それに耳に入つたのが三日もおくれてでしたから、まあそのままにしておいたわけですがね。新體制準備委員が出来ればもう解散してもいゝと思つたが、然しなかなかさうでないですな。あの日、山元龜次郎代議士が突如起つて解散論を主張したに對し、赤松克麿代議士が憤然と起つて反駁したところ、小田榮代議士が赤松代議士の反駁を彌次つたりしたので大混亂に陥つたわけですね』

讀『さうなんですよ、どうも感心しませんな、議論はいくらしてもいゝが、さういふ眞面目な問題を扱ふのに彌次つたりするのはいかんです。それでは新體制ではなくて舊のまゝですなだから、なかには冗談を通り越して議員總辭職論を唱へたりするものも出るのです。それで

あなたは、新體制促進同志會の解散を主張しないのはどういふわけですか、私は解散論者ですがね』

記『さうですか、新體制促進といふ名前の點だけからいへばもう解散してもいゝ様に思はれるが、然し新體制促進と言つても、同志會の唱へるのは政治中心ですからね。

それはまだ必要だと思ふんですよ。近衛公側の唱へらるゝ新體制といふのが、どうも政治結社の形をとらず、また政黨結成にも乗出さないかの如くに思はるゝので、我々の様な絶對的に新黨樹立を主張するものからいへば、まだあの代議士諸君の團體たる同志會を存続させておきたいんです。

同志會が代議士諸君の私慾を中心として動けばいけないが、國家本位に動くことは必要ですよ。かういふ意味で私は準備委員が出来ても、あの團體はおいておく必要があると思ふんです』

讀『成程さう伺つてみると、あの同志會も解散しない方がいゝわけですな。時に準備委員會の中に、金融界から一人も取らなかつたのはどういふわけですかね、從來日本の財界では金融業者が威張つてゐたんですがね』

記『御尤もなお話です、金融界から取るとすれば日銀總裁で、前大藏大臣たる結城豊太郎を取らなくてはならないことになりましたが、どうも此頃彼の正體がわかつて来たもんで、あれを取りたくなかつたんぢやないですか』

讀『さうですか、成程結城がいけないとなれば、まさか勸銀や興銀から取るわけにもゆくまいし、それかといつて三井、三菱、住友の代表者を取るわけにもゆくまいし、それに従來金融業者が威張つてをつたから、それに對する反感もあるんでせうな、まあ今日はこの邊で失禮いたしませう』

(一五、八、二八)

新體制に老人を引出すとはこれ如何に

(附けたり)

△久原、鳩山葬りのこと

△旗行列、提灯行列はどうした

讀者『今日の電話問答は面白く拜見しましたよ、とにかく久原といふものはどこまでも自分本位でゆくんですね、その點は徹底してゐますな、偉いといへば甚だ偉いですよ。大口喜六を遂に翼賛會の常任總務とした點など、あの電話問答の通りですが、どこまでも舊中島派と對立して行かうとする氣分が抜けないんですね。それだけ結局、彼の人物は器局が小さい譯で如何なる場合でも自分の方がいさゝかでも分が悪く見えると承知が出来ない男です。そこで大口を出し、更に砂田も平總務に出すやうにしたのでせう。

すると又、それでは舊中島派に對し、釣合が取れぬといふ様なことで、今度は田邊七六が平總務に追加される様になつたんで、かういふ人事のやり方といふものが、どれほど色んな方面に面白からぬ影響を及ぼすか知れませんが、第一政府の威信にも關するですな。堂々たる

大日本帝國政府のなす人事が、あゝでもない、かうでもないと屢々新聞に出るのは、餘りに見つともないですな』

記者『全くその通りです、その點において近衛公はもつと斷乎たる態度を示さねばいかんです、ねぢ込まれれば人事を變へるといふのでは仕様がなです。一體、今頃參議に老人連中を列べ立てるといふことが、土臺新體制の總本山である政府のやり口としては滅茶ですな。新體制を國民に懲慥せんとしてゐる總本山の人事が、老人を引張り出すといふのでは民間に對して何と挨拶するでせうか。近衛公は國難々々と云ひ乍ら、七十以上の老人を五人も六人も引出す様では蔣介石などが近衛内閣のやり口も大抵知れたものだといふ風に馬鹿にしますよ』

讀『全くさうです、老人といふものはもう先に望みがないから我儘勝手をいふ。自分の小さな面目に囚はれる、そこになると若いものはこれから先があると思ふから、眼前のことばかりに拘泥せぬですな。ナニ、またこの次ぎもあることだから、今度一邊にやらんでもいゝぢやないかといふことになりますな。』

だから久原の様な七十二にもなる老人は現在の面目に囚はれるから無理を云ふので、近衛さんは老人を出さぬがいゝんです』

記『全くです、なか／＼貴方はいゝことを云はれますね、感心しました。』

新體制でいよ／＼徹底的に自由主義の鳩山は葬られたですな、鳩山のハの字も云ふものもなくなつた。然しあれで鳩山が久原を徹底的に信頼してもう久原に任せてしまへば、必らず今度のやうな場合でも、鳩山も完全に轉向したから新體制の仲間に入れて貰ひたいと云ふのでせうが、そこになると鳩山が身の程知らずで、議會中に相當久原に手をやかせ、自分も威力を多少示すやうなことをしたもんだから、うらみを忘れることの出来ない久原が、遂に鳩山を葬つたんですな。そりや鳩山等がいくら逆立しても久原にかゝつては叶はぬですな、久原といふものは目的のためにはどういふ無法なことでも、策略でも平氣でやりますからな』

讀『全くですな、時に話は違ひますが、日獨伊同盟には國民が乘氣のない筈はない、充分乘氣のあつたことは事實ですが、それなのに提灯行列も祝賀會も大きなものがないですな。』

これで見ると未だ何か親英派が相當あつて、行列なんかやつたりするとその方を刺戟して面白くないといふ様な氣兼ねでもあるんでせうと思はれますな。市中にも旗が殆んど出ない帝日が獨りではしやいでゐる様にしか思へない』

記『御尤もお話しですがまさか親英派がまだある、それに面當てになるから提灯行列をやら

ない、そんな馬鹿なことがあるものですか。

實はです、我社において提灯行列なり旗行列なりやらうと思つて、警視廳に許可願ひに昨日出掛けました。ところが今度は政府の方針としてお祭騒ぎの事はやらない、國民はこの同盟で大なる決意をした、ミツチリやるんだといふ風であり度いと云ふのだから、帝日の申出は遠慮して貰ひたいといふ話であつたのです。ところが今日、警視廳から電話で祝賀會を急に國民的にやるやうになつた、國民精神總動員の方に各大都市が加つてやるといふことに急に意向が決つたから、帝日でもどうかその方に加入して貰ひたいといふのであつたんです。だから近々、大いに全国的に祝賀會が催される様になるでせう』

讀『怪しからぬですな、帝日が言つた時は許さんで、遽にやるなんといふのでは、まるで政府としては不見識ですな、警視廳なんか何してゐるんでせうか』

記『警視廳が決して悪いんぢやないですよ、警視廳は政府側の方針を唯取次ぐ丈なんですからそこは誤解しちやいけません。では今日はこれで失禮ませう』

(二五、一〇、五)

買溜の親玉は講談社と富山房か

(附けたり)

△久原の大口喜六引出しの凄腕

△池田さんは轉向ですかね

讀者『今日の、讀賣新聞に警告を與へた電話問答は痛快でしたね。雑誌、新聞の整理をもつと徹底せしめる必要がありますね。何でも上の方から改革を始めて來るのが必要なんです、新聞だつて朝日、日日、讀賣から始めたらいゝです。あれらが一番紙を多く使ふのですから。それと同じ様に、雑誌だつて一番、きいところから始めるがいゝぢやないですか』

記者『無論さうです、だから我社では大いにそれを主張して來たんですが、それが容れらるゝ所とならなかつたんです』

讀『さうでしたね、帝日では相當やりましたね。雑誌でも第一に講談社を整理するといゝんぢやないですか、富士、キング、講談俱樂部、これは一つにしていゝですし、婦人俱樂部も廢めさせていゝですね。それから、現代と雄辯は合併するがいゝし、子供の雑誌も少女、少年

どつちか一つ癪めさせたがいゝです。講談社なんか單行本の紙は、三年分も買ひ込んであるといふぢやないですか、富山房なんかも仲々澤山買つてゐるといふ噂ですよ。

かういふのにみんな、買溜を吐き出させる方法はないですかね。さういふ處から始めないと思想雑誌、文學雑誌などの整理も容易ぢやないでせう。彼等を無理に整理すると思つて悪化させます。それには商人側の講談社、富山房、實業之日本社なんといふのをどうかしなくちやいかんですよ。

時に話は變りますが、參議七名がやうやく決定しましたが、あの事情を少し知らして呉れませんか』

記『承知しました、私の方でも申しますが、貴方の方でも材料を出して下さいよ』

讀『無論です、材料はありますよ、憚り乍ら私が全部一人でシャベつてもいゝのですが、それぢや電話問答になりませんか。先づその意氣で私の方から先に言ひませう。

久原房之助が、二度も近衛總理を訪問した内幕を知つてますか、仲々久原はシタ、カ者ですよ。今更言はなくても大抵もう世間でも知つてゐるであらうが、今度でも相當芝居を打つてゐますナ。久原が米内々閣の時に參議を辭めましたね、その關係で今度はオイソレと參議

を受け難いといふ立場にある譯で、そこで先生、總理を二度も訪問して色々と參議の運用、或は近衛の方針を確かめた、といふのも確かに事實ですね。然しそれより外にまた魂膽があつたのですが、それを貴方は知つてゐますか』

記『知つてゐますよ、久原としては大口喜六を翼賛會の常任總務にはめ込みたいんですよ。支那にも一緒に行つた關係があり、中島派から前田米藏が出てゐるのに、久原派からとらないのは何事か、と思つてゐるんです。そこでかねてから、何時か機を見て捻ぢ込まうと思つてゐたんですよ。

然るに參議の交渉があつたから、得たり賢しとして近衛を困らせ様と思ひ、自分はもう出たくないから大口喜六を出して貰ひたいといつたんですよ』

讀『その通りですよ、所がさう言はれると、均衡主義で人事をやらうとする近衛さんとしては困るといふに違ひない。そこで、自分も參議を承知しよう、そのかはりに大口を常任總務に廻して貰ひたいといふ條件を持ち出したんですよ。

そこになると同じ強か者でも、近衛公のそれと久原のそれとは段が違ひますからね。そして摩擦なくして何處も此處も、都合よくやらうとする近衛公としては、一本久原にしてや

られた譯なんですな』

記『全くですよ、かういふ機略になると久原は偉いもんです、それは仲々の強か者です、喧嘩にかけても偉い男ですね、必ず敵を雪隠詰めにしなければ承知しない風があるんです。負けて勝を取る道を知らず、負けても負けたとは言はない癖のある男です。然し中島知久平の様に大きくて相手にならんのでは、流石の久原も喧嘩の仕様がなすすなア』

讀『さうですな、さういへば今度は久原と中島と、どうしても口を利かねばならぬ立場になりましたね。参議の中で幹事役を勤めるのは一番年少者がやるんでせう、中島はまだ五十七ですからね、一番年若です。後の五人は皆、七十代の者でせう、町田、久原、郷、安達、池田六十代が林、安保、大谷、勝田ですね。』

だから中島が幹事の役を勤めなくちやならないんだが、これは不適任ですな、然し政黨の幹事の様には難かしくもないでせうが』

記『参議の顔振れを見ると面白いではないですか、久原に對しては郷も、池田も、中島も、町田も、あんまりよくないんぢやないですか。殊に郷に至つては、東京電燈の會長時代に〇〇問題で久原と衝突した事があるでせう、郷はあれで仲々強いですからね。然し皆もう年寄り

ばかりですから、今更睨み合ひなどもせず圓滿に行くでせう。

大谷光瑞さんの顔が見えたのが滑稽ですな、どういふ譯なんでせうか』

讀『然し、あれは貴方の方の野依社長の註文通りぢやないんですか。野依社長は新體制準備委員會に宗教家を一人も入れないのは不都合だ、何故高楠、今泉を入れないかといつてゐたぢやないですか、だから大谷光瑞さんの出られた事はいゝんぢやないですかなあ』

記『我々もさう思つて社長に聞いて見たんですが、社長は冗談言つちやいけない、大谷光瑞なんていふ者は宗教家でもなんでもない、あれは所謂高等浪人で、和製百科辭典見たいなもんで役に立つ男ぢやない、それに大谷家には生れても、宗教家ぢやない、前本願寺法主といふ肩書はあつても信仰などはない、正直に言へば今ぢや本願寺を〇〇にしてゐる様なものぢや本願寺から毎年五萬圓からの生活費を貰つてゐるといふ噂ぢやといつてゐました』

讀『さうですかね、それは私一向存じませんでした。時に池田成彬なんといふ人は嘘か本當か知らんが、絶對的の親英米派と言はれてゐた人ぢやないですか、その人が日獨伊同盟の内閣の参議に就任するといふ事は、つまり轉向したといふ事になるんですかね。之まで傳へられてゐる處では池田の親英は一つの信念、宗旨の様になつてゐたとか言はれてゐたがどんなも

のですかね』

記『成程御尤もですな、池田さんは物資の関係からして、英米を敵に廻しては、支那事變遂行の上に損ぢやないかといふ、謂はゞ愛國心から來てゐるんでせう。然し今日の情勢となつてはもう來る處まで來たんだ、仕方がないと思つてゐるんぢやないですか。それにあの人は元來銀行家出身であるから、産業に對する考へ方がこまかいでせうなあ、それが今度は判つたらんぢやないですか。それからもう一つは元來私心のない人で、國家本位の人だから國家が取り決めた同盟には賛成したのでせう。』

もう一つ奴さん、近衛公の爲めなら何でもといふ氣持があり、近衛公がやる時は自分は全てを擲つてそれに従ふ心持ちであるといふ話ですな。今の日本では、近衛公以外に總理としての適任者が無いから、それを輔けるのは自分の務であるとかいつてゐる相です』

讀『成程、さういふ譯ですか、兎に角池田といふ人は實に人格者であるといふ事はよく聞いてゐます、今でも財界では矢張り一頭地を抜いてゐると云ひますね。勝田といふ人も人物だといふぢやないですか、林大將も精神家と云はれてゐますね、安達さんも何といつても矢張り政黨出身中の國士だ相ですな』

記『さうですな、貴方の見方には賛成です。郷なんて人は大分健康を害して頭が悪いといつて

ゐたが健康を回復したと見えますね。あの人も財界では矢張り池田と並んで大御所でせうが我儘者でケチン坊ださうですな、そしてイヤに權式振つて豪がるといふぢやないですか。

彼の和田豊治の郷里に於て和田翁の彰徳碑が出来るのに、その親友であつた郷さんは、寄附金を斷然拒絶した事實があります。金を出すのも嫌だらうが又同時に、俺は和田などの爲めに彰徳碑を建てるのは賛成ぢやないと言つてゐるか知れんです。寄附金は大抵のものは悉く斷はる方針にしてゐる相ですが、そのクセ自分は箱根にも伊豆にも、廣大な別莊を持つてゐるといふ事ですな。

町田忠治さん、何も言ひたくないですな。安保大將のことは存じませんが、矢張り一種の風格があるとか言はれますね』

讀『まあ何でも參議になる様な人達だからみんなお偉い人には違ひないのでせう、まあ皆さん仲よく御奉公して頂きたいと申上げるの外はないとして、此の邊で失禮しませう』

新黨で飛び廻る久原の裏に金問題あり

(附けたり)



△財界巨頭が近衛さんへの希望

△新黨で鳩山一郎の大苦悶

△新黨と有馬頼寧と河原田稼吉のこと

讀者『今日の自由論壇は實に我が意を得たものです、もう近衛公も擔がれて出るといふ態度に出る方がいいなといふやうな、そんな打算的態度はやめて、大分自分に出馬せよと勧められるものもあるし、自分としてもこの時こそ御奉公をせねば、お上に對しては勿論、祖先に對しても申譯ないから一身の利害など顧みず、斷然やることにするといふ態度になつて貰ひたいですね。』

—(140)—

僕たちはそれでないと承知が出来ん。近衛公が擔がれて出るといふよりは、自分が眞に御奉公しようといふ氣でやるのでなけりや、折角新黨を作つても近衛公の理想が行へずそれは新黨の必要はないといふことになりませぬ』

記者『勿論、さうです。今日もある大實業家を訪問した際、近衛さんは擔がれたから仕方なく出るといふのぢや駄目だ、自分自身が乗り出さずには相濟まぬ、乃公出でずんば蒼生を奈何せんといふ意氣でやつて貰へば、自分たちもどんな後援でも致し度い、と云つて居りましたよ。その人も善は急げだから、早くやつて貰ひたいと頻りに云つてゐました』

讀『さうです一時間も早いがいゝ、もう議論の時代ではない、思想や主義綱領を練らなくちやならぬなどいふ時代ではない、もう革新政策遂行英米打倒一本槍以外に方法はありませんよ』
記『全くさうです。とにかく、新黨はいよく出来ることになりますね。それにつけてもこの際、功名争ひするやうな態度が一番嫌ですね。久原が新黨問題で動きまわつとる姿はどうですか、齋藤問題の時、牧野良三、名川侃市、宮脇長吉、丸山辨三郎、芦田均等が青票を投じたために久原は除名處分に附し、一日にして復黨させましたね。あの醜態の不名譽を取戻すために、新黨問題で却つて邪魔になることも考へずに、自ら乗り出して居る姿は哀れなものですよ。』

—(141)—

それに、新聞記者の方はすつかり手に入れてあるから、久原の動きは直ぐ新聞に出ます。大衆は久原は偉い、中島なんか革新を標榜しながら何をしてゐるのか、といふ風な見方をす

る事になりますからね』

讀『さうですね、久原の態度は苦々しいですねエ。しかしあの男もそんなことでもしなけりや近衛の新黨が出来た時、置き去りになるでせう。』

それから又、齋藤の除名に反対した牧野等五名の代議士を、翌日すぐ復黨させた久原といふものは、やはり齋藤の同情者といふ風に一般から見られても仕方がないでせう。だから都合によつては、近衛の新黨にはさういふものに入られては困るといふことにならぬとも限らぬから、久原としては表面だけでも、一番先に強力新黨で動いた様に見せかけたいので、動き出したんですねエ』

記『さうです、さういふ智慧は久原は多分に持つてゐますよ。』

久原と云へば、鳩山がいよいよ近衛公乗出しとなつたので、大狼狽して何とか自分を近衛公に諒解して貰ふやうに取りなして貰ひたいと、金光庸夫に頼み込んだといふことです。金光がそれは困るといつたら、鳩山は近衛公に諒解して貰へぬと、新黨が出来れば自分は引退しなくちやならぬ様になると云つたので、金光はそれもいゝぢやないかと軽くあしらつたが鳩山はどうもさういふ譯にゆかぬのでどうも困るところほしたといふことです』

讀『そりや痛快でしたね、もう鳩山なんか年貢の納め時ですよ。あゝいふ者を新黨に入れられるもんぢやない。久原も實を云ふと、新黨の結成を機會に引退すると、政治上の一切の罪惡が帳消されるのでせうがね。その思ひ切りはあの男にはやれぬでせう、どこまでもねばつてゆくでせう、偉さうな男だが政治家としては存外駄目ですなア。』

田中内閣の時に、遞信大臣になつて何も出来なかつたですから。田中と久原とは兄弟關係にあつたのだが、それで田中内閣は何にも出来なかつた。つまり久原も田中をして何もやらせ得なかつた、といふことになるんです。だから新黨が出来て、奴がその中に入つても何も出来ず、出来なくても入れれば何かせずには居れない男ですから、困りものですね。然し鳩山のやうな奴とは違ひますね』

記『さうです、然し久原もやはり偉いもので、今でも二萬三萬といはゆる献金を持つて来るものがあるさうですね。何様あゝいふ男ですから、何をするか分らぬといふところからして、久原から云はるれば、財界人もいやくながら持つて行くんですね。何様あの大きな邸宅に住つて、書畫骨董なども尙相當持つて、大金持にも出来ないやうな生活をしてゐても、自分の資産といふものは一文もないわけで、やりくりで食つて行つてゐるんですから、何か金の

入るやうな手を打たなくちやならぬ。

そこで總裁問題で乗り出して遂に横取りしたり、それから暮になると支那に出掛けて見たりする様になるんです、常に動いてゐなけりや金が入つて來ないから動くんですね。然し偉い男で、金なんていふものは紙屑位にしか考へて居らぬ奴です。唯だ人を小馬鹿にし、世の中を馬鹿にして、無茶苦茶に横車を押してゆかなければ、氣が濟まぬといふ男だからまつたく困りものですよ』

讀『結局彼は俗物ですな、信仰なんてものが全然ないんですね。敬虔の信仰が全然なく、自分一人で偉いものだと思ひ込んでゐる男ですが、度胸だけは確かに偉いもんですね。』

中島知久平が參議にならぬといふのに、久原は喜んでなる男ですから、大抵分りますよ。やつぱりあゝして參議にでもなつて居らぬと、献金を稼ぐのに都合が悪いと見えるんですね。そして米内首相にでも、新黨問題の経過を話すといふやうなことをやる、それが直ぐ久原子飼の新聞記者によつて新聞に出る、新黨は久原が一番動いてゐるといふやうな事で人氣がつく。陸軍の若い將校達までが、久原があゝしてやつて居るのに、一體革新政策を標榜してゐる中島は何をしてゐるのか、といふ様なことを言ふやうになるんです。

さういふ調子を、久原はちやんと呑み込んでゐる、そこになるとなか／＼小智慧はよく廻りますよ』

讀『河原田稼吉が近衛公の出馬を止めにかゝつたなどと言はれるが、どんなもんですかね。そんな馬鹿なことはないと思ひますね。第一、近衛公がいよく出馬を決心して五月二十日に河原田稼吉、後藤隆之助、風見章、有馬頼寧、瀧正雄、安井英二等に決意を示して、それから彼等が政黨以外の方面に諒解運動をやつてゐるんぢやないですか。だから河原田が近衛公の出馬を中止する様に、進言なんかする筈がないですな』

記『全くいろんなことを言ひふらす奴があるんですね、民政黨の中などには有馬が大將格で近衛公を訪問したり、あれが新黨の創立委員長にでもなるんだらう、それが氣に喰はぬなどと言つとると云ひますが、ケツの穴の小さいことを云ひますね。近衛にしる、有馬にしる、華族でないか、政黨は平民共の寄り集りぢやないか、それを近衛公ならまだしもだが、有馬にまで大將格になられて堪るものか、といふやうな反感を持つものがあるんださうです。』

然しこれほどの愚はありませんよ、自分等がやれぬ辯に、やれるものが出ればこれに對して、彼れ是れ云ふに至つては實に言語同斷の沙汰ですな。自分にも取つて代るだけの力があ

つて争ふといふのならそれは面白いが、その力もない癖に、人がやらうとすれば、何かケチをつけたがるとは實にいかんですね』

讀『さうです、さういふのが所謂島國根性といふのでせうね。新黨樹立についても、このやきもち焼き、只批評して快を貪るといふ様な事を、絶対にやめなけりや駄目です。折角近衛公が決心したのだから、寄つてたかつてこれを大いに助けなくちやいかんです。ではこの邊で今日は失禮しますか……』

(一五、六、七)

久原が參議を辭めた魂膽

(附けたり)

△二・二六事件の一人が久原を評して曰く

讀『今日の電話問答は却々手厳しいですな、久原は實際あんな男でせうね、私は今日、二・二六事件の関係者の一人たる某氏に會つたんですが、彼が政友會の總裁になつて以來、もう愛想をつかしたと云つて居ましたがね。その人が今日の夕刊を見て、久原の奴芝居を打つたと云つて、憤慨と云ふよりは笑つてゐましたよ』

記『もう私の方でも、久原の事を書くのはいやになりますよ。次から次へと芝居を打つて行くんだから、それをいち／＼相手にしてゐたのでははてしがない』

讀『それでも、矢張り云ふだけは云つとかなといかんですよ、民衆は久原の芝居に欺されますからね。今私が會つた人も云つて居つたが、久原が餘りウロタへ廻るので、折角近衛公ならその傘下に参じようとする者も、久原が騒ぎ廻つて新黨が出来る様になつたと云ふ様に民衆と思はれたんぢや、いやだと云ふ者も出て來ましたと言つて居ました。』

それで、暫らく近衛公も新黨乗出しを辭めて貰ひ度い、久原もそのうち芝居を止めるだらうから、その時、出る様にしたいもんだと云つたから、私はそれは駄目です、久原は決して芝居なんかを止める男でない、何處までもねばつて行くから、もう久原なんか問題にせず、近衛さんも斷然早くやるがいゝと云ひましたら、その人も結局、それに賛成したんです」

記『さうですか、そりや我社の自由論壇の主張と同意見ですね、もう近衛さんもぐんぐんやつた方がいゝ』

讀『私の會つた人も云つてました、近衛公が折角決意した以上、政黨が解消してからなどと云はずに、俺がやるのだから好きな奴はついて來いと云ふ調子でやらないと、折角出來ても近衛さんの理想が行へない様になるから、政黨なんか眼中に置かずにやつて貰ひ度いと云つて居ました。久原が參議を辭めたのも、又一つの芝居だと云つて居ましたが、無論、私もさう思ひます』

記『全くですよ、今頃、米内内閣が自分の方の進言を容れないから、意見が合はないなどと云ふのは滑稽ですね。

久原も日獨伊同盟論者で、革新政策斷行論者なんですから、初めから米内内閣とは主義方

針を異にしてゐるので、參議などになつたのが間違ひなのです。それを喜んで成つた處に、久原の老ぼれさ加減がある譯なんで、中島總裁などは入つてもつまらんと思ふから入らない餘程久原と中島とでは人物の格が違ひます。久原が今度參議を辭めたのは、自らその不明を天下に暴露した様なもんですね』

讀『全くさうです、それから強力新黨に自分が乗り出してゐる以上、米内内閣の參議も長くされんと云ふことにもなつたでせう。それに、こんな現状維持内閣に參議をしてゐたのでは、強力新黨が出來た時に入るのに都合が悪くなるから、辭める氣にもなつたんでせうね』

記『それも有りませう。それから、松野鐵相の進退がどうなるかと云ふことですが、久原が參議を辭める以上どうするか、あれも新黨に入り度いとすれば、辭める方が筋が立つ様になるから辭めるかも知れませんか。然し又、一説では辭めずに町田や鳩山と一緒に、現状維持政黨を作らうなどと目論んでゐるなどの話もあるが、どんなもんですかね』

讀『然し、金光の處に鳩山が近衛の諒解を得たいと言つた點から考へると、松野も大臣を辭めて新黨に行き度いと云ふ意志表示をするかも知れませんか』

記『そこになると、中島派は都合がいゝですな。全黨一致で新黨に行くんだから、何も心配が

無いから参議を辭めるとか、政務官をどうするとか云ふ様な事に、今更こだはらなくてもいい譯ですからね』

讀『さうですよ、初めから無理があると、その無理が何處迄もついて廻りますね。久原派が現にそれで困つてゐるんで、だから久原は次から次へと芝居を打つて行かないと、都合が悪くなつて行くんですな。ではこの邊で失禮ませう』

(一五、六、八)

久原派解黨の裏面ばなし

(附けたり)

△町田總裁は政界引退のこと

△歸朝する小林一三さんに御忠告

讀『たうとう米内々閣も總辭職したが、陸軍大臣の辭表呈出が總辭職の決意を早めたんですね。どうです、久原派はなか／＼味をやつたぢやないですか、内閣總辭職の日に解黨を執行したとは一寸面白いですな』

記『さうですね、政友久原派解黨が米内内閣の總辭職を促したなんてなことを云へば滑稽になります、久原派解黨が存外すらく／＼と行つたのには、大いに理由があるさうですな。それはです、黨内がとにかく久原の横暴、あれの不愉快なやり方から逃れ得る丈でも、一日も早く解黨した方がいゝといふ氣分になつたのださうです』

讀『さう云ひますね、僕もそんな話を聞きましたよ。幹部會なんかあると云つてもそれは名ばかりで、行つて見ればもう濟んだと云つた様な調子ださうです。かうなればもう大命は近衛

公と誰も思ふでせう、そこで政友中島派の解黨もいよく一兩日中に決行されることになるでせう。

さア、そこで民政黨ですね、町田總裁の地團太振りはどうでせうか。何様、未だ以て解黨を表明してゐないんですから、随分器量の悪いわけですね、人間は思ひ切りといふものがよくなくちやいかんですね。それにしても町田總裁のお先眞闇なことは驚くべきものですね、新聞にこそ明らかに書けなかつたが、お互ひの間では政變は十五日頃だらうと云はれて居たんですがね。政變があれば、後は近衛公だらうと誰でも思ふ。それなのに近衛公を中心とする新政治體制、即ち新黨組織に欣然參加する解黨の意志を、未だに聲明しておかなかつた町田總裁といふものは、この際よろしく政界を引退してその不明を黨員に謝すべし、と云ひたいですな』

記『全くお説の通りです、町田さんの不明はどうしたつて政界引退ものですよ。それにしても町田から相談をかけられた山本達雄男、若槻禮次郎男なんか、随分恥かしいでせうな。民政黨の二長老の現状維持意見が、町田をしてその不明をいよく悟らしめなかつたことになりますからね』

讀『全くさうです、それよりか伊澤多喜男、あれの策動といふものが若槻、山本兩男爵の意見よりもより以上に町田を誤らしめた最大原因でせうな。伊澤といへば實にひどい奴ですね、近衛内閣の時に國家總動員法案に反對した奴です。米内々閣で現状維持派も終りを告げたでせうから、政界では伊澤多喜男、財界では結城豊太郎の如きものは、斷然この際引退して貰ふんですね。殊に結城の如きは林内閣に大藏大臣たりし時、大臣をやめれば山にでも入つて全然引退すると云つた男ですが、それが日本銀行の總裁にのこのこ出て來るんですから、責任觀念も徳義も言質も何もかもあつたもんぢやないですよ』

記『全くです、結城なんでものが財界の總本山たる日銀總裁だと云ふのは實に情けないです。小林一三さんもハルピンまで歸つて來られて、ドイツと手を握るべしといふ説を發表してゐるが、あの人なども實は現状維持派なんだから一寸面白いですな。財界の革新意見は持つてゐるのですが、それでゐて事變一本槍で行かなくちやならない、それには摩擦をさけなくちやならない、だから事變中は一切の改革をさける、摩擦をさけるといふ論者であつたのです、さア今度歸朝してから轉向しますかね。あの小林一三さんが現状維持派だと云つたら一寸世間では驚くでせうが、實際はさうなんですからね』

讀『それでもあの人は改革する必要は認めてゐるのでせう、改革案も持つてゐるのでせう、それは著書を見ても分りますね。現に東京電燈なんか、あの人が大いに改革したんでせう』
記『そりやさうです、東電を大いに改革しました、又財界政界の改革意見も持つてゐる。けれども事變中はそれをやらぬがいゝ、摩擦を避けるがいゝ、改革がすらくと行けばむろん必要だが、なかくすらくとゆかない、そこでそのために時間をつぶし、頭をつかうのは事變中は禁物だと云ふんです。だからその點においては伊澤多喜男と同じなんです、然し伊澤の様なあんないけ好かない人物とは違ひますよ。私は小林さんの様な人を、現状維持派として槍玉にあげたくはない、その精神は改革論者なんです。もう二三日のうちに歸京されるでせうから、歸京されたら現状維持派でない聲明をして貰ひたいもんだと思ひます』
讀『私なんか近衛内閣が出来れば、小林なんといふ人は一枚加はる人かも知れぬと思つてゐたんですが、現状維持派ぢや困りますな。まだ何か問題がありますか、なければ今日はこれで失禮ませう』

(一五、七、一七)

民政黨が解黨した 内幕をブチまける

(附けたり)

△町田總裁と永井・櫻内・櫻井らの動き



讀者『民政黨も愈々十五日に解黨する様になつたのは誠に痛快ですな。考へてみると、近衛さんといふ人は實に偉大な聲望があるんですな、とにかく五十年の歴史を持つた政黨が、近衛さんの樞密院議長辭任以來、各政黨とも解黨氣分になつて、愈々全部の政黨が茲に解黨と決つたのは全く偉いもんです』

記者『それはさうです、政黨同志ではいくら何と言つても合同も解消も出来ない。それが遂に今日の様になつたのは内外の情勢あづかつて力がありますが、近衛さんの聲望による所が大であるからで、全く偉大なものです。

然るにその近衛内閣の外交が、我々の思ふ様にゆかないのはどんなものですか、我々の主張がまちがつてゐるんでせうかね』

讀『それはさうではありません、日英開戦論は帝日の自由論壇に全然同感です、松岡さんも政黨解消で先見の明に得意になつて、打倒英國をお忘れになつたわけではないのでせうか、民政黨の解黨は、近衛さんの力といふこともあります、よく考へてみますと水井柳太郎一派の脱黨、あれで愈々ノントーさんも考へたんですね。然るに愈々民政黨解黨決定となつてから永井、櫻内、櫻井等の肚藝が、遂にノントーさんをして解消を決意させたのだといふ方もありますが、その邊の真相は如何ですかね』

記『そりや、まちがつてゐますね、愈々解黨と決定したもんですから櫻内や櫻井らが自分達の立場をつくるために、そんなことを放送させてゐるのではないですか。その證據をござらんなさい、永井達の脱黨組から四人も代議士を取りもどしたではないですか、あれを以つてみてもわかりますよ』

讀『成程さうですね、お互に示し合せてやつたことなら、そんなことをする必要はないですね、そこになると永井は大學教授風のところがあつたり、宗教信者風のところがあつて、肚の黒い芝居を打つ様なことをしませんね。また私どもの聞いたところでは、櫻内一派は町田をこの際引退させて、自分の手で解消するつもりであつたとかいはれますが、どうですか』

記『どうもそれがほんたうらしかつた様ですね、櫻井は永井とは同縣の関係もあるが、それよりは櫻内が商工大臣の時に櫻井が參與官となつて、兩方とも實業家出身ですから、相當深い因縁を作つたらしいですね。それで今度も二人で大芝居を打つたといふぢやないですか、我々はこの説を固く信じますよ』

讀『さういへばその櫻内、櫻井の大芝居がわかつたので、町田の方でもこれはいかんと思つて急に俺の手で解消すると決心し、存外早く十五日と決定したと云ふのが真相らしいですね、櫻内が近衛さんのところに永井同様屢々出入してゐながら、永井と同一行動に出なかつたのはさういふ大魂膽があつたからでしたらうね、昨日の支部長會議で櫻内に一言も口を出さぬ様、總裁側で大麻にやらせたのださうですよ、いやどうもお邪魔しました』



砂田等が鳩山救済に 策動した滑稽ばなし

(附けたり)

△久原さんの英雄的不徳の結果

讀者『愈々近衛内閣が成立してお互愉快に堪えませんが、是非共近衛公を支援しなくちやいかんです。ところが今度も阿部内閣の時の様に少数内閣主義で行かうといふらしいが、何か軍の方からでも要求があるんですかね、うまくやつて貰ひたいもんです』

記者『阿部内閣の様なヘマな事にはなりませんよ、御心配御無用です。今度の少数閣僚主義といふのは、軍部からなどの要求ではないのだと思ひます。つまり一時少数にするといふのは、新政治体制の新黨が出来なければ閣僚を全部決めるのに困難な事情もあるから、新黨の出来るまで一時少数閣僚にして置きたいといふのだらうと思ひますね』

讀『さうですか、それなら結構です。ところで政友中島派が、いまもつて解黨しないのはどう

云ふ譯でせうか。我々は今日あたり中島派では何月何日愈々解黨するといふ期日を發表するかと思つたが、どうもそれはやらないやうだが、一體どうする氣なんでせうか。久原派がやつたんだから、中島派もやつて歩調を一にしたらよささうなもんだ、久原派に對し、君の方は大丈夫かと言つて置きながら、中島派が解黨を濫つて居るのは怪しからんといふ非難がありますよ』

記『それはです、無論君の方は大丈夫かと久原派にいろ／＼言つたでせう、といふのは久原さんの事だから、何時どんな事を言ひ出すか當にならんで駄目を押したに違ひない。中島派の方が若し先に解黨したら、久原派がどうなるか解らんといふ不安が、中島派には多分にあつたんでせうね。そりや久原さんの英雄的不徳の致す處で仕方がないでせう、中島派では大政黨を解黨するんだから地方の支部に對しても色色と考へてやらねばならず、といふ様な立場からして新黨結成の日が決つてからやらう。それまでには功勞ある故人の慰靈祭をやるとか、地方の功勞者を表彰するとか色んな準備をして居るのではないですかね、たゞ早く解黨さへして仕舞へばいゝとは思つて居ないんでせう』

讀『成程それも一理ですね、近衛公としては總理になられただけ、一層新政治体制の新黨をつ

くるのに好都合となつたでせうから誠に慶賀すべき事ですね。それにしても鳩山一派が新黨に這入りたいといつて色々運動しとるさうですね、近衛さんのやる事だから大いに抱擁せねばならぬのは云ふまでもないが、然し鳩山一派の如きものは斷然入れられんですね。其轉向が當てにならず、暫らくは溫和しくしてゐても、又鳩山一流の策動をやりますからね、新黨としてはまあ一年か二年位、奴の轉向振りの態度を見てからの事ですよ』

記『全くさうですよ、ところで鳩山を此際救済しようといふので、内田信也が先般動き始めたとかいふ話ですね。満鐵の食堂あじあで活動寫眞をやつて近衛公を引張り出し、鳩山をも連れ出して、鳩山を近衛公に對し徹底的に頭を下げさせる目論見であつたとか云ふが、それは逸早く策謀が見抜かれてオチヤンになつた相ですね』

讀『そりや結構でした、この二、三日前、柳橋の柳光亭に河野一郎代議士が親分砂田重政代議士の全快祝ひと云ふので、鳩山派十五六人を招待した相です、これは砂田の力によつて近衛公に了解を求めたいといふ芝居だといふ話ですね。處が砂田は何も近衛公に信任がある譯でも何でもない、只一度か二度逢つたことがある程度だと云ふので、そんな事が役に立つかと云つて河野代議士の策を笑つてゐるものがあるんださうですね』

記『無論さうですとも、砂田に依つて鳩山を救ひ出さう、それは出来ない相談です。それは秋田清君の云ふ様に鳩山なども抱擁するがいかも知れないが、それは時期の問題ですね、まあ二三年は駄目でせう』

讀『全くさうです。時に後繼内閣組織の問題につき木戸内大臣が樞密院議長、前總理大臣を皆集めて協議したといふんですが、あゝいふ人達が皆重臣といふんでせうかね。外交で大失敗をした人でも、僅かに内閣を二ヶ月や三ヶ月しかやれなかつた人でも重臣なんでせうか、それもこれも皆政黨が一致せず、無氣力で誠實が足りないからの事ですね。殊に我々から言へば可笑しいのは御歳九十二で別荘に年がら年中引込んでる老人が、元老として内大臣からの意見を聞いたりするといふのは、どんなものですかね。國家超非常時の此の時に於て、さういつた存在はどんなものでせうか、大改革を要する時、かう云ふ方面にも大いに改革の必要がありませうなあ。まあ何にしても今度近衛公に依つて強力な新黨が出現し、愈々國家の前途にも光明がさした様な氣がして愉快ですね、お互に滅私奉公の心をもつて大いにやりませう、では今日はこれで失禮致しませうか』

—— 寫眞は砂田重政氏 —— (一五、七、一八)



丸め込まれた東京朝日と

久原・鳩山の一致團結問題

(附けたり)

△久原が聲明した内容の一句

讀者『今日の自由論壇によつて新黨問題の真相が大分判りましたよ、新黨問題では中島派が本當に早くから動いて居たんですね、處がさう云ふ事を考へずに、東京朝日新聞は例によつて久原の意を迎へて、何だか中島派の方が久原に引きずられて來た様に書いてあるぢやないですか』

記者『全くさうです、もう朝日なんか相手にするのは馬鹿らしい様な氣がして來ましたよ。あゝ事實を曲げて舞文曲筆を敢てするに至つては、沙汰の限りです』

讀『五月三十一日の東京朝日の「轉回する解黨運動」と題するあの記事を、貴方の方では何故取り上げないのですか』

記『さう／＼手が廻らんもんですから、一應はあの記事を讀んではありますがそのまゝにして置いたのです。全く難局打開の道は國內體制整備の一路あるのみとし、凡そ日本人の血と魂を持つて居る者である以上、一切の行きがかりを捨て對立を越えて一致團結國難に當らんと云つた久原總裁の決意は、その後少しも萎縮して居ない様である、と云ふのがあの社説の初めにありますね。實に滑稽ですよ、これは四月三十日の久原派黨大會に於て、久原が聲明した内容の一句で、如何にも立派な事が云つてあります。然し吾々から見ればこの久原の云ひ分はインチキだと思ふんです。それ程立派なことを云ふ久原なら、強力新黨樹立の論を爲す前に、又一切の行き掛りを捨て云々と云ふなら、民政黨などに働きかける前に、先づ不法に横車を押し切り術策を弄して掌握した偽者總裁の地位を擲ち、朝日、讀賣、中外その他の新聞を丸め込んで正統派政友會久原總裁などと云はせた、その不埒な行き掛りを捨て、中島派に合流し、先づ政友會の一致團結を實現せしめてから、氣のきいた事を云ふがいゝです』

讀『全くその通りです、さう云ふ點に朝日新聞など一言も觸れずに、久原總裁の決意を持ち上げて居るのだから、朝日新聞も餘程どうかして居ますよ』

記『さうですよ、この久原の云ひ草を如何にも熾んなことゝして、大阪朝日新聞も先月中頃でしたか社説に引用してゐたから呆れます。それから久原に一つ聴きたい事は、一切の行き掛

りを捨て對立を赴きと云ふが、それなら久原派の内部は一體どうなつて居るんでせう 鳩山 三土一派と久原とは融和出來たんでせうか、果して一致團結したでせうか。鳩山は齋藤問題で心境を根本的に變化したでせうか聞き度いもんですね』

記『ほんとですね。久原は近衛の所に行つては、鳩山等の自由主義を葬り得るは私以外にありませんよと云つて、得意がつて居ると云ふ話ぢやないですか。自分と中島君や前田君等は同じです、唯鳩山を葬る爲めに、仕方なく自分が登場したのである、と云つたのは正に事實です。さうすると久原が他に向つて、凡そ日本人の血と魂を持つて居る者である以上、一切の行き掛りを捨て云々と云ふ彼の云ひ草は、鳩山葬り問題では一體どうなるんですかね』

記『全くです、誠と云ふものを持ち合せず唯、術策と奇略に依つて次から次へと手を打つて行く久原のやり方には、結局矛盾が生じますね。それを東京朝日などがすつかり丸め込まれて無批判的に久原の味方をして變なことを書くに至つては哀れを催しますね』

讀『東京朝日も結局英國みたいなもんですな、もう老大國の降り坂でせう。もつとあの論說に就て云ひ度いんですが、一寸時間がないから又明日電話を掛けることにしませう』

記『さうですか、どうもわざわざ有難う御座りました』—寫眞は村山朝日新聞社長—(一五、六、二)

朝日新聞の嘘記事の出場所

(附けたり)

△私情のために嘘を書くとは

讀『今日の電話問答は大變痛快でした、全く東京朝日は、又復久原の爲めに動き出しましたね あの中島總裁心境の變化と云ふ記事は、例の田畑記者が書いたんでせう、細川政治部長も田畑の盲動には困るでせうな。あれは、久原と鳩山に籠絡されてゐる人だから可哀想なものです、それにしても朝日新聞こそいゝ迷惑ですね』

記『全く可哀想なもんです、私情の爲めに天下の公刊物に筆を執る人が、嘘を書かねばならぬとあつては困りますよ。一體田畑記者が、中島總裁の心境變化云々の記事を書いたのは、何か考へる處があるんでせうか』

讀『多少あるんですね。僕の友人の某記者が、中島派では二三日前の夜長老會議をやつて、久原の強力新黨提唱に合流するやうに決定したと田畑がさう云つたと云つてゐましたがねえ。處がそれが又、眞ッ赤な嘘なんです、それにはかう云ふことがあつたんです』

今東京の府會議員選舉が始まつて、もう一つ神奈川縣にも選舉がある。それで、その對策が決つたから早く總裁に相談したいと云ふので、それなら夜分でもいゝからと云ふことになり、三日ばかり前の夜リ時頃、中島邸へ東郷幹事長、田邊七六、篠原政義、久山知之の四人が行つたんださうです。それを田畑が長老會議があつた、中島も久原の様に新黨問題で動くやうになつたと、嘘八百を書き立てた譯なんです」

記『成程、さう云ふ話ださうですね。處で、國民の今日の夕刊の「潜望鏡」欄に「中島總裁の決意先づ何よりも解黨」と云ふ標題で、中島氏が新黨問題に乗り出さない理由として、自由黨が政友會に發展した當時を回顧して財界、學界の人材が先づ蹶起して政黨に働きかけて來るのでなくては、政黨のみが起つても却つて反作用を呼ぶと説いたとか云ふのだが、然し現在の政黨を自由黨のそれに比較したら、地下の先輩が激怒する、政黨の現状をしかと認識して己の無能を國民の前に陳謝すると云つた謙虚な心構へが何よりの前提であり、これを政治行動に移す時解黨が絶対前提となる處に、今次の行動が歴史的意味を持つて來たのだ、云々と書いてゐます。國民新聞は、中島氏が政黨の解黨を説かず、新黨樹立に乗り出さないと云ふのがそも／＼不都合である。財界や學界の方から政黨に働きかけて來るのを待つなんて云

ふことは、實にけしからん。今の政黨は自由黨などと比較して問題になるものか、それでゐて伊藤公が政友會を作る時自由黨に呼びかけた様に、中島政友會などがその手で今度も又、學界、財界人などが先づ動いて政黨に呼びかけて來い、などゝ高くとまつてゐるのは心得違ひも甚だしい。今の政黨は、無能を國民の前に陳謝して、先づ政黨自身が解消するがよいぢやないか。中島などもその無能を政黨總裁として國民の前に陳謝する意味に於て、政黨を解消することが絶対に必要ぢやないかと、中島總裁を叱りつけた心算で居るのでせう。

成程、國民のその記事の最後に、先づ解黨！中島氏は自己の利害打算で行動しない限り、一度決意した通り解黨に邁進すべきだ。と結んでゐるのを見ても、國民新聞の記者は、中島は自分が總裁に一日でも長くなつて居りたいなどと云ふ自己の利害を離れて、早く解黨に邁進せよと叱つてゐる心算でゐるのです。その證據には、この國民の一文の始めの方に、新黨論の急先鋒かと思はれた中島知久平氏が總裁就任でいゝ氣になつて、一寸逡巡したかの様に見えたが、これとても大勢に抗し得ず聖戰貫徹議員聯盟の決議に、聽従することになつたと書いてゐるのを以て見ても、中島が總裁の地位を捨てるのを好まないと云ふ風に見えるのですが、實に滑稽至極で、よくもよくもこんな馬鹿げた記事が書けたものだと思ひます」

讀『いや、全く驚きましたね。今更中島の事を多く云はんでもいゝと思ふが、解黨と云ふなら國民の記者は何故久原にそれを迫らないのでせうかね。久原こそ國家の爲めに必要とあらば解黨も辭せずと大言壯語し、強力政黨結成運動に踊り出してゐるのぢやないですか。だから國民の記者は中島に解黨を迫る前に、先づ以て、久原になぜ解黨しないのかと迫つたらよささうなものですかね。全體、中島は解黨するなんて云つて居らないのだから、その中島に解黨せよと云ふよりは久原に對して痛烈に迫るがいゝぢやないですかね。此の點は、流石に政界往來の木舎社長は偉いもので、久原に向つて、何故眞つ先きに解黨斷行をせぬかと迫つてゐるとか云ふ話ぢやないですか』

記『ご尤です、本當に久原こそ解黨してまる裸になつて新黨運動に熱中すればいゝんですよ。朝日の記者なども、この點には全然觸れないですね。唯中島が政黨が自ら動くと言ふ新黨が出來ないと云ふ態度を捨て、久原式に動くやうに心境が變化したなどゝ書いてあるが、實に仕様のない朝日新聞です。それに國民の記者などは中島氏の氣持を全然履違へて解釋してゐますね。中島が政黨が先きに動いて行かうと云ふのは、何もたかぶつて云つてゐるのではない財界、學界が動いて政黨に呼びかけて來い、さうすりや政黨が動くと言ふ様な考へで、政黨

が先に動いぢやいかんと云ふのぢやないのですからね。中島は國民の記者の云ふ様に、政黨の不評判と無能力を自覺してゐるからこそ、さう云ふ政黨が先に動いたのでは却つていけないそこで、政黨は動かずに他の方面から動いて機が熟し、向ふからさあ吾々はかうしてやるから君方も來ないか、と云ふ事になつてから出掛ける方が學界、財界の感情をよくするであらうと云ふ意味に於て、中島は動かずに居る。政黨が早く解消すると、ほら、政黨が新黨問題に乗り出したと云ふ様な事になつて、學界、財界、その他の方面が出なくなるからと云ふのぢやないですか。そこが國民の記者に判らないとは、お氣の毒みたいなんですよ。讀『全くさうですよ。中島が總裁になつて居りたいからいゝ氣になつて解黨を躊躇してゐるなどゝ云ふに至つては、全くお話にならないですね。そんな事は久原にこそ向つて云ひ得ることで、中島は總裁になる時非常に辭退したのだが、それでは後の拾収がつかんと云ふのでなつたんでしたね。久原の様に、總裁にはならんらんと云つておいて、中島と鳩山の對立に乗じて出て來た様なのは、大分譯が違ふぢやないですか。まあ、今日はこの邊でどうですか、この問題はこれくらゐで、國民の記者は久原に即時解黨を迫つたらいゝでせうと云ふ結論にして……又、電話をかけます、では左様なら』

『週刊朝日』のウソ八百記事を繞りて

(附けたり)

△近衛公と風見と新黨問題の喰違ひ

△中島と風見と船田中の行違ひ

△民政黨を飛出してからの風見

讀『十一日發行の「週刊朝日」に、中島政友會總裁のことを糞味噲に書いてあつたが、なぜア
ナタの方で反駁を加へないんですか』

記『あれですか、あんまり馬鹿馬鹿しいから相手にせず居るんです。「東京朝日新聞」が、政
友中島派の解黨問題を繞つて出鱈目を書きなぐつたについては、當時充分反駁を加へて置い
たから、私達の方としてはもうこの上相手にする氣になれないです。あれ程吾々の方で反駁
を加へてあるんだから、若し「朝日新聞」が人間の集團であるんなら、あんな馬鹿げた記事
をまたまた掲載は出来ない筈ですがね』

讀『それはさうですなあ、僕はよく事情が解つてゐます。「週刊朝日」の「土壇場の既成政黨」

といふあの記事が全部ウソとは申しませんが、どうして中島に關する限り特にあんな嘘を書
くんですかね』

記『それは東京朝日に居る田畑と云ふ政治記者が、最初鳩山に買収され、後久原に買収されて
あんな風になつたんですねえ。買収と云つても必ずしも金ばかりでない、鳩山にしても久原
にしても云ふ可からざることも云つて、新聞記者に材料を與へたりしますからそれで新聞記
者は喜ぶのですよ。中島は斷じてそんなことをしないから、新聞記者に受けが悪いんです。

「朝日」では記者の書く記事に就ては絶対に記者に責任を持たして、記者の書くことを社で
は干渉せぬことになつてゐるんですね。だから實に危険千萬な新聞で、低劣な記者に依つて
朝日は自由になる譯です。社長とか主筆とか云ふやうなものは記事の責任を持たん譯なん
すなあ、たゞ新聞が賣れて利益が上れば、彼等は満足してゐる譯です』

讀『困つた存在ですね、今度新體制になればさういふ新聞のやり口に對しては、根本的に改革
を加へなくてはならぬです、政黨の改革も重大ですが言論界の革正更に重大ではないですか
それはそれとして、あの「週刊朝日」の記事の中で更めて僕たちの是非聞きたい問題があり
ますよ。七月の十七日に、中島總裁から風見章氏の處に使ひをやつて、近衛公の意向を聴い

たといふ記事が出てゐますねえ、あれは本當でせうか』

記『あの事に就ては、當時「帝日の電話問答」で嘘だといふことを書いて置いた筈ですが、全體中島總裁なるものが、なんで風見氏に對し近衛公の意向を聴いたりするやうな馬鹿げたことをするのですか。

風見は近衛陣營の重要人物に違ひない、けれども新黨問題に就ては、風見よりは中島の方が近衛公から眞實な決意を聴いて居るでせう。五月十八日に中島は近衛に會つて愈々近衛の決意を聴いて居るんですよ、そして二十日から近衛公が風見其他の近衛陣營の人々に新體制へ乗出す決意をしたといふ風に確信される節がありますよ。中島は第一次近衛内閣の閣僚の時から、近衛の信頼を受けてゐるんですよ。

その當時、中島が漢口まで行かねばならない、また廣東も早く攻略しなければならぬと主張したが、當時は閣議でも問題にされなかつた。然るに遂に中島の主張通りになつたといふので、近衛公は其後戦局は中島君の云ふ通りになつて來た、政黨の中に人物を求むれば中島が第一だと言つたと云ふ事實がありますよ。だから、中島がなにを苦しんで風見の所に、近衛公の意向はどうだらうかなんて馬鹿げたことを使者をもつて聴く必要がありますか。そんなことを

なことを「朝日」の記者が書くなんて、イヤハヤ滑稽とも何んとも批評がありませんよ』

讀『さうでせうね、常識をもつてしても中島が風見の所に使をやつて、近衛公の意向をたしかめるなんて、そんな馬鹿なことはありませんからね。成程「朝日」の田畑記者は狂人みたいですよなあ、どうしてさういふものを「朝日新聞」が許して置くんでしょうか』

記『そこが前にも話したやうに、「朝日」なんかたゞ新聞が營業として成立つて行けば満足してゐるんだから、問題ぢやありません。

それにしても風見氏が、「週刊朝日」に書いてあるやうな意見を持つてゐることは、それは事實ですね。近衛公がどうかこうとか、近衛公を問題にして政黨が進退を決めるやうではしようがない、近衛公の爲めでなく國家の爲めにやるのでなくてはならぬ、政黨が國家の爲めに解消する必要があると見れば、解消すればよいではないかと云つて居るんですね。風見さんのお説は一應御尤もだが、然し再考すると御尤もばかりと云つて居られませんね。

風見さんに云はせると、俺は民政黨から安達や中野と一緒に飛出した、さうして更らに無所屬になつた。その時、俺は近衛公のことなどは眼中に置いて居なかつた。だから俺のやうに皆んなが無所屬になれば、政黨は自然解消して、皆な勝手な行動が取れるんぢやないかと

云ふんですよ。然しそれは、風見さんのやうに、自分だけ獨りで勝手な行動を取れば簡単ですがね』

讀『ちよつと僕にこれから云はして貰ひたいですが。全くその通りで、政黨が全體的に解消しようかどうかといふ場合、さう簡単に行くものぢやないですよ。解黨するのはいゝとして、した後は一體どうなるかといふ、先きの見透しを考へるのは當然です。』

然るに近衛公が、各方面からの勸説もありまた自分も決心して、新體制、新黨樹立に乗り出すといふことは、政黨の進退を決する上に、實際問題として重大な影響あるのだから、近衛公を眼中に置いて政黨解消の時期などを考へるのは、當然じやありませんか。さうすることが政黨の爲めであり、國家の爲めとなるのではないですか、どうなるか譯が解らず、政黨の解消を斷行せよといふのは無理ですな。』

解消はしたが何にも新しい政黨は生まれん、中心點が出来ないといふことでは、どうにもしやうがない、だから近衛公の蹶起に就いての模様を、政黨側が聴き度いといふことは當然ですな』

記『全くさうです、民政黨のやうに何時までも態度を明らかにせず、永井一派の脱黨騒ぎがあ

り、全國支部の動搖があり、仕方なくセツチン詰めにされて解黨したなんてのは、實に醜惡の限りですがね。』

大體に於て近衛公の決意があり、既に樞密院議長の重職を辭して新體制の樹立に力を注ぐと云つた以上、この上尙ほ近衛公が愈々本氣にやるだらうかどうかと、政黨側がグズグズするのはそれはよくないが、然し近衛公の蹶起如何を考へて政黨解消を決めようといふのは當然のことですな。近衛公のことなどは考へずに、政黨は政黨として國家の立場から考へて直ちに解消したらいゝぢやないか、近衛公が死んだらどうするか、なんてことを云ふ風見さんの申し分は感心しませんな。實際問題としてそんな議論は、餘りに實際を無視する青二才論と思はれますなあ。』

第一無所屬になつた風見さんが、議會へどれ程の働きをなしましたかね、何にもなし得なかつたぢやないですか。まだ民政黨に居るうちは演説の一つもしたが、飛出して安達と一緒になつて、ひと議會で早そこを飛出すといふのでは、あんまり感服した態度ではないですなあ。それで無所屬になつて、なんといふこともなかつたですなあ』

讀『全くさうですな、近衛公を當てに政黨が動かすに國家本位に動いたらいゝぢやないかと云